

貧困プロフィール

ルワンダ

2012 年度版

独立行政法人 国際協力機構（JICA）

当資料は政府・国際機関の報告書・統計・資料からの抜粋を邦訳し、執務参考資料として取り纏めたものであり、JICA の見解を示すものではありません。転載・引用に際しては、直接、出典元から行い、当資料からの転載・引用は行わないでください。

目次

I. ルワンダの貧困状況と概観	1
II. 貧困削減のための政策枠組み	2
1. 貧困削減戦略及び目標の現状	2
(1) VISION 2020	2
(2) 貧困削減戦略文書	2
(3) 目標の現状	5
2. 政府による指定貧困地域・集団	7
III. 所得貧困による分析	8
1. 貧困線とデータ	8
2. 貧困状況-貧困率、貧困ギャップ率、GINI 係数	8
(1) 貧困率	8
(2) 貧困ギャップ率	11
(3) ジニ係数	12
IV. 所得貧困以外による分析	13
1. 人間開発指標のトレンド、地域・国際比較	13
2. MDG 達成状況	16
(1) 目標 1：極度の貧困と飢餓の撲滅	18
(2) 目標 2：初等教育の完全普及の達成	19
(3) 目標 3：男女平等推進と女性の地位向上	20
(4) 目標 4：乳幼児死亡率の削減	20
(5) 目標 5：妊産婦の健康の改善	21
(6) 目標 6：HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延阻止	23
(7) 目標 7：環境の持続可能性確保	26
(8) 目標 8：開発のためのグローバルなパートナーシップの推進	28
3. 食糧安全保障・脆弱性による分析	29
(1) 食糧安全保障の状況	29
(2) 食糧安全保障状況と土壌の関係	32
(3) 食糧安全保障関連の政策	34
V. 社会的属性、特性と貧困関連分析	35
1. 社会的被排除グループと貧困指標の関わり	35
(1) 女性	35
(2) 若者	38
2. その他の要因と貧困の関わり	42

(1) 生活水準の向上.....	42
(2) 世帯規模の縮小.....	43
VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因.....	46
1. 短期・長期的要因、リスクとショック（経済、社会、環境、紛争等）.....	46
(1) 送金.....	46
(2) 農業生産高の増加.....	48
(3) 紛争.....	49
(4) 財政.....	49
2. 国特有の事項.....	50
(1) 地理.....	50
(2) 市場の状況とインフラ.....	52
VII. 重点支援分野と貧困の関わり.....	53
1. 産業基盤整備.....	53
(1) 電気.....	53
(2) 金融へのアクセス.....	56
2. 農業.....	60
(1) 生産性の増加.....	60
(2) 農産品の販売.....	61
3. 社会サービス.....	64
(1) 保健施設へのアクセス.....	64
(2) 給水・衛生施設.....	67
4. 人材育成.....	68
(1) 職業訓練.....	68
(2) 識字率.....	69
(3) コンピュータ・リテラシー.....	70
添付 1. 参考文献リスト.....	73
添付 2. 主要な情報源リスト.....	78

図表・地図目次

図表 1 主要指標一覧（2000-2010年）.....	i
図表 2 貧困人口の割合及び人数（2000年、2005年、2010年）.....	iii
図表 3 ルワンダの貧困関連指数（2000年、2005年、2010年）.....	iii
図表 4 ジニ係数（2000年、2005年、2010年）.....	v
図表 5 ルワンダとその他地域のHDIの推移比較（1980 - 2011年）.....	v
図表 6 ルワンダのMDG達成状況（1990年、2008年）.....	vi
図表 7 EDRSの2012年までの目標.....	4

図表 8	EDPRS のレビュー（2006 年、2010 年）	6
図表 9	脆弱集団の人口割合、貧困状況及び所在（2000 年、2001 年）	7
図表 10	貧困人口の割合及び人数（2000 年、2005 年、2010 年）	9
図表 11	最貧困人口の割合（2000 年、2005 年、2010 年）	10
図表 12	収入源別世帯の貧困割合（2005 年、2010 年）	11
図表 13	ルワンダの貧困関連指数（2000 年、2005 年、2010 年）	12
図表 14	ジニ係数（2000 年、2005 年、2010 年）	12
図表 15	ルワンダにおける HDI 推移（1980-2011 年）	13
図表 16	ルワンダにおける HDI の動向（1980 - 2011 年）	14
図表 17	ルワンダの HDI の比較（2011 年）	14
図表 18	ルワンダとその他地域の HDI の推移比較（1980 - 2011 年）	15
図表 19	ルワンダの不平等調整済み人間開発指数の比較（2011 年）	16
図表 20	ルワンダの MDG 達成状況（1990 年、2008 年）	17
図表 21	小学校修了率の推移	19
図表 22	男女・年齢別職業割合（2011 年）	20
図表 23	子供の死亡率（2010 年）	21
図表 24	出産時の介助の種類（2010 年）	22
図表 25	妊産婦死亡率の推計（2010 年）	23
図表 26	HIV 感染率（男女別、2010 年）	24
図表 27	子供のマラリア感染状況（2010 年）	25
図表 28	安全な飲料水へのアクセスがある世帯割合（2010 年）	27
図表 29	衛生施設へのアクセス（世帯割合、2005 年、2011 年）	28
図表 30	ルワンダにおける ICT の状況（2010 年、2011 年、2012 年）	29
図表 31	保健施設・市場からの距離と食料安全保障状況（2012 年）	32
図表 32	100 人あたりの女性に占める男性の割合（EICV3）	35
図表 33	脆弱層が世帯主の世帯割合（2005 年、2011 年）	36
図表 34	世帯の脆弱性（2005 年、2011 年）	37
図表 35	性別・世帯別の貧困レベル（2011 年）	37
図表 36	世帯主の不在理由（世帯主種類別、2011 年）	38
図表 37	過去 12 カ月で世帯主が不在にした期間（2011 年）	38
図表 38	貧困線未満の若者の割合（2011 年）	39
図表 39	経済活動及び失業率（性別・年齢別）（2011 年）	39
図表 40	1 週間の就労時間（年齢グループ別）	40
図表 41	若者の賃金労働（セクター別）	41
図表 42	セクター別の貧困率の状況（2011 年）	41
図表 43	生活水準を示す指標の推移（2005 年、2011 年）	43

図表 44	世帯規模の比較（2005 年、2011 年）	44
図表 45	年齢別出生率の傾向（1992、2000、2005、2007、2010 年）	45
図表 46	収入源別世帯の貧困割合（2005 年、2011 年）（再掲）	46
図表 47	ルワンダへの海外送金額推移（2000 年-2012 年）（100 万米ドル、名目）	47
図表 48	低開発途上国における送金経路上位（2010 年）	48
図表 49	ルワンダの援助依存度（2000 年-2011 年）（IMF）	50
図表 50	電気への世帯のアクセス（消費層別、2005 年、2011 年）	53
図表 51	照明のエネルギー使用状況（2011 年）	55
図表 52	金融へのアクセス（世帯別：2005 年、2011 年）	57
図表 53	貸付をした機関や団体の割合（地方別）（2005 年、2011 年）	58
図表 54	貯蓄口座のある世帯数	59
図表 55	農業及び牧畜に関する支援を受けた世帯割合（2012 年）	61
図表 56	収穫の半分超を販売する世帯割合（2005 年、2011 年）	62
図表 57	収穫した農産物に占める販売農産物の割合（2011 年、2005 年）	63
図表 58	保健センターへのアクセスにかかる平均の時間	64
図表 59	過去 2 週間で医療診断を受けた人々の属性（2011 年）	65
図表 60	保健施設へのアクセス（2010 年）	67
図表 61	14 歳以上の職業訓練の種類	68
図表 62	14 歳以上の人口で過去 12 カ月に短期職業訓練を受けた割合	69
図表 63	識字率（15-24 歳、15 歳以上）	70
図表 64	ICT セクターの概要	71
図表 65	ルワンダにおけるコンピュータ・リテラシー	72
地図 1	貧困の分布図（2010 年）	iv
地図 2	ルワンダ全土地図	viii
地図 3	教育を受けていない世帯主の世帯数の分布（2012 年）	30
地図 4	不十分な食料消費状況世帯の分布（2012 年）	31
地図 5	土壌浸食の可能性及び土地の肥沃さ	33
地図 6	貧困の分布図（2010 年）（再掲）	51

貧困関連用語解説¹

(1) 貧困指標

用語	解説
絶対的貧困 Absolute Poverty	ある最低必要条件の基準が満たされていない状態を示す。一般的には、人間として生存するために最低限必要とされる食糧と食糧以外のものが購入できるだけの所得または支出水準(=貧困線)に達していない状態を絶対的貧困と定義する。
相対的貧困 Relative Poverty	ある地域社会の大多数よりも貧しい状態を示す。例えば所得が地域内の下位10%に属する人は、衣食住が満たされていても相対的貧困者となる。また中所得国以上では、人間の生存の為に最低限必要な食糧と食糧以外の日常品ではなく、その社会で一般的な生活を送るために必要な収入・支出水準を元に相対的貧困線を設定する国もある。OECD などでは中位可処分所得の50%の水準を高所得国の相対的貧困線と定義している。
貧困線 Poverty Line	所得または支出水準が最低限の必要を満たす水準が貧困線であり、それに達しない層(=貧困者)が全人口に占める割合を貧困率・または指数として示す。これにより表される貧困を経済的貧困、所得貧困とも言う。
国際貧困線 International Poverty Line	MDGsを機に、国際的な絶対的貧困線として「1日1ドル未満」が設定された。国際貧困線以下の人口が世界の絶対的貧困者の数であり、その割合が国際貧困率として算出される。 1993年購買力平価での最貧15か国の貧困線の平均が月32.74米ドル(一日1.08米ドル)であったことから、MDGs指標として一日1ドルの指標が採用された。最貧国の国別貧困線の各国の物価は異なり、同じ1ドルで購入できるものには大差があるため、購買力平価(Purchasing Power Parity: PPP)を用いて、米国での1ドルの購買力に相当するように調整されている。2005年以降の貧困線は物価上昇などを加味し、2008年購買力平価における最貧15か国の貧困線の平均から、一日1.25ドルが国際比較のための絶対貧困線とされている ² 。
国別貧困線 National Poverty Line	国ごとの実情を反映し、各国政府が家計調査のデータなどに基づいて独自に設定したのが国別貧困線である。国内における物価の差異に対応するため、都市、地方、あるいは地域ごとに設定された異なる貧困線を元に、統計的に国別貧困線を算出する場合もある。多くの発展途上国では、下記のベーシックニーズ貧困線が国別貧困線とされている ³ 。下記の食糧貧困線とベーシックニーズ貧困線は、国によりUpper/Lower Poverty Lineや、Poverty Line/Extreme Poverty Lineなど様々な表現があるため、定義によっていずれであるかを判断する必要がある。
食糧貧困線 Food Poverty Line	人間が生存していく上で、最低限必要なエネルギーを摂取できる支出レベルを算出したもの。摂取エネルギーは、FAOが提唱する成人の一日に必要なカロリー(2100カロリー)を基準に、国ごとに設定される場合が多い。そのカロリーを摂取するための基本的な食糧の種類や構成は国ごとに設定され、都市・地方、あるいは地域の差異も配慮される場合がある。
ベーシックニーズ貧困線	ベーシックニーズ費用手法(The Cost of Basic Needs Method: CBN)を用い、食

¹ 主に国際協力総合研修所 2008年3月『指標から国を見る～マクロ経済指標、貧困指標、ガバナンス指標の見方～』

(http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/pdf/200803_aid02.pdf)、世界銀行(2009) Measuring Poverty and Inequality (<http://go.worldbank.org/4WJH9JQ350>) を元に作成。

² World Bank (2008) Dollar a Day Revisited (<http://go.worldbank.org/SMQ2FCW4J0>)

³ World Bank (2012) Poverty Measurement Methodology by Country (<http://go.worldbank.org/OP02MEZ880>)

用語	解説
CBN/Basic Needs Poverty Line	糧食貧困線に非食糧、すなわち衣類、住居、医療などのための最低限の支出金額を足して算出される。
非食糧貧困線 Non Food Poverty Line	非食糧ニーズの種類や構成は国ごとに設定され、都市・地方、あるいは地域の差異も配慮される場合も多い。また、所得貧困 (Income Poverty) という表現がされることが多いが、途上国での貧困率の算出に使用されるのはほとんどの場合支出に関するデータである。
貧困ギャップ率・指数 Poverty Gap Ratio・Index、P ₁	貧困率が貧困の発生頻度を表すのに対し、貧困ギャップ率は貧困の平均的「深さ (depth)」を表すために用いられる。通常、国別貧困率を元に算出される。貧困ギャップ率は、国民の収入または支出が貧困線に対して何パーセント下回っているか(乖離しているか)を、貧困線以上の人々の乖離率をゼロとして計算した数値である ⁴ 。貧困ギャップ率に貧困線と人口を乗じた数字が、貧困削減のための最低限の必要な費用であるとされ、政策上の目安となる。
二乗貧困ギャップ率・指数 Squared Poverty Gap Ratio・Index / Poverty Severity Ratio・Index、P ₂	貧困の極端な「深刻さ (severity)」を表すために用いられる。通常国別貧困率を元に算出される。二乗貧困ギャップ率は、貧困線からの乖離率を二乗したもので、乖離率が高ければ(貧困の深刻度が高い)、より大きく数値に反映される。

(2) 不平等指数

用語	解説
ジニ係数・指数 Gini Coefficient, Gini Index	国や地域の所得(または消費)の平等・不平等度を示す指標。完全に平等な社会では 0 になり、完全に不平等な社会では1となる。なお、世界銀行の統計などではパーセンテージ表示のジニ指数 (Gini Index) を用いており、完全に不平等な社会を 100 で表す。通常 30 から 50 の範囲になることが多く、40 を超えると社会が不安定になると一般的に言われている。
所得階層別の所得シェア Percentage Share of Income or Consumption	ジニ係数を算出する基礎となるもの。人口を所得水準で階層分類し(五分位または十分位)、国全体の所得のうちそれぞれの階層が占める割合を%で表示。一般的に、五分位の最下層 20%が全体の 6-10%の消費を行い、最上位 20%が全体の 35-50%の消費を行っている場合が多い。

(3) 開発指数

用語	解説
人間開発指数 Human Development Index: HDI ⁵	人間開発の 3 つの基本的側面(①寿命、②知識、③生活水準)を総合して、各国の達成度を測定、比較するための指数。経済指標のみでは表せない国の開発の度合いを表す尺度として、UNDP が 1990 年に刊行した『人間開発報告 (Human Development Report)』の中で用い各国のランキングを行ったことに始まる。算出方法は、①平均寿命指数、②教育指数(成人識字率と初等・中等・高等教育総就学率)、③GDP指数(1人当たり実質 GDP (PPP))について、それぞれの最大値を 1、最小値を 0 として算出し、3 つの平均値をとる。 2010 年より HDI の派生指標として不平等調整済み HDI (IHDI) が導入されている。また、それまで発表されていたジェンダー開発指数 (GDI) とジェンダーエンパワメ

⁴ World Bank (2009). Handbook on poverty and inequality (<http://issuu.com/world.bank.publications/docs/9780821376133>.)

⁵ HDI の詳細については UNDP HDI 公式ウェブサイト (<http://hdr.undp.org/en/data/about/>)。一部の情報は UNDP 東京事務所から日本語でも入手可能。 <http://www.undp.or.jp/hdr/global/>

用語	解説
	ント指数 (GEM) に代わってジェンダー不平等指数 (GII) が、人間貧困指数 (HPI) に代わって多次元貧困指数 (MPI) が導入された。

(4) その他

用語	解説
ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals:MDGs) ⁶	2000年9月、ニューヨークの国連本部で開催された国連ミレニアム・サミットに参加した147の国家元首を含む189の国連加盟国代表は、21世紀の国際社会の目標として「国連ミレニアム宣言」を採択した。この宣言と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットでの開発目標をまとめたものがMDGsである。MDGsは国際社会の課題に対して、2015年までの達成を目指す期限付きの8つの目標、21のターゲット、60の指標を掲げている。貧困に関する様々な経済的・非経済的指標が取り上げられているが、その第1目標が、「一日1.0ドルの未満(2005年以降は1.25ドル)の絶対的貧困線以下の人口を半減する」という目標である。
脆弱度分析と地図化 (Vulnerability Analysis and Mapping: VAM) ⁷	食糧安全保障の観点から、「人々が最低限の厚生水準を維持できないほど、食糧へのアクセスや食糧消費が急速に低下する可能性」を「脆弱性」と定義し、地域別の脆弱度を地図化したものがVAMである。WFPが緊急食糧援助を行う際、援助を最も必要とする人々や地域を選定し、効果的な支援を行うために開発した。VAMは、包括的食糧安全保障・脆弱度分析(CFSVA)、食糧安全保障モニタリング・システム、GISデータを用いた空間分析と地図化の3つの活動からなる。CFSVAでは、社会政治環境、地理・気象条件、マクロ経済、教育・保健水準、農業、環境などの観点から食糧安全保障と脆弱性に影響を与える要素を包括的に分析する。既存のデータに加え、家計調査や市場価格調査などを組み合わせ、「どのような社会グループ(生計活動や食糧入手手段)が影響を受けやすいか」などの分析も行う。

⁶ MDGについては国連MDG公式ウェブサイト。(<http://unstats.un.org/unsd/mdg/default.aspx>) 一部の情報については国連広報センター(東京)からも入手可能。(<http://unic.or.jp/mdg/index.html>)

⁷ VAMに関してはWFP VAMウェブサイト(<http://www.wfp.org/food-security>)

略語表

略語	正式名称	日本語名
CFVAS	Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey	包括的食料保障および脆弱性分析及び栄養調査
CIP	Crop Intensification Programme	作物強化プログラム
EAC	East African Community	東アフリカ共同体
EDPRS	Economic Development and Poverty Reduction Strategy	経済開発貧困削減戦略
EICV	Enquête Intégrale sur les Conditions de Vie des Ménages	総合世帯状況調査
FAO	Food and Agriculture Organization	国連食糧農業機関
GDP	Gross Domestic Product	国内総生産
HDI	Human Development Indicator	人間開発指数
HIV/AIDS	Human Immunodeficiency Virus/ Acquired Immune Deficiency Syndrome	免疫不全ウイルス/後天性免疫不全症候群
ICT	Information and Communications Technology	情報通信技術
MDG	Millennium Development Goal	ミレニアム開発目標
NAP	National Agricultural Policy	国家農業政策
NICI	National Information Communication Infrastructure	国家 ICT 戦略計画
NISR	National Institute of Statistics of Rwanda	統計局
RPF	Rwanda Patriotic Front	ルワンダ愛国戦線
SPTA	Strategic Plan for the Transformation of Agriculture	農業転換戦略計画
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
WFP	World Food Programme	国連世界食糧計画

図表 1 主要指標一覧 (2000-2010 年)

主要指標一覧 【ルワンダ】						
	指標項目	2000年	2008年	2009年	2010年	2010年の地域平均値
社会指標等	地表面積(1000km ²)	26	26	26	26	n.a.
	人口(百万人)	8.1	10.0	10.3	10.6	863.9
	人口増加率(%)	6.6	3.0	3.0	3.0	3.7
	出生時平均余命(歳)	47	54	55	55	54
	妊産婦死亡率(/10万人)	840	n.a.	n.a.	340	500
	乳児死亡率(/1000人)	108.8	50.2	45.6	41.5	71.3
	一人当たりカロリー摂取量(kcal/1日)*1	1,867	2,065	2,188	n.a.	n.a.
	初等教育総就学率(男)(%)	105.7	140.8	141.9	141.1	103.2
	初等教育総就学率(女)(%)	102.5	144.4	145.2	144.0	95.8
	中等教育総就学率(男)(%)	11.4	23.3	27.3	31.9	43.5
	中等教育総就学率(女)(%)	10.8	21.1	26.0	32.4	35.6
	高等教育総就学率(%)	1.3	4.0	4.8	5.5	6.8
	成人識字率(15歳以上の人口の内: %)	64.9	n.a.	70.7	n.a.	62.6
	絶対的貧困水準(1日1.25 \$ 以下の人口比: %)	74.6	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
失業率(%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	
経済指標	GDP(百万USドル)	1,735	4,712	5,253	5,624	1,117,881
	一人当たりGNI(USドル)	250	430	480	520	1,175
	実質GDP成長率(%)	8.1	11.2	4.1	7.2	5.0
	産業構造(対GDP比: %)					
	農業	37.2	32.4	33.9	32.2	11.2
	工業	13.6	14.8	14.4	15.0	30.4
	サービス業	49.2	52.8	51.6	52.8	58.4
	産業別成長率(%)					
	農業	6.8	n.a.	n.a.	n.a.	4.3
	工業	1.6	n.a.	n.a.	n.a.	5.0
	サービス業	12.3	n.a.	n.a.	n.a.	3.7
	総資本形成率(対GDP比: %)	18.3	22.7	21.6	21.0	20.5
	貯蓄率(対GDP比: %)	1.3	6.9	4.2	1.2	16.8
	消費者物価上昇率(インフレ: %)	3.9	15.4	10.4	2.3	4.5
	財政収支(対GDP比: %)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	中央政府債務残高(対GDP比: %)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	貿易収支(対GDP比: %)	-17.0	-15.8	-17.4	-19.8	-2.7
	経常収支(対GDP比: %)	-5.4	-5.4	-7.3	-7.5	n.a.
	外国直接投資純流入額(百万ドル)	8	103	119	42	26,093
	対外債務残高(対GNI比: %)	73.9	14.2	14.3	14.2	n.a.
DSR(対外債務返済比率: %)	25.2	2.1	2.1	2.3	n.a.	
総外貨準備高(輸入支払い可能月数)	5.1	4.9	5.8	5.7	5.3	
総外貨準備高(百万ドル)	191	596	743	813	163,563	
名目対ドル為替レート*2 (Francs per US Dollar: Period Average)	389.70	546.85	568.28	583.13	n.a.	
政治指標	政治体制: 共和制					
	憲法: 2003年6月4日発効					
	元首: 大統領。ポール・カガメ(Paul Kagame)。直接選挙制。任期7年。2000年4月22日暫定政府の大統領に就任、03年9月12日正式就任、10年9月6日再任。2期まで					
	議会: 二院制。下院80議席(任期5年)と上院26議席(任期8年)					
	内閣: 大統領が任命。首相 ピエール・ダミアン・ハムムレミ(Pierre Damien HABUMUREMI)。2011年10月7日発足					
出典 World Development Indicators Online (September 2012) World Bank						
*1 FAO Food Balance Sheets (June 2012) FAOSTAT Homepage						
*2 International Financial Statistics Online (October 2012) IMF						
*3 世界年鑑 2012 共同通信社						
注 ●地域平均値はサブサハラ・アフリカの数値(地域分類は別添参照)						
●「人口」、「GDP」、「外国直接投資純流入額」及び「総外貨準備高」の「2010年の地域平均値」においては、地域の総数を示す						
●妊産婦死亡率の数値はWHO・ユニセフ・国連人口基金(UNFPA)の評価を反映した推定値						
●総就学率は、学齢人口に占める就学者総数(年齢を問わない)の割合であるため、数値が100を超えることがある						

⁸ JICA 研究所にて年 3 回改定。 <https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/shihyo-p.html> (2013/02/27 アクセス)

中央政府歳入・歳出【ルワンダ】

	2006/07年	2007/08年	2008/09年	2008/09年		対ドルレート
	(十億のウガ・フワン)	(十億のウガ・フワン)	(十億のウガ・フワン)	(百万US\$)*	対GDP比	
歳入+贈与受取額	388.0	518.2	670.7	1,226.5	24.3%	546.85
歳入	233.2	290.3	413.0	755.2	14.9%	
租税収入	217.6	272.4	361.4	660.9	13.1%	
非税収入	15.7	17.8	51.7	94.5	1.9%	
贈与受取額	154.8	227.9	257.7	471.2	9.3%	
歳出+純貸付額	414.2	521.8	731.2	1,337.1	26.4%	GDP(現地通貨) 2,765
歳出	398.3	537.2	708.3	1,295.2	25.6%	
経常歳出	266.5	349.0	401.7	734.6	14.5%	
人件費	71.5	76.3	90.8	166.0	3.3%	
財・サービス	66.4	81.6	103.2	188.7	3.7%	
利払い	12.8	13.6	11.4	20.8	0.4%	
移転支出	82.4	121.8	141.6	258.9	5.1%	
その他	33.5	55.7	54.7	100.0	2.0%	
資本歳出	131.8	188.2	306.6	560.7	11.1%	
純貸付額	15.9	-15.4	22.9	41.9	0.8%	
財政収支	-26.1	-3.6	-60.5	-110.6	-2.2%	

歳出内訳(目的別分類)【ルワンダ】

	2006/07年	2007/08年	2008/09年		2008/09年	
	(十億のウガ・フワン)	(十億のウガ・フワン)	(十億のウガ・フワン)	内訳	(百万US\$)*	対GDP比
歳出	398.3	537.2	708.3	100.0%	1,295.2	25.6%
一般サービス	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
国防	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
公安	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
経済関連	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
環境保全	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
住宅・生活関連施設	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
保健・医療	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
レクリエーション・文化	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
教育	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
社会保障・福祉	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.

会計年度は7月～6月
*: 対ドル換算レートはOfficial Rate, Period Average 出典はInternational Financial Statistics (Online) October 2012 IMF
出典 IMF Country Report No.11/19 January 2011 IMF

対ルワンダ JICA 事業実績

(単位: 億円)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	累計
円借款(承諾額)	-	-	-	-	46.49
(実行額)	-	-	-	-	
無償資金協力	9.70	14.81	26.44	0.80	
技術協力	8.03	8.64	10.00	12.80	81.25
(うち機材供与)	0.52	0.68	0.32	1.10	4.02

対ルワンダ JICA 技術協力人数実績

(単位: 人)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	累計
研修員受入	106	92	71	110	778
専門家派遣	17	41	79	79	283
調査団派遣	11	26	25	25	365
協力隊派遣	13	17	29	17	157
その他ボランティア	1	1	1	0	4

注: 年の区切りは日本の会計年度(4月～3月)。無償は当年度供与限度額(JICA実施監理事件)
出典: JICA 事業実績

対ルワンダ ODA 実績

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	政府貸付等	無償資金協力	技術協力	合計
2006年	-	8.93	3.81	12.74
2007年	-	13.96	5.58	19.53
2008年	-	10.26	7.49	17.75
2009年	-	12.70	8.64	21.34
2010年	-	11.01	11.81	22.82
累計	5.53	215.56	57.71	278.75

《DAC 諸国・国際機関》

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2007年	英国 94.94	米国 90.76	ベルギー 42.52	オランダ 27.84	ドイツ 23.08	19.53	374.70
2008年	米国 117.38	英国 99.88	ベルギー 65.24	オランダ 38.77	スペイン 24.86	17.75	451.56
2009年	米国 145.90	英国 89.85	ベルギー 82.19	オランダ 54.22	ドイツ 43.97	21.34	519.83

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2007年	IDA 100.97	EU Ins. 78.52	AfDF 69.82	GFATM 37.41	UNICEF 9.09	51.01	346.82
2008年	IDA 140.18	EU Ins. 105.71	GFATM 81.56	AfDF 64.55	IFAD 28.96	58.90	479.86
2009年	IDA 113.81	EU Ins. 104.51	GFATM 80.92	AfDF 65.73	UNICEF 9.60	37.19	411.76

注: 年の区切りは1月～12月の暦年。DAC集計ベース
出典: ODA 国別データブック 2011 外務省

図表 2 貧困人口の割合及び人数（2000年、2005年、2010年）

Table 8.1.1 Percentage of the Rwandan population identified as poor

Province	2000/01	2005/06	2010/11
Kigali City	22.7%	20.8%	16.8%
Southern Province	65.5%	66.7%	56.5%
Western Province	62.3%	60.4%	48.4%
Northern Province	64.2%	60.5%	42.8%
Eastern Province	59.3%	52.1%	42.6%
Urban		28.5%	22.1%
Rural		61.9%	48.7%
Total	58.9%	56.7%	44.9%

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.134

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

図表 3 ルワンダの貧困関連指数（2000年、2005年、2010年）

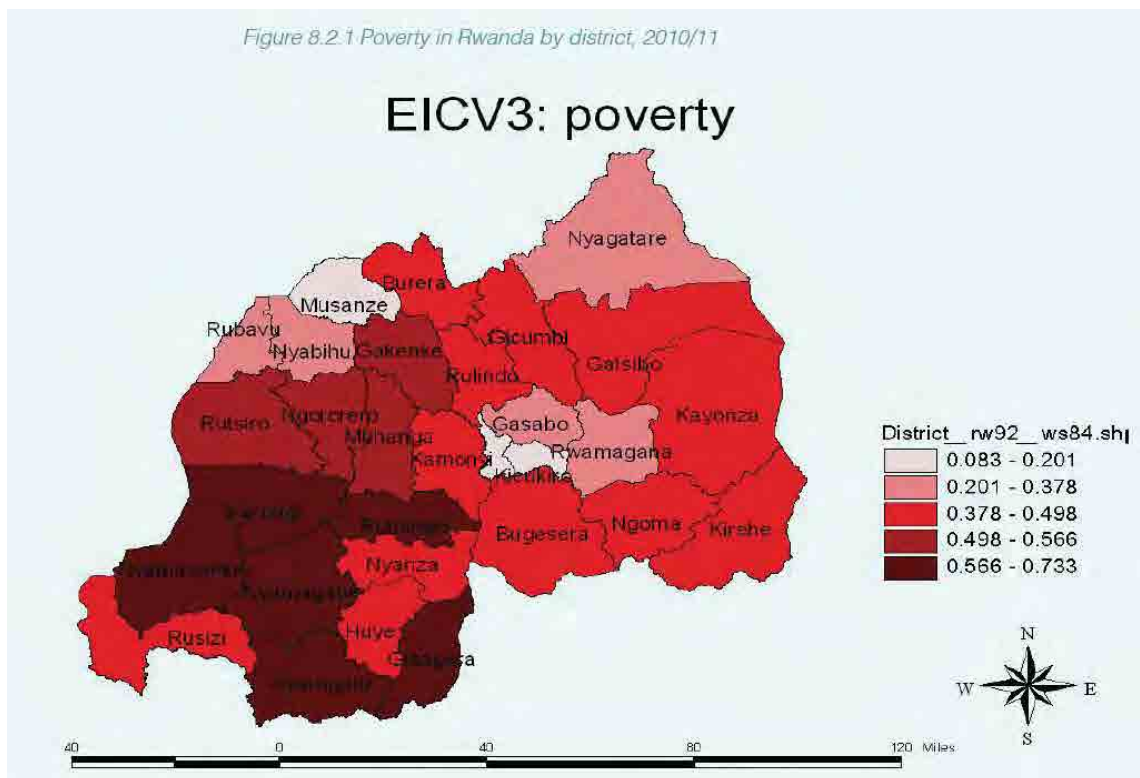
Table 6 Some summary poverty measures at the national level

	2000/01	2005/06	2010/11
Headcount ratio (%)	58.9	56.7	44.9
Poverty gap ratio (%)	24.4	22.3	14.8
Poverty severity measure (FGT2) *100	13.0	11.4	6.6
Watts index	36.6	32.9	20.2

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Evolution of Poverty in Rwanda from 2000 to 2011: Results from the Household Surveys (EICV)

<http://statistics.gov.rw/publications/evolution-poverty-rwanda-2000-2011-results-household-surveys-eicv> (2013/02/27 アクセス)

地図 1 貧困の分布図 (2010 年)



(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.138

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

図表 4 ジニ係数（2000年、2005年、2010年）

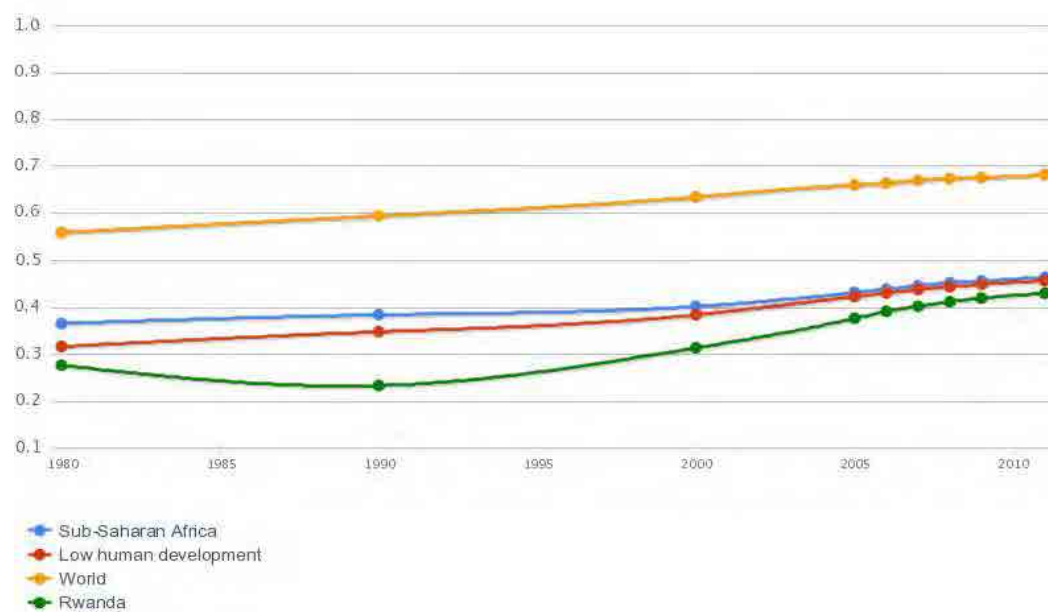
Table 8.1.3 Evolution of inequality in Rwanda

Gini coefficient	2000/01	2005/06	2010/11
Rwanda	0.507	0.522	0.490
Kigali City	0.559	0.586	0.559
Southern Province	0.425	0.446	0.373
Western Province	0.445	0.492	0.395
Northern Province	0.457	0.431	0.438
Eastern Province	0.403	0.436	0.362
Ratio of 90th to 10th percentile	7.066	7.100	6.357

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.136

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

図表 5 ルワンダとその他地域の HDI の推移比較（1980 - 2011 年）



(出所) UNDP ウェブサイト <http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/RWA.html>

(2013/02/27 アクセス)

図表 6 ルワンダの MDG 達成状況 (1990 年、2008 年)

Status at a Glance²

Goal 1: Eradicate Extreme Poverty and Hunger	1990	2008 ³	2015 Target	Status
Target 1. A: Halve between 1990 and 2015, the proportion of people in poverty	47.5	56.9	23.8	
Target 1.B: Achieve full and productive employment % employees earning a poverty wage % employees own account or family worker		54.9 80.0		
Target 1.C: Halve, between 1990 and 2015, the proportion of people who suffer from hunger Prevalence of underweight children under five year Proportion of population below minimum level of dietary intake	29.0 34	15.8 37.0	14.5 17	
Goal 2: Achieve universal primary education				
Target 2 Ensure that by 2015 children everywhere, boys and girls alike will be able to complete a full course of primary schooling. Net enrolment ratio in primary school Proportion of pupils starting grade one who reach last grade of primary school Literacy rates of women and men aged 15 -24 years.	62.5 72.7	94.2 74.5 76.8	100 100 100	
Goal 3: Promote Gender Equality and Empower Women				
Target 3 : Ensure that gender disparity in primary and secondary is eliminated, preferably by 2005 and in all levels for education no later than 2015 Ratio of boys to girls in primary school Ratio of boys to girls in secondary school Share of women in waged employment in the non-agricultural sector Proportion of seats held by women in national parliament	0.90 0.96 17	103 0.9 28.4 52	50.0 50	
Goal 4: Reduce Child Mortality				
Target 4: Reduce by two-thirds between 1990 and 2015 the under- five mortality rate. Under-five mortality rate Infant mortality rate Proportion of one-year-old children immunised against measles	141 85 91.0	103 62 90.4	47.0 28.0 100.0	
Goal 5: Improve Maternal Health				
Target 5A : Reduce by three-quarters, between 1990 and 2015, the maternal mortality ratio Maternal mortality ratio Proportion of births attended by skilled health professionals Target 5B: Achieve by 2015 universal access to reproductive health Contraception prevalence rate (condom utilisation 15 - 24 years) Male Female Women 15-49 years using modern contraceptives Adolescent birth rate (% total live births) Antenatal care coverage	1,300 26.0	750 52.0 39.5 26.4 27.0 3.6 96.0	325	
Goal 6: Combat HIV/AIDS, Malaria and Other Diseases				
Target 6A. Have halved by 2015 and began to reverse the spread of HIV/AIDS HIV prevalence rate amongst population aged 15 -24 Condom use at last high-risk sex Proportion of population aged 15-24 years with comprehensive correct knowledge male female Ratio of school attendance of orphans to non-orphans aged 10 - 14 years Target 6B: Achieved by 2015 universal access to treatment for HIV/AIDS for all those who need it. Proportion of population with advanced HIV infection using antiretroviral drugs ⁴ Adults Children Target 6C: By 2015 have halted and began to reverse the incidence of malaria and other major diseases. Incidence and death rates associated with malaria Mortality rate adults and children over 5 years (per 100.00 population) Mortality rate children 0 -5 years (per 100,000 population)		2.1 39.0 53.6 50.9 0.92 77.0 49.0 15.9 17.3	100.0 100.0	

Proportion of children under five sleeping under an insecticide-treated bed nets		55.7		
Mortality rate per 1000, 000 population from TB		5.0		
Goal 7: Ensure Environmental Sustainability				
Target 7A: Integrate the principals of sustainable development into the country's policies and programmes and reverse the loss of environmental resources				
Target 7B: Reduce biodiversity loss ⁵	18.5	10.0	25.0	
Proportion of land covered by forest				
CO ₂ emissions total per capita				
Consumption of ozone-depleting substances				
Proportion of total water resources used				
Proportion of terrestrial areas protected				
Proportion of species threatened with extinction		12	10	
Target 7C: Halve by 2015 the proportion of people without sustainable access to safe drinking water and basic sanitation				
Proportion of population using an improved drinking water source		59.9	82.0	
Proportion of population using an improved sanitation facility		56.3		
Goal 8 Develop a Global Partnership for Development				
Proportion of ODA to basic social services (education, primary health care, nutrition, safe water and sanitation)		44.3		
Access to essential drugs		89.0		
Telephones per 100 population (mobile phone)		13.1		
Personal computers per 100 population		0.6		

Key:

On-Track
Strong to Moderate Potential to Achieve with Support to Accelerate Progress
Off Track

(出所) Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, pp.11-12.

http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20Report%202010.pdf

地図 2 ルワンダ全土地図



Map Sources: ESRI, Gov't. of USA, NISR, UNCS.

The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations. Map created in Dec 2011.

(出所) UNOCHA, http://www.static.reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/rwa_ocha.pdf

(2013/02/27 アクセス)

I. ルワンダの貧困状況と概観

中部アフリカに位置するルワンダは、東側にタンザニア、西側にコンゴ民主共和国、北側にウガンダ、南側にブルンジと国境を接している内陸国である。ルワンダは、アフリカの中で最も小さい国の一つであり、国土面積は 26,338 平方キロメートルである。1962 年にベルギーから独立したが、国民の 8 割強を占めるフツ族と 1 割強を占めるツチ族との抗争が繰り返された。1994 年のハビヤリマナ大統領暗殺事件を契機に、ツチ族と穏健フツ族に対する大虐殺が発生し、多くの難民が発生した。1994 年 7 月、カガメ将軍に率いられたルワンダ愛国戦線（Rwanda Patriotic Front : RPF）がルワンダ全土を掌握し政権を樹立した。2003 年には新しく憲法が制定され、カガメ大統領が、その年の大統領選挙にて大統領に選出され、2010 年に再選されている⁹。

現在、ルワンダは、紛争後の復興を遂げ、汚職撲滅やジェンダー間の平等促進における取り組みが広く認識されるようになってきている。汚職対策については、Transparency International による汚職度の低いランキングでは、ルワンダは 176 カ国中 50 位であり、アフリカ諸国の中では極めて低い汚職度である¹⁰。

しかし、ルワンダは依然として最貧国の一つであるとともに、その国家財政を援助に大きく依存し、多数の開発課題を抱えている。たとえば、ルワンダの経済は、降雨による農作物生産に頼り、さらに労働人口の 80%は農業で生計を立てており、国内の鉱物などの天然資源は豊富ではない¹¹。

また、高い出生率を背景とし、人口増加率は高く、人口増は国土を圧迫、表面積の 70%は農業のために使われている状況である。国民の多くが農業に従事する中、ルワンダは労働市場を多様化する必要に迫られており、非農業分野の雇用機会を増やすとともに、世帯や小規模な企業が抱えるリスクを軽減し、発展をサポートしていく必要がある。国土や資源に限りがあるルワンダの発展のため、企業向けに「ソフト」面での環境について開発を進めていくことが重要と認識されている。たとえば、ルワンダは、開放的な貿易政策を採用し、投資環境は良好であり、ビジネスに対する税の優遇措置が設けられている。また、治安はよく、比較的低い犯罪率である¹²。

⁹ 外務省（2011）国別データガイドブック, p.181.UNDP ウェブサイト :

<http://www.rw.undp.org/content/rwanda/en/home/countryinfo/> (2012/02/27 アクセス)

¹⁰ Transparency International, Corruption Perception Index 2012 (2012/02/27 アクセス)

¹¹ Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, p.20

http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20Report%202010.pdf (2012/02/27 アクセス)

¹² 同上、p.20

II. 貧困削減のための政策枠組み

1. 貧困削減戦略及び目標の現状

(1) VISION 2020

2000年に、ルワンダ政府は20年後の経済達成目標を定めた「VISION 2020¹³」を策定した。VISION 2020では2020年までにルワンダを中所得国にし、国民一人当たり所得を2000年の220米ドルから900米ドルまでに引き上げ、2000年の貧困率60.4%を30%に、さらに平均寿命を2000年の49歳から55歳までとすることを目的としている。そのためには、貯蓄率の向上、民間投資の促進、国外からの援助への依存を減らすことによって、農業依存の経済を知識基盤型経済に転換させることが必要であるとしている。また、VISION 2020においては、貧困の原因の一つとして、ルワンダの人口密度がアフリカの中でも高く、人口増加率も年3%と高いことを挙げている。さらに、その背景として(1)高い出生率、(2)出産を尊ぶ文化、(3)乳児の死亡率の減少(4)気候や地形のため病気が蔓延しにくく、一般的に死亡率が低いこと、が指摘されている¹⁴。

平均寿命の伸長については、マラリアなどの感染症の抑制とHIV/AIDSの罹患率を13%から8%に抑えることができれば、達成できると予想されている。保健分野の政策は、保健サービスへのアクセス、サービスの質を改善し、さらにコストを下げつつ、より貧困な層を対象とするべきと考えられており、貧困は劣悪な保健状況の原因でもあり、またこの劣悪な保健状況の為に貧困が生まれている、という結果ともなっているとされている¹⁵。また、ジェンダーに関しても、男女の平等の実現が貧困対策に貢献すると考えられている¹⁶。

(2) 貧困削減戦略文書

ルワンダの第一次貧困削減戦略文書は2002年から2005年の期間を対象とし、国家の再建と復興という変遷期における国家を運営することを目的としていた。同戦略のもとでは、農業、インフラ、民間セクターよりも社会セクターでの進捗がみられたが、人口の増加、国内における利用可能な土地に制約があり、大幅な貧困削減には結びつかなかったと分析されている¹⁷。

2007年に、ルワンダ政府はVISION 2020達成に向けた中期計画として、第二次貧困削減戦略である経済開発貧困削減戦略(Economic Development and Poverty Reduction Strategy: EDPRS) 2008-2012¹⁸を策定した。この戦略では、目標の一つとして成長の加速

¹³ Rwanda (2000) Vision 2020, http://www.minecofin.gov.rw/webfm_send/1699 (2012/02/27 アクセス)

¹⁴ Rwanda (2000) Vision 2020, p.13

¹⁵ Rwanda (2000) Vision 2020, p.14

¹⁶ Rwanda (2000) Vision 2020, p.19

¹⁷ Ministry of Finance and Economic Planning, EDPRS: Lessons Learned 2008-2011, p.8. http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/EDPRS%20Lessons%20Learned%202008_2011.pdf (2012/02/27 アクセス)

¹⁸ The Republic of Rwanda (2007), Economic Development & Poverty Reduction Strategy 2008-2012 http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/EDPRS_2008-2012_English.pdf (2012/02/27 アクセス)

と貧困削減を挙げている。そのためには、GDP の成長率、輸出の増加が必要であると指摘されている。また、農業以外の雇用を 2012 年までに 30%までに上げることが目標とされている。そして、この目標を達成するには、2008 年から 2012 年の間に農業以外の雇用を約 60 万創出することが必要となる。これによって、貧困状態で生活する人々の割合が、57%から 46%に減少し、特に最貧困状態にある人々の割合は 37%から 24%に減少すると算出されている。同様に、女性が家長の貧困世帯の割合も 2012 年までに 60%から 48%に減少すると予想されている。

EDPRS の目標は次の表が示すとおりである。また、当初 EDPRS は 2008 年から 2012 年末までの実施が予定されていたが、ルワンダが東アフリカ共同体 (East African Community: EAC) に加盟したため、財務年度が 7 月 1 日開始に変更され、それに伴い EDPRS も 2013 年 6 月までの実施となっている¹⁹。

¹⁹ Ministry of Finance and Economic Planning, EDPRS: Lessons Learned 2008-2011, p.10
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/EDPRS%20lessons%20learned%202008_2011.pdf
(2012/02/27 アクセス)

図表 7 EDRS の 2012 年までの目標

Table 3.2 Targets for the EDPRS in 2012)

Priority area	Indicator	Baseline 2006	Target 2012
Growth and poverty reduction	Real GDP growth (% annual)	6.5	8.1
	Export growth (% annual)	10	15
	National investment (% of GDP)	16.3	24.4
	Share of population living in poverty (%)	57	46
	Share of population living in extreme poverty (%)	37	24
	Poverty incidence among people living in female-headed households (%)	60	48
	Employment in agriculture (% reporting as main occupation)	80	70
Widen and strengthen the Financial Sector	Private Sector credit (% of GDP)	10	15
	Financial depth (broad money/GDP)	20	22.5
Develop skills	Pupil/teacher ratio in primary schools	70:1	47:1
	Pupils/classroom in primary schools	70:1	52:1
	Gross secondary school enrolment	10	30
Raise agricultural productivity and ensure food security	% of agricultural land protected against soil erosion	40	100
	Area under irrigation (hectares)	15,000	24,000
	Use of mineral fertiliser (kg/ha)	11	40
	Rural households with livestock (%)	71	85
Improve environmental management	Forestry coverage (%)	20	23.5
	Reduction in annual wood consumption (million cubic metres)	8.9	6.2
	Critically degraded ecosystems mapped, assessed and rehabilitated (%)	50	80
Build infrastructure	Households with access to electricity (number of households)	70,000	200,000
	Electricity generation (off on grid, MW)	45	130
	Classified Road road network in good condition (%)	11	31
	ICT composite network coverage (%)	75	100
Improve health status and reduce slow down population growth	Infant mortality (deaths per 1,000 live births)	86	70
	Maternal mortality (deaths per 100,000 live births)	750	600
	Population covered by health insurance schemes (%)	70	95
	Women aged 15-45 using modern contraceptive techniques (%)	10	70
	Incidence of HIV among 15-24 year olds (%)	1	0.5
	Total Fertility Rate (children per woman)	6.1	4.5
	Access to safe drinking water and sanitation	64	86
Strengthen governance, security and the rule of law	Share of population expressing satisfaction/confidence in decentralised governance (%)	85	100

(出所) Rwanda (2007), Economic Development & Poverty Reduction Strategy 2008-2012, p.45

http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/EDPRS_2008-2012_English.pdf

(2013/02/27 アクセス)

(3) 目標の現状

2011 年末に実施された EDPRS2008-2012 のレビューでは、2010 年の時点で、貧困層は 44.9%であり、目標としていた 46%を下回っている。また、最貧困状況の人口の割合も、2012 年のターゲットが 24%であるところ、2010 年の時点で 24.1%となっており、順調に目標が達成されている。また、貧困率以外の目標についても、達成状況は好調であり、EDPRS の目標のうち 85%が達成していると評価されている²⁰。

²⁰ Ministry of Finance and Economic Planning, EDPRS: Lessons Learned 2008-2011, p.12,
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/EDPRS%20lessons%20learned%202008_2011.pdf

図表 8 EDPRS のレビュー (2006 年、2010 年)

Table 1: Key EDPRS Results Indicators

Priority area	Indicator	Baseline (2006)	Target (2012/13)	Actual (2010/11)
Growth and poverty reduction	Real GDP growth (% annual)	6.5	8.1	8.2 (2008-2011)
	National investment (% of GDP)	16.3	24.4	21.9
	Share of population living in poverty (%)	57	46	44.9
	Share of population living in extreme poverty (%)	37	24	24.1
Widen and strengthen the Financial Sector	Private Sector credit (% of GDP)	10	15	13.9
	Financial depth (broad money/GDP)	20	22.5	20.4
Develop skills	Pupil/teacher ratio in primary schools	70:1	47:1	58:1
	Gross secondary school enrolment	10	30	31.5
Raise agricultural productivity and ensure food security	Percentage of agricultural land protected against soil erosion	40	100	87.3
	Area under irrigation (hectares)	15,000	24,000	17,363
	Use of mineral fertiliser (kgs/ha)	11	40	30
Improve environmental management	Forestry coverage (%)	20	23.5	22.1
Build infrastructure	Percentage of households with access to electricity (% of households) (Number of connections)	4 (70,000)	16 (200,000)	10.8 (215,000)
	Electricity generation (off/on grid, MW)	45	130	97.4
	Classified road network in good condition (%)	11	31	59.9
	ICT composite network coverage (%)	75	100	90
Improve health status and slow down population growth	Infant mortality (deaths per 1,000 live births)	86	70	50
	Maternal mortality (deaths per 100,000 live births)	750	600	487
	Population covered by health insurance schemes (%)	70	95	89
	Women aged 15-45 using modern contraceptive techniques (%)	10	70	45
	Total Fertility Rate (children per woman)	6.1	4.5	4.6
Increase access to safe drinking water and sanitation	Access to safe drinking water (% of population)	64	86	74
Strengthen governance, security and the rule of law	Share of population expressing satisfaction/confidence in decentralised governance (%)	65	70	74.2

(出所) Ministry of Finance and Economic Planning, EDPRS: Lessons Learned 2008-2011, p.13

http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/EDPRS%20lessons%20learned%202008_2011.pdf

(2013/02/27 アクセス)

2. 政府による指定貧困地域・集団

EDPRS2008-2012 では、貧困の原因として、土地の不足、貧しい土壌、予測不可能な天気、家畜の不足を挙げ、さらに貧困からの脱却には、賃金雇用、商業や牧畜が必要であると指摘している²¹。

そして、EDPRS2008-2012 は、脆弱な世帯として、女性、寡婦、子供が家長となっている世帯を挙げている。

図表 9 脆弱集団の人口割合、貧困状況及び所在（2000 年、2001 年）

Table A2.6: Population share, poverty status and location of vulnerable groups

Vulnerable household type		Population share (%)	Population share (%)	Poverty headcount (%)	
				Rural	Urban
Female headed	2000/01	27.6	66.3	16.9	83.1
	2001/02	23.4	60.2	17.3	82.7
Widow headed	2000/01	22.0	67.7	15.9	84.1
	2001/02	18.7	59.9	16.0	84.0
Child headed	2000/01	1.3	60.1	19.0	81.0
	2001/02	0.7	56.9	22.9	77.1

Source: EICV1 and ECV2 surveys.

(出所) The Republic of Rwanda, Economic Development & Poverty Reduction Strategy 2008-2012, p.152

http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/EDPRS_2008-2012_English.pdf (2013/02/27 アクセス)

²¹ Ministry of Finance and Economic Planning, EDPRS: Lessons Learned 2008-2011, p.14, http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/EDPRS%20lessons%20learned%202008_2011.pdf (2013/02/27 アクセス)

III. 所得貧困による分析

1. 貧困線とデータ

EDPRS では、最貧困 (extreme poverty) の基準は、成人一人が一日に最低限必要な食料 2,100 キロカロリーを得るために必要な所得であると定義し、貧困線は、食料に加えて、食料以外の必需品を加えた基準と定めている²²。

他方で、2011 年に実施された第三次世帯調査 (EICV3) の報告書では、EDPRS とは必要な食料の定義が異なっている²³。具体的には、食糧貧困線はルワンダ人が身体的な重労働に従事した場合に必要な食料とされている。EICV3 の貧困線は、この食料と食料以外の消費の双方を合算したものとなる。この貧困線の基準は、第 1 回の世帯調査 (EICV1) と同じであり、EICV3 の貧困基準は 64,000 ルワンダフラン (RWF) (8,832 円相当)²⁴ (ただし 2001 年 1 月の価格) である。

最貧困基準の場合は、食料以外の消費は含まれず、食料の消費にのみ必要な基準とされ、45,000 ルワンダフラン (6,201 円相当) である。

なお、EICV3 の貧困基準を現行価格で計算すると、貧困線は、118,000 ルワンダフラン (16,284 円相当)、最貧困線は 87,000 ルワンダフラン (12,006 円相当) 相当となる²⁵。

2. 貧困状況-貧困率、貧困ギャップ率、GINI 係数

(1) 貧困率

次の図表は、第三次世帯調査 (EICV) による貧困率である。1 次から 3 次調査ともに、南部県における貧困率が最も高く、首都キガリで最も低くなっている。また、2000 年から 2005 年にかけての貧困削減よりも、2005 年から 2010 年には 12 ポイントの貧困削減となっている。また北部県における貧困削減が目覚しい²⁶。

²² Ministry of Finance and Economic Planning, EDPRS: Lessons Learned 2008-2011, p.12
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/EDPRS%20lessons%20learned%202008_2011.pdf
(2013/02/27 アクセス)

²³ 以下、EICV 調査による貧困基準は全て EICV の定義による貧困、最貧困線に基づく。

²⁴ 1 ルワンダフラン (RWF) = 0.131 円 (2012 年 9 月 JICA レートより)

²⁵ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.133
<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

²⁶ 同上, p.134

図表 10 貧困人口の割合及び人数（2000年、2005年、2010年）

Table 8.1.1 Percentage of the Rwandan population identified as poor

Province	2000/01	2005/06	2010/11
Kigali City	22.7%	20.8%	16.8%
Southern Province	65.5%	66.7%	56.5%
Western Province	62.3%	60.4%	48.4%
Northern Province	64.2%	60.5%	42.8%
Eastern Province	59.3%	52.1%	42.6%
Urban		28.5%	22.1%
Rural		61.9%	48.7%
Total	58.9%	56.7%	44.9%

（出所） National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.134

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

最貧困人口の割合は、2000年から2005年までに40%から35.8%へ、さらに2010年までには24.1%に減少した。全ての地域において最貧困状況が改善されたが、特に北部地方での減少が顕著である。最も最貧困状況が著しい地域は南部地方であるが、2005年から2010年までの間に最貧困状況にある人々の割合は大幅に減少している²⁷。2005年から2011年にかけて貧困率が減少した理由として、農業生産の増加、さらに農業の商業化が指摘されている²⁸。詳細は、「IV. 所得貧困以外による分析 3. 食糧安全保障・脆弱性による分析 (3) 食糧安全保障関連の政策」及び「VII. 重点支援分野と貧困の関わり 2. 農業」を参照のこと。

²⁷ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.135
<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

²⁸ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Evolution of Poverty in Rwanda from 2000 to 2011: Results from the Household Surveys (EICV), p.28
<http://statistics.gov.rw/publications/evolution-poverty-rwanda-2000-2011-results-household-surveys-eicv> (2013/02/27 アクセス)

図表 11 最貧困人口の割合（2000年、2005年、2010年）

Table 8.1.2 Extreme poverty in Rwanda

Province	2000/01	2005/06	2010/11
Kigali City	14.5%	12.9%	7.8%
Southern Province	44.7%	44.9%	31.1%
Western Province	40.4%	37.7%	27.4%
Northern Province	46.5%	39.1%	23.5%
Eastern Province	39.4%	29.9%	20.8%
Urban		16.0%	10.4%
Rural		39.5%	26.4%
Total	40.0%	35.8%	24.1%

（出所） National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.135

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

次の図表は各世帯を、所得の主要な源泉となる経済活動別に示し、さらに経済活動ごとの貧困率を示している。上から五番目までの分類については、50%以上の世帯収入をそれぞれ、農業、農業による賃労働、農業以外の賃労働、農業以外の自営業、海外送金で得ている世帯である。次の二つの分類は、複数の活動より所得を得ているが、農業賃労働が30%より多いか、少ないかという基準で分けたものである。貧困率は、農業賃労働からの収入が30%未満の複数の所得源を持つ世帯（Diversified, but farm wage less than 30%）を除く全ての所得層において減少している。個別に見ると、農業賃労働を収入の主体としている世帯で高く、次に農業に従事している世帯となっている。EICV2とEICV3の間での貧困率の減少割合は、特に農業賃労働以外を主な所得の源泉としている世帯で顕著であり、農業賃労働や農業を主体とする世帯では貧困率の減少は緩やかである。以上から、貧困削減には、農業以外の経済活動も重要であることが推察できる²⁹。

²⁹ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.137
<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

図表 12 収入源別世帯の貧困割合（2005年、2010年）

Table 8.1.4 Population shares and poverty classified by the main household activity

	Share of population (%)		Percentage of poverty	
	EICV2	EICV3	EICV2	EICV3
Mostly agriculture	56.6	52.2	62.8	52.2
Mostly farm wage	4.3	3.6	88.1	76.6
Mostly non-farm wage	7.3	10.7	36.6	22.8
Mostly non-farm self-employment	27.0	16.2	46.5	24.2
Mostly transfers	1.5	2.2	45.6	28.6
Diversified, but farm wage more than 30%	1.0	4.1	77.3	76.2
Diversified, but farm wage less than 30%	2.3	11.1	28.4	47.6
Total	100.0	100.0	56.7	44.9

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.135

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

(2) 貧困ギャップ率

次の図表 13 は、ルワンダの貧困関連指数をまとめた表である。全ての指数が、大幅に減少し、ルワンダにおいて貧困状況が改善していることを示している。特に貧困の深刻度合いを示す指標（Poverty severity measure）については、2000年から2010年までに半減している。貧困の度合いを示す Watts 指標は、貧困世帯が貧困から抜け出すために必要な期間の平均を推定することができる。2010年の指標によると、もし貧困世帯の所得が平均4.4%（過去5年間の平均増加率）で増加するなら4.5年、もし5.6%増加するならば3.6年が必要と推計される。したがって、現在の成長が維持され、不平等が拡大しなければ、貧困削減の見通しは明るいといえる³⁰。

³⁰ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Evolution of Poverty in Rwanda from 2000 to 2011: Results from the Household Surveys (EICV), p.18
<http://statistics.gov.rw/publications/evolution-poverty-rwanda-2000-2011-results-household-surveys-eicv>
 (2013/02/27 アクセス)

図表 13 ルワンダの貧困関連指数（2000年、2005年、2010年）

Table 6 Some summary poverty measures at the national level

	2000/01	2005/06	2010/11
Headcount ratio (%)	58.9	56.7	44.9
Poverty gap ratio (%)	24.4	22.3	14.8
Poverty severity measure (FGT2) *100	13.0	11.4	6.6
Watts index	36.6	32.9	20.2

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Evolution of Poverty in Rwanda from 2000 to 2011: Results from the Household Surveys (EICV) p.18

<http://statistics.gov.rw/publications/evolution-poverty-rwanda-2000-2011-results-household-surveys-eicv>

(2013/02/27 アクセス)

(3) ジニ係数

ジニ係数は2000年から2010年の間に、0.522から0.49に減少した。地域別では、北部県では若干の増加が見られるものの、他県では全て減少している。

図表 14 ジニ係数（2000年、2005年、2010年）

Table 8.1.3 Evolution of inequality in Rwanda

Gini coefficient	2000/01	2005/06	2010/11
Rwanda	0.507	0.522	0.490
Kigali City	0.559	0.586	0.559
Southern Province	0.425	0.446	0.373
Western Province	0.445	0.492	0.395
Northern Province	0.457	0.431	0.438
Eastern Province	0.403	0.436	0.362
Ratio of 90th to 10th percentile	7.066	7.100	6.357

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.136

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

IV. 所得貧困以外による分析

1. 人間開発指標のトレンド、地域・国際比較

ルワンダにおける 2011 年の HDI は 0.429 であり、これは HDI を測定している 187 の国と地域の中で 166 位であり、低 HDI グループに位置している。1980 年～2011 年までに HDI は 0.275 から 0.429 まで改善している（図表 15 参照）。この約 30 年の間に平均寿命は約 7.2 年長くなり、平均就学年は 2.2 年、期待される就学期間は 6.4 年伸びている。また一人当たり GNI は 1980 年から 2011 年までの間に 37%増加した。

図表 15 ルワンダにおける HDI 推移（1980-2011 年）

Table A: Rwanda's HDI trends based on consistent time series data, new component indicators and new methodology

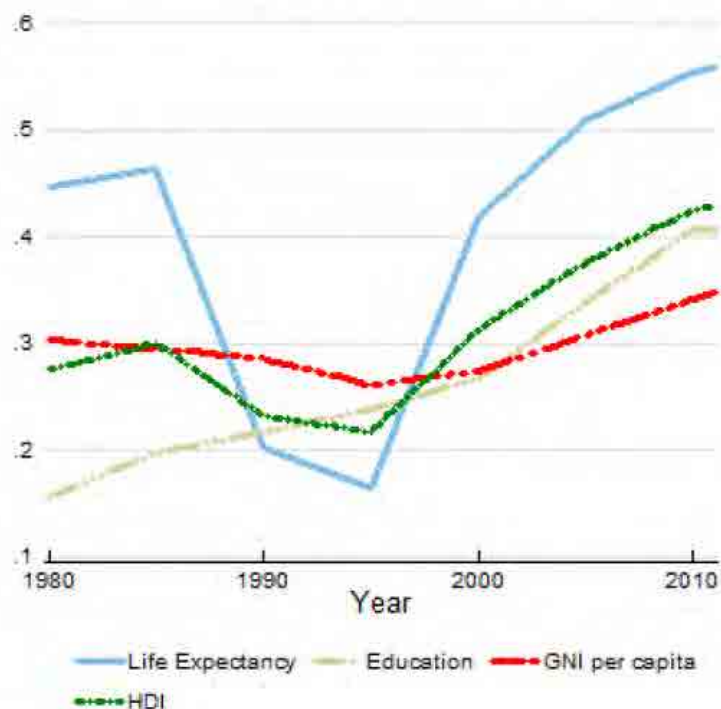
	Life expectancy at birth	Expected years of schooling	Means years of schooling	GNI per capita (2005 PPP\$)	HDI value
1980	48.2	4.7	1.1	827	0.275
1985	49.3	5.8	1.5	785	0.300
1990	32.8	6.0	1.8	738	0.232
1995	30.5	6.5	2.0	618	0.217
2000	46.6	7.1	2.3	676	0.313
2005	52.3	9.3	2.8	850	0.376
2010	55.1	11.1	3.3	1,086	0.425
2011	55.4	11.1	3.3	1,133	0.429

（出所）UNDP(2011) Explanatory note on 2011 HDR composite indices, Rwanda, p.2

<http://hdrstats.undp.org/images/explanations/RWA.pdf>（2013/02/27 アクセス）

図表 16 ルワンダにおける HDI の動向 (1980 - 2011 年)

Figure 1: Trends in Rwanda's HDI component indices 1980-2011



(出所) UNDP(2011) Explanatory note on 2011 HDR composite indices, Rwanda

<http://hdrstats.undp.org/images/explanations/RWA.pdf> (2013/02/27 アクセス)

図表 17 ルワンダの HDI の比較 (2011 年)

Table B: Rwanda's HDI indicators for 2011 relative to selected countries and groups

	HDI value	HDI rank	Life expectancy at birth	Expected years of schooling	Mean years of schooling	GNI per capita (PPP US\$)
Rwanda	0.429	166	55.4	11.1	3.3	1,133
Togo	0.435	162	57.1	9.6	5.3	798
Guinea	0.344	178	54.1	8.6	1.6	863
Sub-Saharan Africa	0.463	—	54.4	9.2	4.5	1,966
Low HDI	0.456	—	58.7	8.3	4.2	1,585

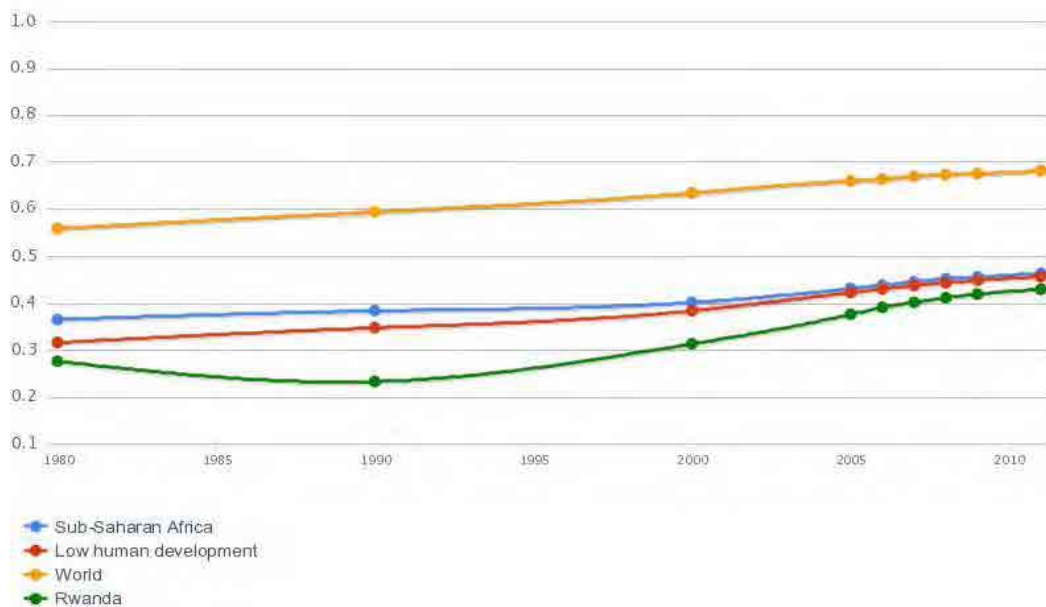
(出所) UNDP(2011) Explanatory note on 2011 HDR composite indices, Rwanda

<http://hdrstats.undp.org/images/explanations/RWA.pdf> (2013/02/27 アクセス)

ルワンダの HDI は 1990 年に落ち込んだ後、その後改善しているが、低開発諸国の平均値である 0.456、サブサハラアフリカ地域の平均 0.463 を若干下回っている。サブサハラアフリカ地域で、2011 年のルワンダの HDI と近いランクにあり、人口規模も類似の国は 162 位のトーゴと 178 位のギニアである。図表 17 が示すように、ルワンダは一人当たり GNI は HDI で上位に位置するトーゴよりも高い。しかし、出生時平均寿命と平均就学年をみても

と、上位のトーゴよりも低い。

図表 18 ルワンダとその他地域の HDI の推移比較 (1980 - 2011 年)



(出所) UNDP ウェブサイト <http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/RWA.html>

(2013/02/27 アクセス)

また、健康状況と教育状況、さらに所得の分配状況に関して、どの程度の不平等が存在するかに基づいて、HDI に修正を加えた指標（不平等調整済み人間開発指数：Inequality-adjusted HDI : IHDI）³¹では（図表 19）、ルワンダにおける不平等による全体の損失は 35.7%とサブサハラアフリカの平均を上回っている。項目別でみると、ルワンダは出生時平均寿命及び所得に関して、不平等による損失の割合がサブサハラアフリカの平均を上回っている。したがって、ルワンダでは国内における格差が存在していることがわかる。

³¹ 格差がない完全な平等の状態では、HDI と IHDI は一致する。IHDI の値が小さくなるほど、さらに IHDI と HDI の差が大きくなればなるほど、不平等が大きいことを示している。(参照 UNDP ウェブサイト：http://www.undp.or.jp/news/docs/2010_00425.shtml (2013/3/11 アクセス))

図表 19 ルワンダの不平等調整済み人間開発指数の比較（2011 年）

Table C: Rwanda's IHD for 2011 relative to selected countries and groups

	IHDI value	Overall Loss (%)	Loss due to inequality in life expectancy at birth (%)	Loss due to inequality in education (%)	Loss due to inequality in income (%)
Rwanda	0.276	35.7	41.3	30.7	34.5
Togo	0.289	33.5	37.2	41.5	20.0
Guinea	0.211	38.8	42.7	42.0	31.1
Sub-Saharan Africa	0.303	34.5	39.0	35.6	28.4
Low HDI	0.304	33.3	35.6	39.2	24.2

（出所）UNDP(2011) Explanatory note on 2011 HDR composite indices, Rwanda

<http://hdrstats.undp.org/images/explanations/RWA.pdf>（2013/02/27 アクセス）

2. MDG 達成状況

ルワンダ政府は MDG 達成を重要事項と位置づけ、MDG の指標は EDPRS の中にも組み込まれている³²。

次の図表 20 は、ルワンダの MDG 達成状況を示している。

³² Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, p.20
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20Report%202010.pdf（2013/02/27 アクセス）

図表 20 ルワンダの MDG 達成状況 (1990 年、2008 年)

Status at a Glance²

Goal 1: Eradicate Extreme Poverty and Hunger	1990	2008 ³	2015 Target	Status
Target 1. A: Halve between 1990 and 2015, the proportion of people in poverty	47.5	56.9	23.8	
Target 1.B: Achieve full and productive employment % employees earning a poverty wage % employees own account or family worker		54.9 80.0		
Target 1.C: Halve, between 1990 and 2015, the proportion of people who suffer from hunger				
Prevalence of underweight children under five year	29.0	15.8	14.5	
Proportion of population below minimum level of dietary intake	34	37.0	17	
Goal 2: Achieve universal primary education				
Target 2 Ensure that by 2015 children everywhere, boys and girls alike will be able to complete a full course of primary schooling.				
Net enrolment ratio in primary school	62.5	94.2	100	
Proportion of pupils starting grade one who reach last grade of primary school		74.5	100	
Literacy rates of women and men aged 15 -24 years.	72.7	76.8	100	
Goal 3: Promote Gender Equality and Empower Women				
Target 3 : Ensure that gender disparity in primary and secondary is eliminated, preferably by 2005 and in all levels for education no later than 2015				
Ratio of boys to girls in primary school	0.90	103		
Ratio of boys to girls in secondary school	0.96	0.9		
Share of women in waged employment in the non-agricultural sector		28.4	50.0	
Proportion of seats held by women in national parliament	17	52	50	
Goal 4: Reduce Child Mortality				
Target 4: Reduce by two-thirds between 1990 and 2015 the under- five mortality rate.				
Under-five mortality rate	141	103	47.0	
Infant mortality rate	85	62	28.0	
Proportion of one-year-old children immunised against measles	91.0	90.4	100.0	
Goal 5: Improve Maternal Health				
Target 5A : Reduce by three-quarters, between 1990 and 2015, the maternal mortality ratio				
Maternal mortality ratio	1,300	750	325	
Proportion of births attended by skilled health professionals	26.0	52.0		
Target 5B: Achieve by 2015 universal access to reproductive health				
Contraception prevalence rate (condom utilisation 15 - 24 years)				
Male		39.5		
Female		26.4		
Women 15-49 years using modern contraceptives		27.0		
Adolescent birth rate (% total live births)		3.6		
Antenatal care coverage		96.0	100.0	
Goal 6: Combat HIV/AIDS, Malaria and Other Diseases				
Target 6A. Have halved by 2015 and began to reverse the spread of HIV/AIDS				
HIV prevalence rate amongst population aged 15 -24		2.1		
Condom use at last high-risk sex		39.0		
Proportion of population aged 15-24 years with comprehensive correct knowledge		53.6		
male		50.9		
female		0.92		
Ratio of school attendance of orphans to non-orphans aged 10 - 14 years				
Target 6B: Achieved by 2015 universal access to treatment for HIV/AIDS for all those who need it.				
Proportion of population with advanced HIV infection using antiretroviral drugs ⁴				
Adults		77.0	100.0	
Children		49.0	100.0	
Target 6C: By 2015 have halted and began to reverse the incidence of malaria and other major diseases.				
Incidence and death rates associated with malaria				
Mortality rate adults and children over 5 years (per 100,00 population)		15.9		
Mortality rate children 0 -5 years (per 100,000 population)		17.3		

Proportion of children under five sleeping under an insecticide-treated bed nets		55.7		
Mortality rate per 1000, 000 population from TB		5.0		
Goal 7: Ensure Environmental Sustainability				
Target 7A: Integrate the principals of sustainable development into the country's policies and programmes and reverse the loss of environmental resources				
Target 7B: Reduce biodiversity loss ⁵	18.5	10.0	25.0	
Proportion of land covered by forest				
CO ₂ emissions total per capita				
Consumption of ozone-depleting substances				
Proportion of total water resources used				
Proportion of terrestrial areas protected				
Proportion of species threatened with extinction		12	10	
Target 7C: Halve by 2015 the proportion of people without sustainable access to safe drinking water and basic sanitation				
Proportion of population using an improved drinking water source		59.9	82.0	
Proportion of population using an improved sanitation facility		56.3		
Goal 8: Develop a Global Partnership for Development				
Proportion of ODA to basic social services (education, primary health care, nutrition, safe water and sanitation)		44.3		
Access to essential drugs		89.0		
Telephones per 100 population (mobile phone)		13.1		
Personal computers per 100 population		0.6		

Key:

On-Track
Strong to Moderate Potential to Achieve with Support to Accelerate Progress
Off Track

(出所) Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, pp.11-12.

http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20Report%202010.pdf (2013/02/27 アクセス)

(1) 目標 1：極度の貧困と飢餓の撲滅

2010年のMDGレポートによると、ルワンダは、2000年以降目覚ましい経済成長を遂げているが、貧困削減の目標達成は難しいと判定されている。経済成長により、貧困層も利益を得たものの、より裕福な人々の方が経済成長の恩恵を受けたとされる³³。

貧困削減の目標は2015年までに貧困率を23.8%までに減少させることである。2010年のMDGレポートも2006年の貧困率の状況から目標達成は難しいとしている。実際に2010年時点でも貧困率は44.9%であることから、大幅な貧困削減が2015年までに実現できなければ達成は難しい³⁴。

飢餓の撲滅に関しては、5歳未満の低体重児数割合を14.5%までに削減するという目標は、達成見込みであるが、人口全体での達成は難しい見通しである。

MDGの貧困削減目標は達成困難とされている一方で、EDPRSの貧困削減の目標は概ね達成されているという違いがある。この違いは、EDPRSの目標が貧困層では46%と、MDGより低く設定されていることから生じている。また、EDPRSでは、食糧確保も困難な最貧

³³ Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, p.25
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20Report%202010.pdf (2013/02/27 アクセス)

³⁴ 同上、p.26

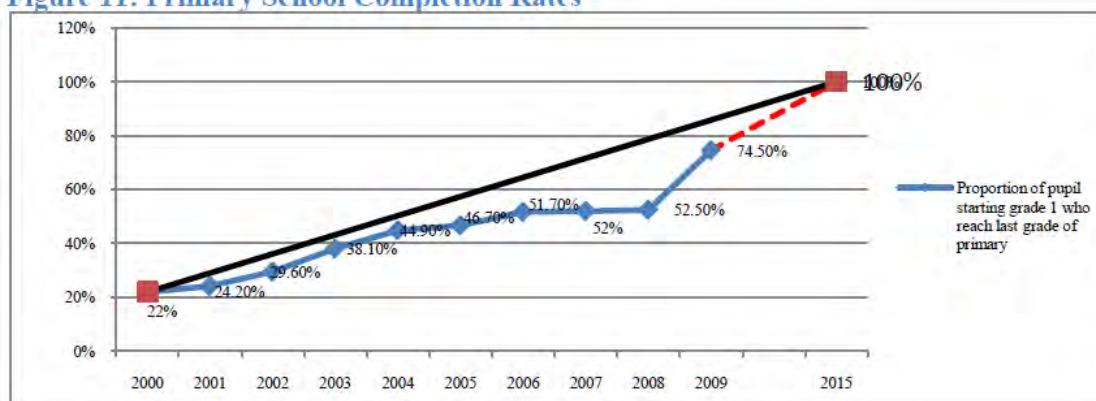
困状況の人口の割合も、2012年の目標が24%と設定されている。他方で、MDGでは、飢餓に苦しむ人口割合削減目標では、2015年までに人口割合の17%とEDPRSよりも高いレベルでの設定がなされている。

(2) 目標2：初等教育の完全普及の達成

2010年のMDGレポートでは、初等教育の完全普及の目標は達成見込みとされている。この背景には、2006年に導入された「9年基礎教育政策」により基礎教育は初等教育と前期中等教育の9年間に拡大・無償化されたことが挙げられる³⁵。小学校修了率については、2009年で74.5%であり、2015年までに100%を達成するためには、引き続き政府の努力とドナーのサポートが必要と指摘されている³⁶。

図表 21 小学校修了率の推移

Figure 11: Primary School Completion Rates



(Source: NISR 2007a P12; NISR2009, P63, Education Sector strategic plan 2010-2015)

(出所) Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, p.43

http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20Report%202010.pdf (2013/02/27 アクセス)

主要な課題は、子供たちが学校に継続して通学できるようにすることであり、これには学校と教育の質の改善、子供の親と学校との協働が必要となる。

³⁵ 2012年からは後期中等教育を含む12年間の教育の無償化が開始されている。JICA (2012)「基礎教育セクター情報収集・確認調査 国別基礎教育セクター分析報告書—ルワンダー」pp.7-8

³⁶ Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, p.43
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20Report%202010.pdf (2013/02/27 アクセス)

(3) 目標 3 : 男女平等推進と女性の地位向上

2010 年の MDG レポートでは、政府の強いコミットメントにより男女平等が進んでいると評価され、小学校における男女の割合及び女性の国会議員の割合については、2001 年に達成している。しかし、非農業の賃金労働における女性の雇用割合は賃金労働及び自営業を含めて 12%であり、達成が困難な見通しである³⁷。

2012 年の第三回 EICV の報告書では、女性の農業以外の賃金労働の割合は全体で 8.3%、自営の非農業従事者は 8%と、非農業の賃金労働は 16.3%となっている。しかし、71.9%が自営農、賃金農業等同社が 9.7%とほとんどの女性が農業に従事しているといえる。

図表 22 男女・年齢別職業割合 (2011 年)

Table 5.4 Main job, by sex and age

EICV3	Usual main job					Total	Total number of persons (000s)*
	Wage farm	Wage non-farm	Independent farmer	Independent non-farm	Unpaid non-farm, other and n.i		
All Rwanda	9.9	16.9	61.8	9.7	1.8	100.0	4,960
Male	10.2	27.4	49.4	11.7	1.4	100.0	2,234
Female	9.7	8.3	71.9	8.0	2.1	100.0	2,725
16-24	12.2	23.6	53.3	8.3	2.5	100.0	1,249
25-34	10.1	19.7	56.5	11.7	2.0	100.0	1,465
35-44	9.7	16.8	60.0	11.9	1.6	100.0	891
45-54	9.7	10.8	69.8	8.6	1.1	100.0	674
55-64	7.2	6.8	78.8	6.5	0.8	100.0	390
65+	3.7	2.1	88.7	4.6	0.9	100.0	290

Base: Persons aged 16+ years who are usually working. Source: EICV3

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Gender, p.27

<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-gender>

(2013/02/27 アクセス)

(4) 目標 4 : 乳幼児死亡率の削減

2010 年の MDG レポートでは、2008 年の乳幼児死亡率は 1000 あたり 62 であり、支援を受けて削減が加速されれば、1000 人あたりあたり 28 の死亡数という目標は達成可能と判断されている。また、5 歳未満の死亡率も高い。一方で予防接種を受けた子供の割合は上昇しているが、100%は達成できないと推定されている³⁸。図表 23 が示すように、2010 年では、乳児死亡率は 1,000 出生あたり 50 件となっている。

³⁷ 同上, p.47

³⁸ Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, pp.52-53
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20Report%202010.pdf (2013/02/27 アクセス)

図表 23 子供の死亡率（2010 年）

Table 8.1 Early childhood mortality rates

Neonatal, postneonatal, infant, child, and under-5 mortality rates for five-year periods preceding the survey, Rwanda 2010

Years preceding the survey	Neonatal mortality (NN)	Postneonatal mortality (PNN) ¹	Infant mortality (1q0)	Child mortality (4q1)	Under-5 mortality (5q0)
0-4	27	23	50	27	76
5-9	32	41	73	64	133
10-14	48	61	109	99	197

¹ Computed as the difference between the infant and neonatal mortality rates

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (NISR), Ministry of Health (MOH) and ICF International (2012) Rwanda Demographic and Health Survey 2010, p.102

<http://www.statistics.gov.rw/survey/demographic-and-health-survey-dhs>

(2013/02/27 アクセス)

(5) 目標 5 : 妊産婦の健康の改善

MDG レポートによると、妊産婦の健康改善に関し、達成は全体としては困難な見通しである。ただし、改善はみられ、たとえば妊産婦死亡率については、より多くの女性が保健施設において介助のある出産をするようになったことで大幅に改善した。また、より多くの妊婦が産後検診に行くようになった³⁹。

図表 24 が示すように、2010 年の調査では調査対象の 83%の女性が出産時に専門の介助を受けている。

³⁹ Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, p.57
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20Report%202010.pdf (2013/02/27 アクセス)

図表 24 出産時の介助の種類 (2010 年)

Table 9.6 Assistance during delivery

Percent distribution of live births in the five years preceding the survey by person providing assistance during delivery, percentage of births assisted by a skilled provider, and percentage delivered by caesarean section, according to background characteristics, Rwanda 2010

Background characteristic	Person providing assistance during delivery								Total	Percentage delivered by a skilled provider ¹	Percentage delivered by C-section	Number of births
	Doctor	Nurse/ medical assistant	Midwife	Other health worker	Traditional birth attendant	Relative/ other	No one	Don't know/ missing				
Mother's age at birth												
<20	12.2	70.5	0.4	1.5	1.9	10.2	3.1	0.1	100.0	83.1	9.3	556
20-34	10.3	60.0	0.3	2.0	2.5	15.7	8.8	0.4	100.0	70.6	7.4	6,938
35-49	7.0	50.2	0.2	2.9	2.5	19.6	17.3	0.3	100.0	57.4	5.0	1,643
Birth order												
1	16.0	71.3	0.6	1.0	1.1	7.7	2.0	0.3	100.0	88.0	13.1	2,277
2-3	10.1	59.4	0.3	2.2	2.8	16.5	8.4	0.3	100.0	69.8	7.0	3,123
4-5	6.9	52.6	0.2	2.7	3.2	20.5	13.5	0.4	100.0	59.7	3.7	1,960
6+	4.6	48.8	0.2	2.8	2.9	21.2	19.0	0.4	100.0	53.7	3.2	1,777
Place of delivery												
Health facility	14.1	85.1	0.3	0.1	0.0	0.1	0.1	0.2	100.0	99.5	10.3	6,295
Elsewhere	0.4	0.7	0.3	6.7	7.9	51.9	32.0	0.2	100.0	1.3	0.0	2,825
Residence												
Urban	20.3	61.5	0.5	1.2	1.1	9.4	5.4	0.5	100.0	82.4	15.9	1,094
Rural	8.4	58.5	0.3	2.2	2.6	17.0	10.6	0.3	100.0	67.2	5.9	8,043
Region												
City of Kigali	19.9	62.8	0.4	1.2	1.2	8.1	5.9	0.5	100.0	83.1	15.9	872
South	9.2	56.8	0.4	2.3	2.9	17.9	9.8	0.6	100.0	66.4	7.1	2,169
West	9.0	61.7	0.2	1.6	0.9	17.3	9.2	0.1	100.0	71.0	5.9	2,284
North	7.2	56.3	0.3	1.5	1.5	22.6	10.2	0.4	100.0	63.8	5.1	1,437
East	9.0	58.2	0.3	3.2	4.6	12.3	12.2	0.2	100.0	67.5	6.3	2,376
Mother's education												
No education	6.5	50.4	0.2	1.9	3.1	23.0	14.5	0.3	100.0	57.1	4.7	1,756
Primary	9.0	60.7	0.3	2.2	2.5	15.5	9.4	0.4	100.0	69.9	6.3	6,578
Secondary and higher	24.2	62.6	0.9	1.4	0.8	5.7	4.2	0.2	100.0	87.7	18.6	803
Wealth quintile												
Lowest	7.0	53.9	0.3	2.7	2.9	20.3	12.5	0.5	100.0	61.2	4.9	2,134
Second	7.1	56.2	0.2	2.2	2.4	19.7	11.9	0.3	100.0	63.5	5.2	1,964
Middle	8.7	57.6	0.3	2.0	3.3	17.8	10.0	0.2	100.0	66.7	7.0	1,815
Fourth	9.0	63.3	0.2	2.1	2.7	13.2	9.2	0.2	100.0	72.6	5.7	1,698
Highest	19.4	65.8	0.6	1.3	0.8	6.9	4.6	0.5	100.0	85.9	14.4	1,525
Total	9.8	58.9	0.3	2.1	2.5	16.1	10.0	0.3	100.0	69.0	7.1	9,137

Note: If the respondent mentioned more than one person attending during delivery, only the most qualified person is considered in this tabulation.
¹ Skilled provider includes doctor, nurse, medical assistant, and midwife.

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (NISR), Ministry of Health (MOH) and ICF International (2012) Rwanda Demographic and Health Survey 2010. p.117

<http://www.statistics.gov.rw/survey/demographic-and-health-survey-dhs>

(2013/02/27 アクセス)

次の図表は 2010 年のデータによる妊産婦死亡率を年齢別に示している。2004 年-2010 年の間に 1000 件の出産あたり、4.76 の死亡数である。

図表 25 妊産婦死亡率の推計（2010 年）

Table 16.4 Direct estimates of maternal mortality

Direct estimates of maternal mortality for the period 0 to 4 years prior to the survey, Rwanda 2010

Age	Maternal deaths	Exposure years	Maternal mortality rate ¹	Proportion of maternal deaths to all women deaths
15-19	4	21,511	0.2	13.9
20-24	16	26,065	0.6	33.2
25-29	20	24,195	0.8	28.3
30-34	23	18,732	1.2	27.9
35-39	17	13,943	1.2	27.5
40-44	8	9,888	0.8	13.3
45-49	3	6,566	0.5	13.8
Total	91	165,352	0.8^a	24.3
General fertility rate (GFR)		149 ^a		
Maternal mortality ratio (MMR) ²		476		
Lifetime risk of maternal death ³		0.023		

¹ Expressed per 1,000 woman-years of exposure
² Expressed per 100,000 live births; calculated as the maternal mortality rate divided by the general fertility rate
³ Lifetime risk of maternal death = $1 - (1 - \text{MMR}/100,000)^{\text{TFR}}$ where TFR represents the total fertility rate for the period 0 to 4 years prior to the survey (= 4.9)
^a Age-adjusted rate

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (NISR), Ministry of Health (MOH) and ICF International (2012) Rwanda Demographic and Health Survey 2010. p.236

<http://www.statistics.gov.rw/survey/demographic-and-health-survey-dhs>

(2013/02/27 アクセス)

(6) 目標 6 : HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延阻止

2010 年の MDG レポートによると目標 6 は達成見込みである。HIV の感染率はサブサハラ地域の中でもルワンダは低い数値であるが、HIV はマラリアに次ぐ 5 歳未満の子供の死亡原因となっている⁴⁰。

⁴⁰ Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, p.64
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20Report%202010.pdf (2013/02/27 アクセス)

図表 26 HIV 感染率（男女別、2010 年）

Table 14.3 HIV prevalence by age

Among the de facto women age 15-49 and men age 15-59 who were interviewed and tested, the percentage HIV-1 positive, by age, Rwanda 2010

Age	Women		Men		Total	
	Percentage HIV positive	Number	Percentage HIV positive	Number	Percentage HIV positive	Number
15-19	0.8	1,532	0.3	1,450	0.5	2,982
20-24	2.4	1,372	0.5	1,158	1.5	2,531
25-29	3.9	1,270	1.7	1,037	2.9	2,307
30-34	4.2	880	3.5	710	3.9	1,590
35-39	7.9	715	3.8	493	6.3	1,208
40-44	6.1	612	7.5	430	6.7	1,042
45-49	5.8	534	5.6	413	5.7	947
Total 15-49	3.7	6,917	2.2	5,690	3.0	12,607
50-59	na	na	4.0	641	na	na
Total 15-59	na	na	2.4	6,331	na	na

na=Not applicable

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (NISR), Ministry of Health (MOH) and ICF International (2012) Rwanda Demographic and Health Survey 2010. p.211

<http://www.statistics.gov.rw/survey/demographic-and-health-survey-dhs>

(2013/02/27 アクセス)

図表 27 が示すようにマラリアに感染している子供は、都市部では 0.8%であるところ、地方では 1.4%と多くなっている。特に東と南の地方の感染率が高い。また、学校に通ったことがない母親を持つ子供は、学校に通ったことがある母親を持つ子供よりもマラリアに感染しやすい。また、貧困世帯の子供は、裕福な世帯の子供よりもマラリア感染率が 2 倍も高い。

図表 27 子供のマラリア感染状況（2010年）

Background characteristic	Malaria	Number of children
Age (in months)		
6-8	0.6	191
9-11	0.5	219
12-17	1.0	391
18-23	1.3	425
24-35	1.4	945
36-47	1.8	944
48-59	1.5	931
Sex		
Male	1.5	2,045
Female	1.2	2,001
Mother's interview status		
Interviewed	1.1	3,739
Not interviewed but in household	(0.0)	32
Not interviewed and not in household ¹	4.7	275
Residence		
Urban	0.8	475
Rural	1.4	3,571
Province		
City of Kigali	0.2	365
South	1.4	986
West	0.5	1,009
North	0.0	656
East	3.4	1,031
Education²		
No education	1.6	742
Primary	1.0	2,714
Secondary and higher	1.1	316
Wealth quintile		
Lowest	2.1	902
Second	1.7	884
Middle	0.7	817
Fourth	1.2	788
Highest	1.0	656
Total	1.4	4,046

Note: Figures in parentheses are based on 25-49 unweighted cases.
¹ Includes children whose mothers are deceased
² For women who are not interviewed, information is taken from the Household Questionnaire. Excludes children whose mothers are not listed in the Household Questionnaire.

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (NISR), Ministry of Health (MOH) and ICF International (2012) Rwanda Demographic and Health Survey 2010. p.174

<http://www.statistics.gov.rw/survey/demographic-and-health-survey-dhs>

(2013/02/27 アクセス)

(7) 目標 7：環境の持続可能性確保

目標 7 は、2010 年の MDG レポートによると、全体として達成困難な見通しである。

ルワンダの環境分野における問題としては、増加する人口が土地や、水、生態系などに与える悪影響が指摘されている。特に、土壌浸食、土地の肥沃さが減少していること、森林伐採、湿地の環境悪化、生物多様性の喪失が挙げられている。土地の肥沃さの減少は、連作を行っていることに加えて、肥料を使わないため、土地がやせてしまうことが原因である。

MDG レポートでは、貧困と環境の悪化は強く関係しており、環境の持続可能性は貧困削減政策には重要との認識が示されている。これは、ルワンダでは多くの人々が農業で生計を立てていることから、土壌浸食や土地の肥沃さの喪失によって、農業生産高が減少すれば、多くの人々の生活が圧迫されるためである。また、貧困と環境の悪化は、悪循環を招いているとも指摘されている。低い農業生産性と貧困のために、多くの農家は肥料を買う余剰の資金を持たない。そして、肥料を使わずに農業を継続して行っていくため、さらに土地が肥沃さを失っていつてしまうのである⁴¹。

安全な飲料水と衛生施設へのアクセス（目標 7C）については、ドナーからの支援があった場合には、達成可能との見通しが示されている⁴²。2010 年のデータでは、ルワンダ全体では、安全な水へのアクセスがある世帯割合は 74.2% である。

⁴¹ Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, p.73

⁴² Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, p.79
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20Report%202010.pdf (2013/02/27 アクセス)

図表 28 安全な飲料水へのアクセスがある世帯割合 (2010 年)

Table 6.1 % of HHs with access to improved drinking water

EICV3	Total improved water source	Improved water sources						Total no. of HHs (000s)					
		Protected spring	Public stand pipe	Piped into dwelling/yard	Borehole	Protected well	Rain water	Surface water (river or lake)	Unprotected spring	Unprotected well	Tanker truck	Other	
All Rwanda	74.2	38.1	25.7	5.9	1.8	2.3	0.4	11.6	10.6	2.3	0.0	1.3	2,253
Kigali City	82.7	10.0	35.0	32.6	2.1	3.0	0.1	4.4	3.7	0.9	0.0	8.3	223
Southern Province	74.8	54.6	13.2	2.1	0.1	4.7	0.0	11.1	11.0	3.0	0.0	0.1	549
Western Province	74.2	41.0	25.7	3.6	1.1	1.7	1.1	5.8	18.2	1.4	0.0	0.5	528
Northern Province	78.9	46.6	26.6	4.1	0.1	1.0	0.5	9.7	10.2	1.0	0.0	0.2	411
Eastern Province	66.6	23.9	33.9	2.1	5.4	1.2	0.1	22.3	5.8	4.0	0.1	1.3	542
Urban	86.4	21.4	33.0	27.8	1.5	2.4	0.2	4.8	2.1	0.9	0.0	5.8	331
Rural	72.1	41.0	24.4	2.1	1.9	2.3	0.4	12.8	12.0	2.5	0.0	0.5	1,922
Q1	68.4	46.5	17.3	0.0	1.6	2.8	0.2	13.3	15.3	2.4	0.0	0.5	381
Q2	71.4	45.4	21.6	0.2	1.6	2.2	0.3	13.3	12.5	2.5	0.0	0.3	415
Q3	71.5	42.4	24.2	0.7	1.8	2.1	0.2	13.8	11.0	2.8	0.0	0.9	448
Q4	73.2	38.0	28.4	1.4	2.1	2.8	0.4	12.8	10.2	2.4	0.0	1.5	490
Q5	84.0	22.7	33.9	23.1	1.8	1.8	0.7	6.1	5.4	1.5	0.1	2.9	519

Source: EICV3.

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (NISR), Ministry of Health (MOH) and ICF International (2012) Rwanda Demographic and Health Survey 2010, pp.22-23

<http://www.statistics.gov.rw/survey/demographic-and-health-survey-dhs> (2013/02/27 アクセス)

衛生施設へのアクセスは改善しており、次の表が示すように 2005 年の世帯調査 (EICV2) から 2011 年 (EICV3) までに衛生施設へのアクセスはルワンダ全国レベルでは 58.5% から 74.5% までに改善した。衛生施設へのアクセスは、キガリでは EICV3 の時点では 83.3% と極めて高くなっている。また高消費者層 (Q5) におけるアクセスについても、85.6% と全国平均よりも高い。他方で、低消費者層 (Q1) では、EICV2 からは改善がみられるものの、EICV3 の時点でも衛生施設へのアクセスは 64.7% と低く、衛生施設がない割合は 10% に上る。

図表 29 衛生施設へのアクセス（世帯割合、2005年、2011年）

EICV3	Total improved sanitation	Improved sanitation			Other	No toilet facilities	Total no. of HHs (000s)
		Flush toilet	Pit latrine with solid slab	Pit latrine without slab			
All Rwanda	74.5	1.7	72.8	19.4	0.0	6.1	2,253
Kigali City	83.3	8.1	75.2	15.2	0.1	1.5	223
Southern Province	66.2	0.6	65.6	27.9	0.0	5.9	549
Western Province	79.2	1.1	78.1	12.5	0.1	8.2	528
Northern Province	74.2	2.0	72.2	18.8	0.0	6.9	411
Eastern Province	74.9	0.6	74.3	19.5	0.0	5.6	542
Urban	82.6	7.5	75.1	14.1	0.0	3.3	331
Rural	73.1	0.7	72.4	20.3	0.0	6.6	1,922
Q1	64.7	0.0	64.7	25.2	0.0	10.1	381
Q2	72.1	0.2	71.9	21.5	0.0	6.3	415
Q3	71.9	0.2	71.7	22.2	0.1	5.9	448
Q4	74.7	0.4	74.3	20.2	0.0	5.1	490
Q5	85.6	6.7	78.9	10.3	0.0	4.1	519

Source: EICV3.

EICV2	Total improved sanitation	Improved sanitation			Other	No toilet facilities	Total no. of HHs (000s)
		Flush toilet	Protected latrines	Unprotected latrines			
All Rwanda	58.5	0.8	57.7	34.8	0.3	6.4	1,892
Kigali City	78.5	4.6	73.9	18.4	0.0	3.0	177
Southern Province	56.2	0.6	55.6	36.1	0.2	7.6	499
Western Province	57.9	0.4	57.5	34.1	0.6	7.5	448
Northern Province	64.6	0.3	64.3	30.2	0.0	5.2	347
Eastern Province	48.5	0.4	48.2	44.7	0.3	6.4	421
Urban	74.9	4.2	70.6	20.2	0.1	4.9	311
Rural	55.3	0.2	55.1	37.7	0.3	6.7	1,581
Q1	42.4	0.2	42.2	45.7	0.1	11.8	329
Q2	51.1	0.0	51.1	40.6	0.5	7.8	353
Q3	55.6	0.0	55.6	39.0	0.3	5.1	368
Q4	60.9	0.2	60.7	33.1	0.3	5.7	398
Q5	76.6	3.1	73.5	20.2	0.1	3.0	444

Source: EICV2

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (NISR), Ministry of Health (MOH) and ICF International (2012) Rwanda Demographic and Health Survey 2010

<http://www.statistics.gov.rw/survey/demographic-and-health-survey-dhs>

(2013/02/27 アクセス)

(8) 目標 8：開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

2010年のMDGレポートでは、目標8は開発パートナーからの支援があれば達成可能という見通しを示している⁴³。

⁴³ Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, p.84
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20R

電話、コンピュータやインターネットの利用に関しては、ルワンダの北部においては利用が増加しているが、南部においては ICT へのアクセスはまだ困難である。ルワンダは ICT を社会・経済開発計画の重要要素とし、2020 年までに農業を基盤とした経済から知識基盤型経済に移行することを目指している。しかし、この政策を実施するには様々な課題があり、特に熟練労働者が不足していることが課題として指摘されている⁴⁴ (ICT については、「VII. 重点支援分野と貧困の関わり 4. 人材育成」を参照のこと)。

図表 30 ルワンダにおける ICT の状況 (2010 年、2011 年、2012 年)

Sector performance	2010	2011	2012
ICT Development Index (Ranking, Index value) **	(140 th , 1.50) ^a	(133 rd , 1.66) ^f	N/Av.
Access sub-index (Ranking, Sub-index value) **	(142 nd , 1.63)	(133 rd , 1.91)	N/Av.
Fixed-telephone subscriptions (per 100 inhabitants) **	0.4	0.4	0.4
Mobile-cellular telephone subscriptions (per 100 inhabitants) **	33.4	40.6	53.1
International Internet bandwidth (Mbit/s) per Internet user **	1,933	4,414	N/Av.
Percentage of Households with Internet access **	3.2%	5.0%	N/Av.
Percentage of households with a computer **	1.3%	2.0%	N/Av.
Households with a television set (%)	—	6.4% ^g	N/Av.
Households with a radio set (%)	—	60.2% ^h	N/Av.
Use sub-index (Ranking, Sub-index value) **	(123 rd , 0.31)	(121 st , 0.45)	N/Av.
Percentage of individuals using the Internet **	7.0	8.0	26.2 ⁱ
Fixed (wired)-broadband subscriptions (per 100 inhabitants) **	0.0	0.0	0.03 ⁱ

(出所) Ministry of Youth and ICT (2012) ICT Profile, p.13

3. 食糧安全保障・脆弱性による分析

(1) 食糧安全保障の状況

2012 年の包括的食料保障および脆弱性分析及び栄養調査 (Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey : CFVAS) (2012 年 3 月-4 月調査) によると、食糧安全保障及び栄養状況に課題を抱えている世帯としては、貧困世帯、所得創出活動の種類が少ない世帯、さらに脆弱世帯 (教育を受けていない世帯主又は高齢者が世帯主の世帯) を挙げている⁴⁵。

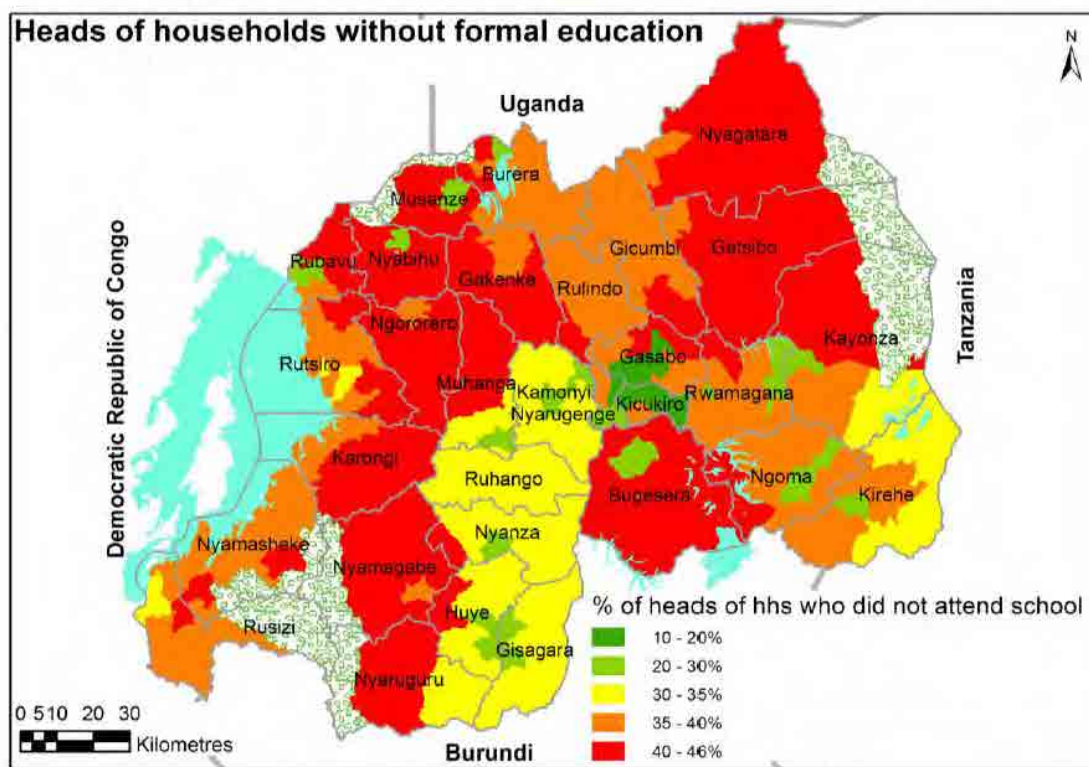
[eport%202010.pdf](#) (2013/02/27 アクセス)

⁴⁴ Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP, p.87
http://devinfo.rwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20Report%202010.pdf (2013/02/27 アクセス)

⁴⁵ WFP (2012) Rwanda: Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey (Data collected in March-April 2012), pp.46-61
<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp255144.pdf>
 (2013/02/27 アクセス)

地図 3 教育を受けていない世帯主の世帯数の分布 (2012 年)

Map 6: Proportion of households whose head did not receive any formal education



Source: CFSVA and Nutrition Survey, 2012

(出所) WFP (2012) Rwanda: Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey (Data collected in March-April2012), p.68

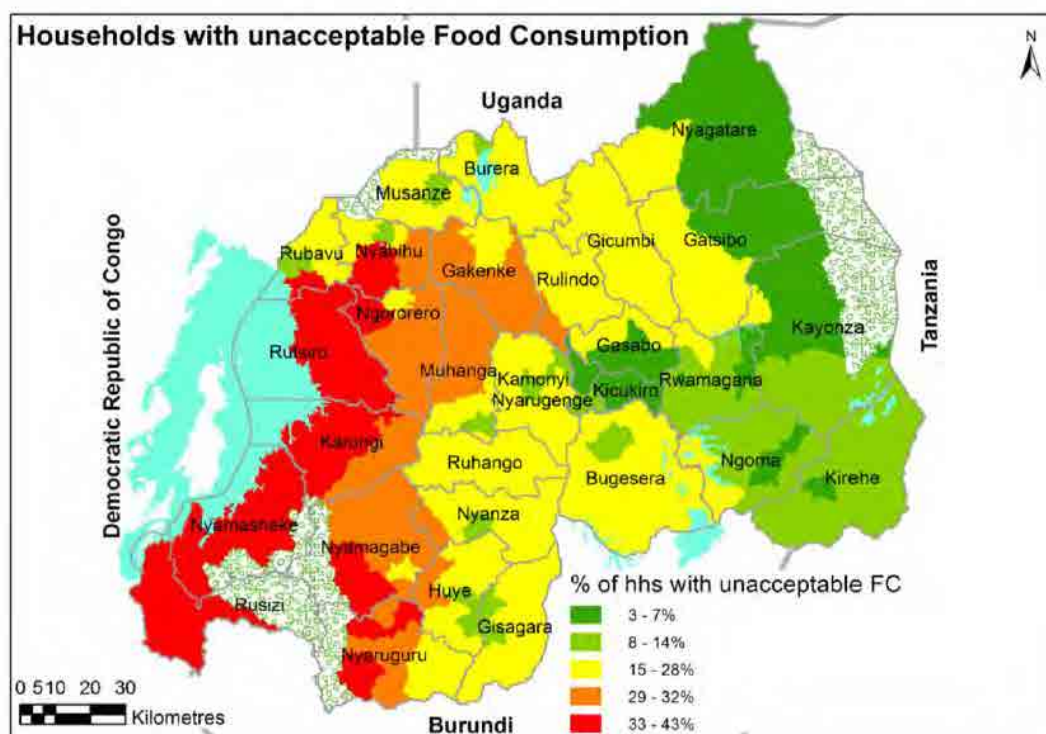
<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp255144.pdf>

(2013/02/27 アクセス)

所得創出活動については、所得創出活動の種類が多いほど、食糧安全保障に関して状況がよいとの調査結果が示されている。所得創出活動別にみると、低所得の農家 (Agriculturalists low income)、農業及び非熟練労働 (Agriculture and unskilled daily labourers)、農業労働者 (Agricultural workers) の層が食料調達や栄養状況に問題を抱えている。次の地図は、不十分な食料消費状況の世帯の分布を示している。特に西部と南部に集中している。

地図 4 不十分な食料消費状況世帯の分布 (2012 年)

Map 10: Distribution of households with unacceptable food consumption (poor and borderline)



Source: CFSVA and Nutrition Survey, 2012

(出所) WFP (2012) Rwanda: Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey (Data collected in March-April 2012), p.68

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp255144.pdf>

(2013/02/27 アクセス)

栄養状況については、都市部よりも地方で低栄養状況は深刻であり、道路や保健施設や市場などのサービスを受けにくい遠隔地に住む世帯においても、低栄養な食糧消費状況である⁴⁶。

⁴⁶ WFP (2012) Rwanda: Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey (Data collected in March-April 2012), pp.62-64

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp255144.pdf>

(2013/02/27 アクセス)

図表 31 保健施設・市場からの距離と食料安全保障状況（2012年）

Table 14: Time (in minutes) to access the nearest facilities out of the village, by households

		Time to health facility (min)	Time to the market (min)
FCS category	Poor	81	82
	Borderline	77	86
	Acceptable	67	75
Wealth quintile	1st poorest	78	87
	2nd	76	86
	3rd middle	73	81
	4th	66	75
	5th wealthiest	51	55
Type of village	Urban	32	31
	Rural	75	85
	Semi/peri-urban	60	64

Source: CFSVA and Nutrition Survey, 2012

(出所) WFP (2012) Rwanda: Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey (Data collected in March-April 2012), p.64

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp255144.pdf>

(2013/02/27 アクセス)

(2) 食糧安全保障状況と土壌の関係

ルワンダは 1,000 の丘の国といわれるように、傾斜の多い地形である。しかし、森林伐採や、適切な土壌保全措置をとらないまま、過度な耕作が行われており、土壌浸食や土地の肥沃さの喪失が懸念されている⁴⁷。次の地図が示すように、土壌浸食が深刻であり、土地の肥沃さが低い地域は、食糧安全保障状況に不安がある地域と同様の西部及び南部地域であることがわかる。

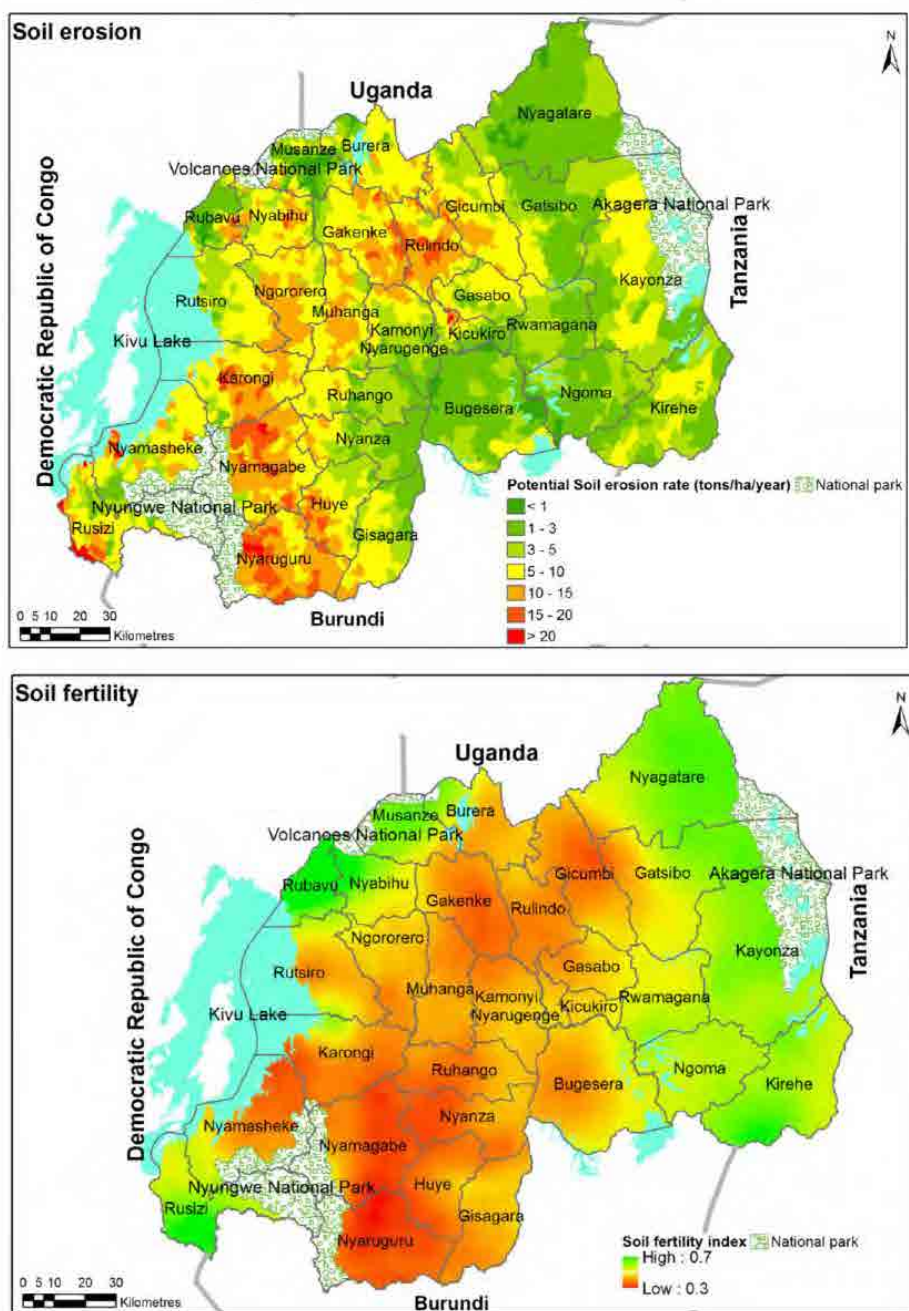
⁴⁷ WFP (2012) Rwanda: Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey (Data collected in March-April 2012), pp.64-65

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp255144.pdf>

(2013/02/27 アクセス)

地図 5 土壌浸食の可能性及び土地の肥沃さ

Map 8: Potential soil erosion and soil fertility



(出所) WFP (2012) Rwanda: Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey (Data collected in March-April2012), p.66

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp255144.pdf>

(2013/02/27 アクセス)

(3) 食糧安全保障関連の政策

ルワンダでは、VISION 2020 に基づき、2004 年に国家農業政策（National Agricultural Policy : NAP）が策定され、貧困削減と農家の所得増が目標として掲げられた。2005 年、NAP 実施のため、農業転換戦略計画（Strategic Plan for the Transformation of Agriculture : PSTA）が策定された⁴⁸。2007 年には、作物強化プログラム（Crop Intensification Programme）が開始され、農産物の生産を増加し、食糧安全保障と自給自足を確保することを目指している。CIP では特にとうもろこし、小麦、米、ジャガイモ、豆、キャッサバを重要作物とし、ルワンダ全国において土地の使用、趣旨や肥料のよりよい利用方法、マーケティング等様々な活動を実施している。実際に対象作物の生産高は、2007 年以降増加している⁴⁹。その他、農業分野においては、政府による家畜の支給（One Cow Per Poor Family）も実施されている⁵⁰。

しかし、食料安全保障の状況には、インフラや教育、土壌の状況等様々な要因が関わっているため、マルチ・セクターのアプローチが必要であると指摘されている⁵¹。

⁴⁸ その後 PSTA は改定され、PSTA II に基づいた活動が実施されている。FAO ウェブサイト参照：
<http://coin.fao.org/cms/world/rwanda/CountryInformation.html>（2013/02/27 アクセス）

⁴⁹ Ministry of Agriculture and Animal Resources ウェブサイト参照：
http://www.minagri.gov.rw/index.php?option=com_content&view=category&layout=blog&id=177&Itemid=38&lang=en（2013/02/27 アクセス）

⁵⁰ WFP (2012) Rwanda: Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey (Data collected in March-April 2012), p.100
<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp255144.pdf>（2013/02/27 アクセス）

⁵¹ 同上, p.103

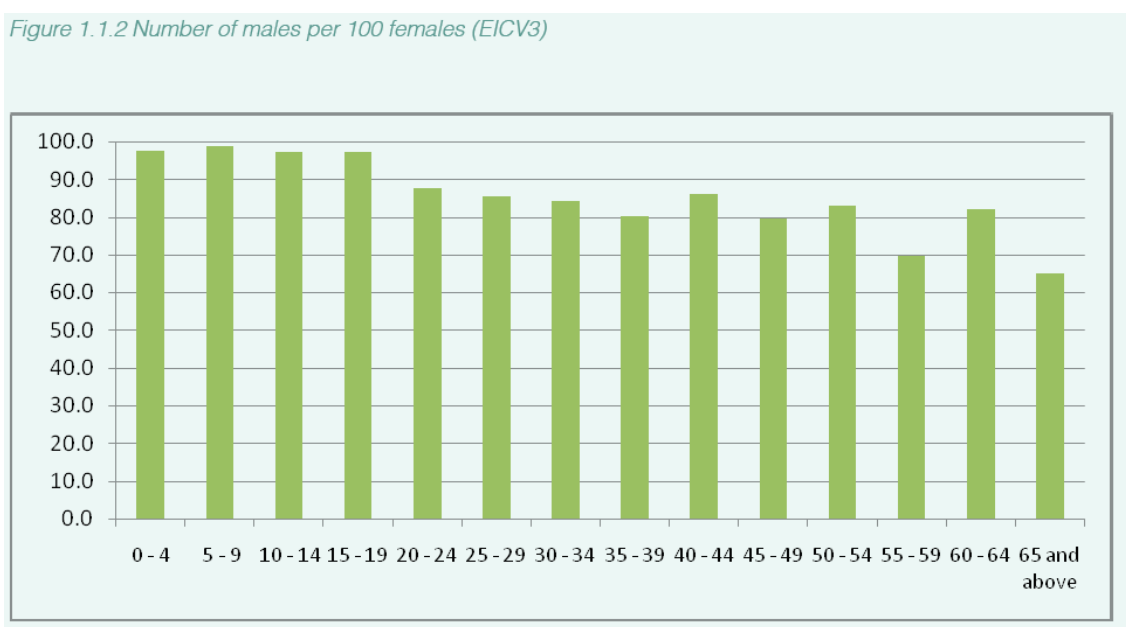
V. 社会的属性、特性と貧困関連分析

1. 社会的被排除グループと貧困指標の関わり

(1) 女性

EICV3 によると、ルワンダの全人口に占める女性の割合はおよそ 53%とされる。図表 32 が示すように、年齢が上がるるとともに女性 100 人あたりに占める男性の割合が低くなっている。この人口構造の背景には、紛争やジェノサイドの影響がある。1994 年 7 月のジェノサイド終結直後には、ルワンダの人口の 70%は女性であり⁵²、今日においても女性がルワンダの人口に占める割合は男性を上回っている。

図表 32 100 人あたりの女性に占める男性の割合 (EICV3)



(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.29

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

2012 年の EICV3 では、図表 33 が示すように脆弱層は女性、障害者、21 歳以下の若者とされている。

⁵² Elizabeth Powley (2004) United Nations Office of the Special Adviser on Gender Issues and Advancement of Women (OSAGI) Expert Group Meeting on “Enhancing Women’s Participation in Electoral Processes in Post-Conflict Countries” 19-22 January 2004, EGM/ELEC/2004/EP.5, p.5 <http://www.un.org/womenwatch/osagi/meetings/2004/EGMelectoral/EP5-Powley.PDF> (2013/02/27 アクセス)

図表 33 脆弱層が世帯主の世帯割合（2005年、2011年）

Table 1.1.10 Percentage of households headed by vulnerable individuals (women, disabled and under-21)

	EICV3				EICV2			
	Type of vulnerability			No. of HHs(in 000s)	Type of vulnerability			No. of HHs(in 000s)
	Women	Disabled	Under 21		Women	Disabled	Under 21	
All Rwanda	27.7	10.3	.9	2,253	28.6	8.2	1.3	1,892
Province								
Kigali City	23.6	4.6	.9	223	27.0	7.6	.8	177
Southern Province	30.5	12.1	.5	549	30.4	7.9	1.1	499
Western Province	28.7	11.8	1.1	528	28.8	8.4	1.7	448
Northern Province	25.1	12.1	.9	411	28.2	7.3	1.7	347
Eastern Province	27.5	8.2	1.0	542	27.4	9.3	1.2	421
Urban/rural								
Urban	25.7	7.0	.9	331	29.5	7.8	1.8	311
Rural	28.0	10.9	.9	1,922	28.5	8.3	1.2	1,581
Quintile								
Q1	29.7	12.3	.4	381	33.5	9.3	1.3	329
Q2	28.3	10.7	.4	415	29.9	8.6	.8	353
Q3	26.8	10.1	.9	448	28.3	7.5	1.3	368
Q4	28.5	10.4	1.3	490	28.3	7.7	1.6	398
Q5	25.7	8.7	1.3	519	24.6	8.1	1.5	444

* Vulnerable population includes women, individuals under 21 years of age and people with disabilities

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.36

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

女性が世帯主である世帯は、世帯全体の貧困率 44.9%よりも、47%とやや貧困率が高くなっている。2005年の EICV2 実施時よりも、EICV3 の調査時点では女性世帯主の世帯における貧困は大きく減少した。また、子供が世帯主である世帯の人口割合は、1.3%である。また、女性世帯主の世帯は EICV2 から EICV3 において、都市部では 29.5%から 25.7%へ、地方では 28.5%から 28%に若干減少している。EICV3 では、85%の人口が地方に居住していることから、女性世帯主の世帯は、都市部よりも地方に多い⁵³。

⁵³ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Gender, p.8
<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-gender>
 (2013/02/27 アクセス)

図表 34 世帯の脆弱性（2005年、2011年）

Table 2.1 Poverty levels, by vulnerability of household head

	EICV1		EICV2		EICV3	
	Population share	Poverty level	Population share	Poverty level	Population share	Poverty level
Femaleheaded	27.6	66.3	23.8	60.2	22.5	47.0
Widowheaded	22.0	67.7	18.7	59.9	15.9	45.9
Childheaded*	1.3	60.1	0.7	56.9	0.4	35.0
All households	100	60.4	100	56.9	100	44.9

Source: Main Indicators report. Note: Sample size for child-headed HHs is very small, so the poverty level estimates for this group should be interpreted with caution.

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Gender, p.8

<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-gender> (2013/02/27 アクセス)

他方で、男性世帯主が3カ月以上不在の世帯で、事実上は女性が世帯主となっている世帯（De facto female-headed）の場合は、常時男性世帯主及び常時女性世帯主の世帯よりも貧困率は16.5%と下回っているが、最貧困状況の割合が高く、全体として貧困層の割合が大きくなっている。

図表 35 性別・世帯別の貧困レベル（2011年）

Table 2.2 Poverty levels, by sex of household head

	Poverty status			
	Extremely poor	Poor	Non-poor	Total
Maleheaded	22.5%	21.1%	56.3%	100.0%
Femaleheaded	26.0%	21.0%	53.0%	100.0%
De facto female headed	34.3%	16.5%	49.2%	100.0%
All HH	24.1%	20.8%	55.1%	100.0%

Source: EICV3; de facto female-headed HHs are those HHs where a married male head is absent for more than three months in the previous year.

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Gender, p.8

<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-gender> (2013/02/27 アクセス)

図表 36 によると、「事実上の女性世帯主世帯」における、男性世帯主の長期不在理由としては、拘留・徴兵（Detention or compulsory service）が41.1%、仕事が19.7%となっている。他方、「男性世帯主世帯」でも世帯主が不在となる場合があるが、不在理由は、友人や親族への訪問（35.8%）、季節労働（37.7%）であり、これらの不在期間は、「事実上の女性世帯主世帯」における男性の不在期間よりも短い⁵⁴。

⁵⁴ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Gender, p.4
<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-gender>
 (2013/02/27 アクセス)

図表 36 世帯主の不在理由（世帯主種類別、2011 年）

Table 1.5 Absence and reason for time away by sex of householdhead

	Male headed	Female headed	De facto female headed	Total
Head absent from HHin the last 12 months				
Yes	15.6	11.6	100.0	19.4
No	84.4	88.4	0.0	80.6
Total	100.0	100.0	100.0	100.0
Main reason of absence from HHin the last 12 months				
Visit friend or family	35.8	47.2	2.1	27.5
Seasonal work	37.7	4.6	19.7	26.8
Detention or compulsory service	4.2	2.3	41.1	15.0
Working away now	7.3	1.2	28.2	12.6
Health care	3.7	21.3	0.8	5.7
Other	3.7	12.8	4.9	5.6
Training	4	4.4	0.2	2.9
Attend ceremony	1.9	4.9	0	1.8
Studies	0.9	1.1	1.6	1.2
Unexplained absence	0.7	0	1.4	0.8
Total	100.0	100.0	100.0	100.0

Source: EICV3

（出所） National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Gender, p.4
<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-gender> （2013/02/27 アクセス）

図表 37 過去 12 カ月で世帯主が不在にした期間（2011 年）

Table 1.4 Time householdhead was absent in previous 12 months

	Male headed	Female headed	De facto female headed	Total
	Mean	Mean	Mean	Mean
Kigali City	0.7	0.6	8.0	2.1
Southern Province	1.2	1.3	9.8	4.7
Western Province	1.4	2.0	9.5	4.8
Northern Province	1.7	1.7	8.0	4.0
Eastern Province	0.6	0.6	8.8	2.2
Total	1.0	1.0	9.1	3.4

（出所） National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Gender, p.4
<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-gender> （2013/02/27 アクセス）

(2) 若者

全体では、38.5%の若者が貧困線未満の世帯で生活しており、これはルワンダの全年齢の貧困率 44%よりは若干低い。他方で、若者の中でも、女性の方が男性よりも貧困率が高く

なっている。

図表 38 貧困線未満の若者の割合（2011 年）

Table 4.10 Proportion of young people below poverty line

	Male	Female	Overall	Total (oos)
14-19 years	44.0	44.0	44.0	1,491
20-24 years	32.7	34.2	33.5	1,026
25-29 years	28.9	36.9	33.2	885
30-35 years	33.9	45.6	40.3	757
Total	36.4	40.3	38.5	4,159

Source: EICV3

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Youth, p.17

<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-youth> (2013/02/27 アクセス)

図表 39 経済活動及び失業率（性別・年齢別）（2011 年）

Table 4.1 Economic activity and unemployment rates, by sex and age groups

	14-19		20-24		25-29		30-35		Total		All
	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	
Usual economic activity											
Employed	36.8	36.7	77.0	79.3	94.5	94.0	97.4	97.2	69.1	71.2	70.2
Unemployed	0.3	0.4	1.6	1.7	0.9	2.0	0.7	0.8	0.8	1.1	1.0
Student	58.7	59.4	20.0	15.9	3.9	2.3	0.3	0.3	27.7	24.9	26.3
Domestic duties	2.4	2.2	0.5	2.1	0.0	0.9	0.0	1.0	1.0	1.7	1.4
Disability or illness	0.8	0.6	0.7	0.8	0.4	0.8	0.7	0.5	0.7	0.7	0.7
Other	0.8	0.6	0.2	0.0	0.2	0.1	0.7	0.1	0.5	0.2	0.4
No information	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
Total	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Economically active											
Employed	37.2	37.0	78.6	81.1	95.5	95.9	98.1	98.0	70.0	72.4	71.2
Inactive	62.7	62.8	21.3	18.9	4.5	4.1	1.8	2.0	30.0	27.6	28.7
No information	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
Total	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Unemployment rate											
Unemployment rate	0.9	1.0	2.0	2.2	1.0	2.0	0.7	0.8	1.2	1.6	1.4

Source: EICV3. Persons aged 14 to 35 years

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Youth, p.10

<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-youth> (2013/02/27 アクセス)

図表 39 が示すように、若者の失業率は 1~2%と低い数値である。ここで注意すべきは、ILO の定義では、失業とみなされるには、少なくとも 1 週間に 1 時間以上働き、仕事を積極的に探している必要があることである。しかし、社会的なセーフティネットがない国にお

いては、この失業率は一般的に低くなる傾向がある⁵⁵。したがって、ルワンダのような国においては、不完全雇用（underemployment）についてみる必要がある。不完全雇用状態とは、フルタイムよりは少なく働いているが、仕事があればさらにそれ以上に労働する意志がある人々を指す⁵⁶。

図表 40 は 1 週間の就労時間を示している。14-35 歳のルワンダ人のうち 65%が 1 週間に 35 時間未満の就労時間であり、この層を不完全雇用の状況であると想定することができる。また、15%は 10 時間未満の就労時間である。

図表 40 1 週間の就労時間（年齢グループ別）

Table 4.4 Hours worked in last seven days, by age group

Hours in all jobs	14-19 years	20-24 years	25-29 years	30-35 years	All 14-35 years
1-5 hours	9	6	5	4	6
6-10 hours	11	8	8	8	9
11-15 hours	10	9	9	9	9
16-20 hours	1	10	12	10	10
21-25 hours	8	12	1	12	1
26-30 hours	9	11	12	12	11
31-35 hours	7	8	8	8	8
36-40 hours	6	8	9	9	8
41-45 hours	5	5	5	6	5
46-50 hours	4	5	5	6	5
51 or more hours	21	18	16	16	17
Total	100	100	100	100	100

Base: All adults 14-35 years who worked in the previous seven days, and gave the numbers of hours worked in all their jobs.

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Youth, p.12

<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-youth> (2013/02/27 アクセス)

14 歳-35 歳の 59%がインフォーマルセクターにおける労働に従事している（図表 41）。また、男性よりも女性の方がインフォーマルセクターで働く割合が大きい。

⁵⁵ 雇用保険などの社会保障制度が十分に整備されていないため、失業することができず不十分な待遇の仕事に就かざるを得ない状況にあるためである。（総務省統計局、労働力調査の解説（第三版）p.104, <http://www.stat.go.jp/data/roudou/pdf/hndbk10.pdf>）（2013/02/27 アクセス）

⁵⁶ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Youth, p.10

図表 41 若者の賃金労働（セクター別）

Table 4.7 Youths in waged work by public and private sector, sex and age group

	14-19		20-24		25-29		30-35		All
	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Both
Public	1.2	0.2	4.3	5.7	9.8	11.6	15.2	13.2	14.5
Parastatal	1.6	1.2	3.1	4.4	3.2	3.7	3.3	3.7	3.4
Private, formal	8.6	7.1	17.3	13.1	21.6	13.9	24.3	14.3	20.9
Private, informal	87.6	90.2	74.0	76.2	63.4	69.2	55.2	66.5	59.0
Other	0.9	1.3	1.2	0.6	2.0	1.6	2.1	2.3	2.2
Total	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

Source: EICV3 Person aged 14 to 35 years working in the last 12 months

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Youth, p.14

<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-youth> (2013/02/27 アクセス)

インフォーマルセクターの労働者は、他の労働者層（正規労働者、公務員等）と比較すると、従事者の人数が92万人と最も人数が多い。しかし、貧困状況を見ると最貧困層が26.8%、貧困層が18.9%と割合が高くなっている。

図表 42 セクター別の貧困率の状況（2011年）

Table 10.2 Poverty status by sector of those in waged work

EICV3	Poverty status			Total	Total number of persons (000s)
	Extreme	Poor	Non-poor		
All Rwanda	21.2	15.5	63.3	100.0	1,317
Public	3.4	4.4	92.3	100.0	120
Parastatal	8.9	12.8	78.3	100.0	45
Private, formal	11.0	8.5	80.6	100.0	214
Private, informal	26.8	18.9	54.2	100.0	916
NGO local	*	*	*	100.0	7
International	*	*	*	100.0	10
Other/don't know	*	*	*	100.0	5

* Sample too small for reliable data

Base: Persons aged 16+ years who are usually working in wage/salaried jobs (excluding VUP scheme). Source: EICV3

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Economic Activity, p.33,

<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-economic-activity>

(2013/02/27 アクセス)

2. その他の要因と貧困の関わり

(1) 生活水準の向上

貧困率が 2005 年から 2010 年の間に大幅に減少したことを示す指標として、EICV 調査では各世帯における生活水準の向上を指摘している。

図表 43 は、2005 年から 2010 年の間に、国レベル、地方・都市、全ての世帯において改善した指標として、就学率、保健、住居と住居設備に関する指標をまとめたものである。中学校への就学率は、10.4%から 20.9%に改善している⁵⁷。また、照明のエネルギー源としての電気の使用、さらにラジオを保有している世帯の増加も、ルワンダ全体における生活水準の向上を示している（電気に関しては、「VII. 重点支援分野と貧困の関わり 1. 産業基盤整備 (1) 電気」を参照）。

⁵⁷ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Evolution of Poverty in Rwanda from 2000 to 2011: Results from the Household Surveys (EICV), p.27
<http://statistics.gov.rw/publications/evolution-poverty-rwanda-2000-2011-results-household-surveys-eicv>
(2013/02/27 アクセス)

図表 43 生活水準を示す指標の推移（2005 年、2011 年）

Table 11 Evolution of other indicators of living standards between EICV2 and EICV3

		Net secondary enrolment		Access to improved drinking water source		Improved sanitation		Primary source of lighting is electricity distributor		% of HHs owning a radio	
		EICV3	EICV2	EICV3	EICV2	EICV3	EICV2	EICV3	EICV2	EICV3	EICV2
All Rwanda		20.9	10.4	74.2	70.3	74.5	58.5	10.8	4.3	60.2	46.7
Province	Kigali City	41.0	24.6	82.7	84.8	83.3	78.5	55.6	29.7	57.3	53.5
	Southern	18.4	8.8	74.8	73.4	66.2	56.2	3.2	2.1	60.4	46.2
	Western	18.3	8.8	74.2	67.8	79.2	57.9	8.2	2.0	51.7	37.6
	Northern	21.3	7.3	78.9	76.7	74.2	64.6	6.7	1.0	63.8	43.8
	Eastern	18.5	10.6	66.6	57.7	74.9	48.5	5.6	1.7	66.9	56.2
Urban/ rural	Urban	37.4	21.1	86.4	83.9	82.6	74.9	46.0	23.1	57.7	50.7
	Rural	18.2	8.3	72.1	67.6	73.1	55.3	4.7	0.7	60.7	45.9
Quintile	Q1	8.6	2.2	68.4	66.6	64.7	42.4	0.4	0.0	42.9	27.5
	Q2	13.0	5.6	71.4	66.7	72.1	51.1	0.8	0.2	58.1	40.0
	Q3	18.7	9.3	71.5	67.2	71.9	55.6	2.1	0.1	63.6	46.9
	Q4	24.3	14.2	73.2	68.9	74.7	60.9	5.6	0.6	66.3	55.8
	Q5	39.8	21.3	84.0	79.6	85.6	76.6	38.8	17.8	66.0	57.7

（出所） National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Evolution of Poverty in Rwanda from 2000 to 2011: Results from the Household Surveys (EICV), p.27

<http://statistics.gov.rw/publications/evolution-poverty-rwanda-2000-2011-results-household-surveys-eicv>

（2013/02/27 アクセス）

(2) 世帯規模の縮小

NISR の分析では、ルワンダにおいて貧困率が低下したことの背景には世帯規模が縮小し、各世帯における消費が減少したことが影響した可能性が指摘されている⁵⁸。

世帯規模については、2005 年の調査の際は、一世帯の人数の全国平均は 5 人であったが、2011 年には 4.8 人となっており、世帯における人数が減少した。また、一人世帯の数が最も多いのは、高消費層（Q5）の 11.8%である（2011 年）。

⁵⁸ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Evolution of Poverty in Rwanda from 2000 to 2011: Results from the Household Surveys (EICV), p.28
<http://statistics.gov.rw/publications/evolution-poverty-rwanda-2000-2011-results-household-surveys-eicv>
 （2013/02/27 アクセス）

図表 44 世帯規模の比較 (2005 年、2011 年)

Table 1.1.9 Distribution of household by size (no. of members), province, urban/rural, sex and educational level of head and quintiles (%)

		HH size						No. of HHs(in 000s)	
		1 Person	2-4 Persons	5-7 Persons	8-10 Persons	11 Persons or more	Mean no. of persons		
EICV3	All Rwanda	4.6	44.5	39.5	10.1	10.1	4.8	2,253	
	Kigali City	6.9	44.9	33.6	12.6	12.6	4.7	223	
	Southern	5.5	46.1	39.0	8.7	8.7	4.6	549	
	Province	Western	3.2	43.9	41.1	10.5	10.5	4.9	528
	Northern	4.6	43.9	39.6	10.8	10.8	4.8	411	
	Eastern	4.4	43.6	41.0	9.6	9.6	4.8	542	
	Urban/ rural	Urban	6.9	42.1	36.6	12.6	12.6	4.8	331
	Rural	4.3	44.9	40.1	9.7	9.7	4.8	1,922	
	Sex	Male	3.3	38.8	43.9	12.5	12.5	5.1	1,629
	Female	8.1	59.3	28.2	4.0	4.0	3.9	624	
	Quintile	Q1	.8	30.9	51.8	15.0	15.0	5.6	381
	Q2	1.0	39.8	47.3	10.8	10.8	5.1	415	
Q3	2.4	47.2	40.8	8.7	8.7	4.7	448		
Q4	5.2	53.9	32.9	7.2	7.2	4.4	490		
Q5	11.8	46.8	29.6	10.0	10.0	4.4	519		

EICV2	All Rwanda	3.9	41.6	40.2	12.4	12.4	5.0	1,892	
	Kigali City	6.1	39.1	34.9	16.3	16.3	5.2	177	
	Southern	4.2	45.4	38.7	10.3	10.3	4.8	499	
	Region	Western	3.2	40.1	41.6	13.0	13.0	5.1	448
	Northern	3.7	39.9	42.1	12.9	12.9	5.0	347	
	Eastern	3.5	41.3	41.2	12.3	12.3	5.0	421	
	Urban/ rural	Urban	6.2	40.2	36.2	13.9	13.9	5.0	311
	Rural	3.4	41.9	41.0	12.1	12.1	5.0	1,581	
	Sex	Male	3.2	36.0	43.0	15.3	15.3	5.4	1,350
	Female	5.5	55.6	33.1	5.2	5.2	4.2	542	
	Quintile	Q1	.6	31.9	49.9	16.2	16.2	5.6	329
	Q2	1.6	39.5	43.5	13.7	13.7	5.2	353	
Q3	2.7	42.8	40.3	12.2	12.2	5.1	368		
Q4	3.4	47.5	38.1	10.1	10.1	4.7	398		
Q5	9.5	44.4	32.1	10.9	10.9	4.6	444		

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, pp.35-36

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

実際に、図表 45 が示すように出生率も低下している。出生率は、年齢とともに増加し、25 歳から 29 歳にピークとなり、その後は減少していく。1992 年から比較すると 2010 年には大幅に減少していることがわかる。

図表 45 年齢別出生率の傾向（1992、2000、2005、2007、2010 年）

Table 5.3.2 Trends in fertility

Age-specific fertility rates (per 1,000 women) and total fertility rates, 1992 RDHS, 2000 RDHS, 2005 RDHS, 2007-08 RIDHS, and 2010 RDHS.

Age group	1992 RDHS	2000 RDHS	2005 RDHS	2007-08 RIDHS	2010 RDHS
15-19	60	52	42	40	41
20-24	227	240	235	211	195
25-29	294	272	305	272	248
30-34	270	257	273	246	217
35-39	214	190	211	209	164
40-44	135	123	117	105	98
45-49	46	33	32	20	21
Total	6.2	5.8	6.1	5.5	4.6

Note: Age-specific fertility rates are per 1,000 women.

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (NISR), Ministry of Health (MOH) and ICF International (2012) Rwanda Demographic and Health Survey 2010. p.236

<http://www.statistics.gov.rw/survey/demographic-and-health-survey-dhs> (2013/02/27 アクセス)

VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因

1. 短期・長期的要因、リスクとショック（経済、社会、環境、紛争等）

(1) 送金

貧困削減に寄与した要因のひとつとしては、海外からの送金が挙げられている⁵⁹。図表 46 が示すように、EICV2 から EICV3 では、送金を主な収入源とする世帯が全体の 1.5% から 2.2% へ増加し、この世帯層の貧困層の割合は、45.6% から 28.6% までに減少している。他世帯と比較すると、送金を受けている世帯は、人口に占める割合は少ないものの、貧困率は 28.6% と低い。

図表 46 収入源別世帯の貧困割合（2005 年、2011 年）（再掲）

Table 8.1.4 Population shares and poverty classified by the main household activity

	Share of population (%)		Percentage of poverty	
	EICV2	EICV3	EICV2	EICV3
Mostly agriculture	56.6	52.2	62.8	52.2
Mostly farm wage	4.3	3.6	88.1	76.6
Mostly non-farm wage	7.3	10.7	36.6	22.8
Mostly non-farm self-employment	27.0	16.2	46.5	24.2
Mostly transfers	1.5	2.2	45.6	28.6
Diversified, but farm wage more than 30%	1.0	4.1	77.3	76.2
Diversified, but farm wage less than 30%	2.3	11.1	28.4	47.6
Total	100.0	100.0	56.7	44.9

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.137

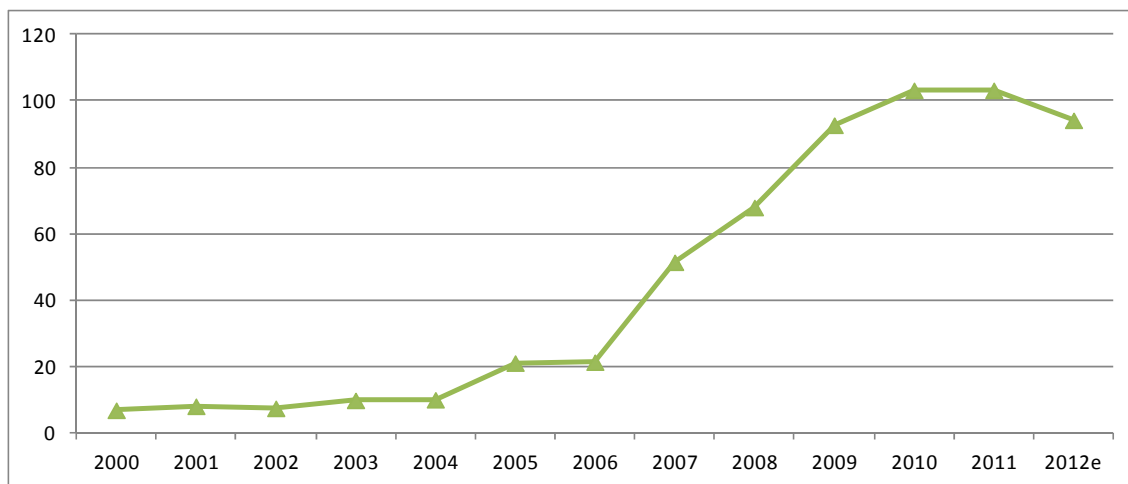
<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

他方で 2011 年の海外からの送金額がルワンダの GDP に占める割合は 1.6 % と、割合は多くはない。しかし、送金額は、2000 年の約 660 万ドルから増加し、2011 年は約 1 億 300 万ドルまで上昇、2012 年は若干減少しているが約 9,400 万ドル（推計）であり、2000 年か

⁵⁹ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Evolution of Poverty in Rwanda from 2000 to 2011: Results from the Household Surveys (EICV), p.28
<http://statistics.gov.rw/publications/evolution-poverty-rwanda-2000-2011-results-household-surveys-eicv>
(2013/02/27 アクセス)

らは大きく増加している。

図表 47 ルワンダへの海外送金額推移（2000年-2012年）（100万米ドル、名目）



（注）2012年は推計

（出所）World Bank, Migration and Remittances Data より作成

<http://econ.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/EXTDEC/EXTDECPROSPECTS/0,.contentMDK:22759429~pagePK:64165401~piPK:64165026~theSitePK:476883.00.html>（2013/02/11 アクセス）

ルワンダへの送金は、ウガンダ（2,510万米ドル）、ベルギー（1,530万米ドル）、タンザニア（1,020万米ドル）からの送金額が大きく、全体の56%を占めている（図表48）。

図表 48 低開発途上国における送金経路上位（2010年）

Table 7. Top remittance corridors by recipient LDC							
Recipient country	Main corridor		Second main corridor		Third main corridor		Cumulative importance of the 3 main corridors for the recipient country (%)
	Sending country	Remittances inflows in 2010 (\$ million)	Sending country	Remittances inflows in 2010 (\$ million)	Sending country	Remittances inflows in 2010 (\$ million)	
Benin	Nigeria	87.4	France	28.4	Togo	24.0	59
Burkina Faso	Côte d'Ivoire	32.9	Italy	1.4	France	0.7	90
Burundi	United Rep. of Tanzania	0.8	Uganda	0.5	Belgium	0.3	49
Comoros	France	9.9	Madagascar	0.5	Egypt	0.2	96
Djibouti	France	18.1	Ethiopia	3.3	Canada	1.7	62
Ethiopia	United States	148.3	Israel	64.8	Sudan	26.0	62
Gambia	Spain	20.3	United States	10.7	United Kingdom	6.2	61
Guinea	France	11.6	Côte d'Ivoire	11.3	Senegal	6.7	45
Guinea-Bissau	Portugal	11.1	France	4.9	Spain	3.5	72
Lesotho	South Africa	457.0	Mozambique	19.2	United States	1.6	95
Liberia	United States	32.3	Guinea	7.8	Côte d'Ivoire	4.2	77
Madagascar	France	8.0	Canada	0.3	Belgium	0.2	85
Malawi	United Kingdom	0.3	Zimbabwe	0.2	South Africa	0.1	69
Mali	Côte d'Ivoire	121.0	France	91.1	Nigeria	37.3	65
Mauritania	France	0.5	Spain	0.3	Senegal	0.3	60
Mozambique	South Africa	51.9	Portugal	24.7	Malawi	7.8	72
Niger	Nigeria	14.6	Côte d'Ivoire	13.8	Benin	11.8	58
Rwanda	Uganda	25.1	Belgium	15.3	United Rep. of Tanzania	10.2	56
Sao Tome & Principe	Portugal	1.2	Angola	0.4	Capa Verde	0.1	92
Senegal	France	309.8	Italy	248.1	Gambia	152.4	61
Sierra Leone	United Kingdom	11.1	United States	10.2	Guinea	9.1	63
Sudan	Saudi Arabia	1025.5	Uganda	407.1	United States	270.6	54
Togo	France	61.2	Nigeria	54.3	Germany	49.6	55
Uganda	Kenya	326.2	United Kingdom	176.4	United States	87.4	76
United Rep. of Tanzania	United Kingdom	4.5	Canada	3.2	Kenya	2.5	58
Zambia	United Kingdom	23.4	United Rep. of Tanzania	9.0	United States	6.5	55
Haiti	United States	1055.0	Dominican Republic	178.9	Canada	129.7	91
Bangladesh	India	3768.9	Saudi Arabia	1249.2	United Kingdom	1113.9	55
Cambodia	United States	179.5	France	80.2	Australia	36.0	81
Lao People's Dem. Rep.	United States	0.6	France	0.2	Thailand	0.1	87
Myanmar	Thailand	55.6	United States	48.6	Australia	11.9	75
Nepal	Qatar	1125.2	India	960.9	United States	428.4	72
Yemen	Saudi Arabia	1039.4	United States	134.8	United Arab Emirates	122.0	88
Kiribati	United States	2.4	Germany	2.0	New Zealand	1.3	65
Samoa	New Zealand	65.8	United States	31.4	Australia	26.6	87
Solomon Islands	Australia	1.5	New Caledonia	0.4	New Zealand	0.3	80
Vanuatu	Australia	2.9	France	1.4	New Caledonia	0.7	72

Source: UNCTAD secretariat calculations based on World Bank dataset Bilateral remittance 2010 estimates using migrant stocks, destination and source country incomes; <http://econ.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/EXTDEC/EXTDECPROSPECTS/0,,contentMDK:22803131~pagePK:64165401~piPK:64165026~theSitePK:476883,00.html>

(出所) UNCTAD(2012) The Least Developed Countries Report 2012, Harnessing Remittances and Diaspora Knowledge to Build Productive Capacities,p.56

http://unctad.org/en/PublicationsLibrary/ldc2012_en.pdf (2013/02/27 アクセス)

(2) 農業生産高の増加

2005年から2011年にかけての貧困率削減には、農業生産の増加、さらに農業の商業化が指摘されている⁶⁰。詳細は、「VII. 重点支援分野と貧困の関わり 2. 農業」を参照のこと。

⁶⁰ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Evolution of Poverty in Rwanda from 2000 to 2011: Results from the Household Surveys (EICV), p.28

(3) 紛争

大湖地域の不安定な状況は、1990年代からルワンダにおける主要な懸念事項となっている。特に、1994年の虐殺は国土を荒廃させた。

また、元ルワンダ元兵士などで構成されるルワンダ解放民主軍(Democratic Forces for the Liberation of Rwanda)はコンゴ東部に拠点を置き、引き続きルワンダ内部やコンゴ人に対して攻撃を行っている⁶¹。

さらに2012年には、コンゴ民主共和国の反政府武装勢力であるM23(Mouvement du 23 mars)が、ゴマに攻め入った。これに関して、国連安全保障理事会が組織した調査委員会による報告書にはルワンダ政府がM23を支援していると指摘している⁶²。そのため、ルワンダへの支援を凍結するよう求めるNGO⁶³、また、支援継続を検討するドナーもいる⁶⁴。ルワンダが支援に大きく依存していることを考えると、こうした動向がルワンダの貧困状況に与える影響は大きい。

(4) 財政⁶⁵

ルワンダ政府は、2000年に策定した「VISION2020」において、マクロ経済の安定を図ると共に、貧困削減と社会経済発展に向けた国家開発計画を掲げている。同計画に基づく財政運営の結果、国際収支では、経常収支赤字(対GDP比)は2009年に8%を超えていたものの、2012年には5.8%にまで低下、2013年以降は3%台に安定する見込みである。2011年の国際収支統計では、コーヒーおよび紅茶の輸出額が約24%(前年比)伸びており、錫を中心とする鉱物の輸出が飛躍的に拡大、約135%増(前年比)となっている他、観光業も好調で前年比25%増、外国直接投資(FDI)も初めて100万米ドルを超えて前年比116%

<http://statistics.gov.rw/publications/evolution-poverty-rwanda-2000-2011-results-household-surveys-eicv>
(2013/02/27 アクセス)

⁶¹ Ted Dagne (2011) Rwanda : Background and Current Development, CRS, R40115, p.7

http://assets.opencrs.com/rpts/R40115_20110429.pdf (2013/02/27 アクセス)

⁶² UN Security Council, Letter dated 12 November 2012 from the Chair of the Security Council Committee established pursuant to resolution 1533(2004) concerning the Democratic Republic of the Congo addressed to the President of the Security Council, S/2012/843
http://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BF9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4FF96FF9%7D/s_2012_843.pdf (2013/02/27 アクセス)

⁶³ Human Rights Watch, Relations with Rwanda must be urgently reviewed, November 8 2012
<http://www.hrw.org/news/2012/11/08/relations-rwanda-must-be-urgently-reviewed>
(2013/02/27 アクセス)

⁶⁴ House of Commons, International Development Committee, UK Aid to Rwanda, Seventh Report of Session 2012-2013, HC 726, Published on 30 November 2012
<http://www.publications.parliament.uk/pa/cm201213/cmselect/cmintdev/726/726.pdf> (2013/02/27 アクセス)

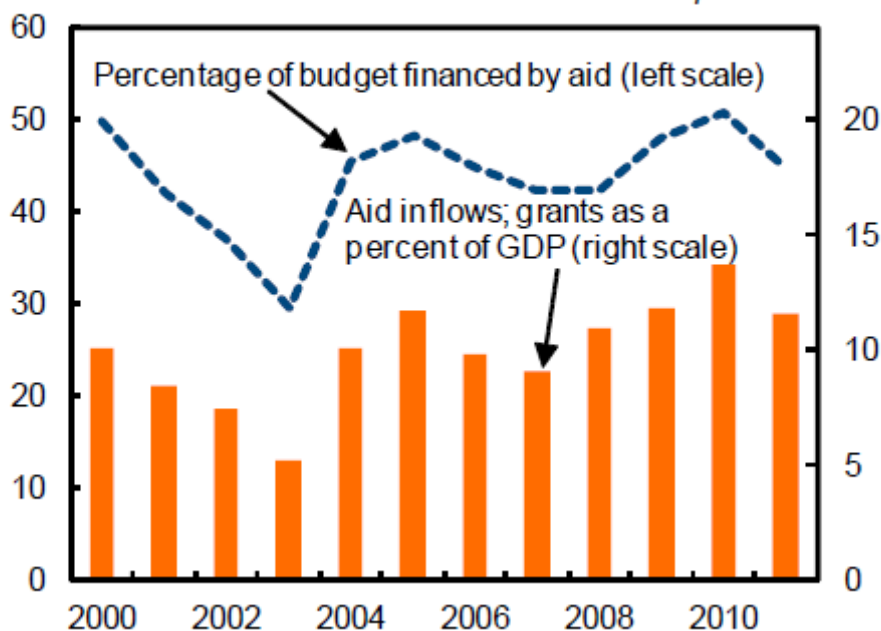
⁶⁵ 算出根拠の数字は全て以下参照。IMF(2012) Rwanda: Fourth Review Under the Policy Support Instrument and Request for Modification of Assessment Criteria—Staff Report; Press Release, Country Report No. 12/152
<http://www.imf.org/external/pubs/ft/scr/2012/cr12152.pdf> (2013/02/27 アクセス)

増と推計されている。2000年以降、債務返済比率はGDP比約2%と低い数字で推移している他、歳入の対GDP比率は約15%、外貨準備保有高（対輸入額）も毎年4カ月を超えており、安定した数字を維持している。

他方、国家予算に対する外国からの援助（外国政府・国際機関等からの無償援助（グラント）対GDP）は、13%であった2009年と比して、約10%（2012年）まで低下し2014年以降は7%台まで下がる見込みであるが、国家歳入に占める援助への依存度は約44%（2012年）と依然高い数字であり、国際援助への依存度の高さが構造的弱点となっている。

図表 49 ルワンダの援助依存度（2000年-2011年）（IMF）

Donor support has exceeded the projection in 2011, because Rwanda continues to be aid dependent.



（出所）IMF Country Report (Rwanda : Fourth Review Under the Policy Support Instrument and Request for Modification of Assessment Criteria- Staff Report;Press Release) p.8

<http://www.imf.org/external/pubs/ft/scr/2012/cr12152.pdf> （2013/02/27 アクセス）

2. 国特有の事項

(1) 地理

ルワンダは内陸国であり、アフリカの中で最も国土面積が小さい国の一つであり、地理的に様々な制約を抱えている。

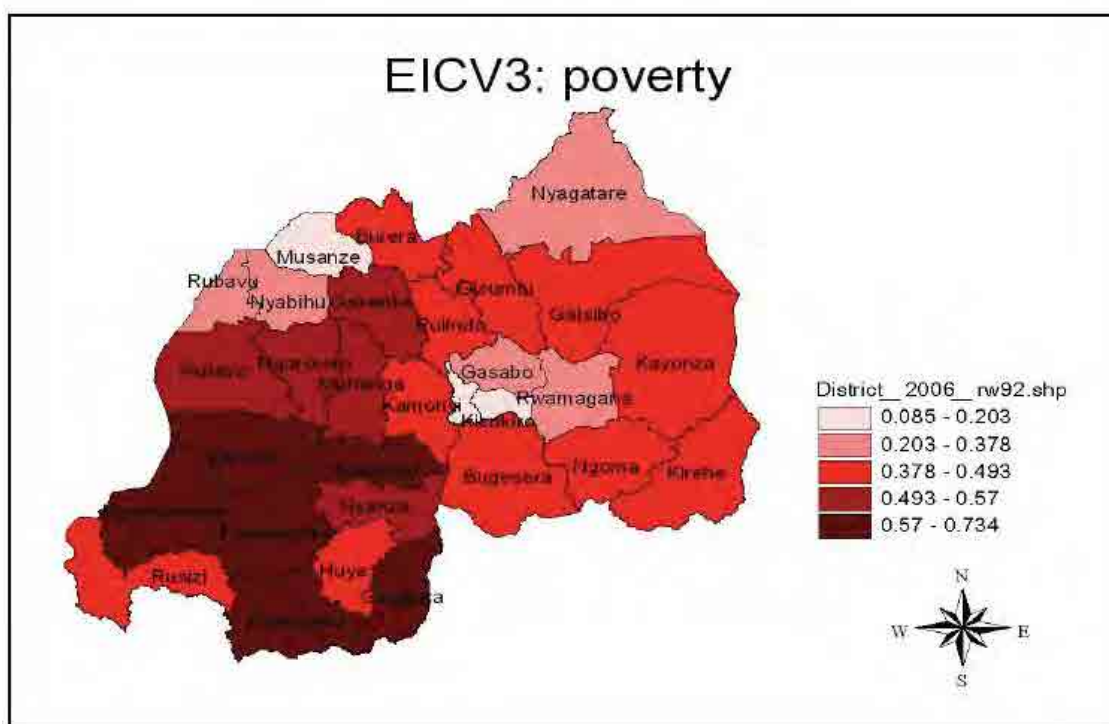
（「IV. 所得貧困以外による分析 3. 食糧安全保障・脆弱性による分析（1）食糧安全保障の状況」を参照。）

次の地図は 2010/2011 年のルワンダにおける貧困状況の分布を示している。貧困率が最

も低いのはキガリ（Kigali City）と北西の国境に近いムサンゼ（Musanze）であり、キガリに隣接したルワマガナ（Rwamagana）、ガサボ（Gasabo）も貧困率が低い。しかし、北部県（Northern Province）では、いくつかの郡（District）においては貧困率が低いものの、ガケンケ（Gakenke）においては貧困率が極めて高くなっている。最もルワンダで貧困が集中している地域は、南部県（Southern province）と西部県（Western province）の県を含む南と南東地域である。他方で、南部県においてもフエ（Huye）はそれほど貧困ではない。このように、地方の中にもそれぞれ貧困状況に差があることは、大規模な都市があるか、国境に近いのか、といった要素が関係している。その点では、東部県（Eastern Province）はより、均一的な地方であり、貧困率の突出した郡はない。最貧困状況に関しては、特にニヤマガバベ（Nyamagabe）、カロンギ（Karongi）、ニヤマシェケ（Nyamasheke）が最も貧困な地域である⁶⁶。

地図 6 貧困の分布図（2010年）（再掲）

Percentage of the Rwandan population identified as poor (Map)



（出所） National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Evolution of Poverty in Rwanda from 2000 to 2011: Results from the Household Surveys (EICV), p.17

<http://statistics.gov.rw/publications/evolution-poverty-rwanda-2000-2011-results-household-surveys-eicv>

⁶⁶ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Evolution of Poverty in Rwanda from 2000 to 2011: Results from the Household Surveys (EICV), p.16

<http://statistics.gov.rw/publications/evolution-poverty-rwanda-2000-2011-results-household-surveys-eicv>
 (2013/02/27 アクセス)

(2013/02/27 アクセス)

(2) 市場の状況とインフラ

食料の供給状況については、国内の需要に応じて国内各所の市場が効果的に食糧を供給ができるようになっているかどうかも関係するが、その際には市場をつなぐインフラ、すなわち道路が重要な役割を果たす。この点について、ルワンダ国内では、とうもろこし市場は統合できていると評価されている⁶⁷。しかし、地域別には、地理的な距離や運送のネットワークの状況の影響がみられる。たとえば、北部と東部がとうもろこしの産地であるとともに、首都キガリへの道路が整備されインフラが整っているため、キガリや北部、東部は市場同士の連結が非常にうまく行われている。他方で、西部と東部間は地理的な距離が影響して統合が進んでいない。さらに南部においては、生産高が国の中でも最低であることに加え、他の地域との市場の統合が進んでいない⁶⁸。

⁶⁷ ただし、農産品の市場の統合には、まず農産品の消費パターンも考慮する必要がある。例えば、ルワンダでは全国的に消費される豆に関しては、市場も統合されている。他方、サツマイモ及びジャガイモについては、市場の統合は進んでいないが、その理由はこれらの農産品の消費パターンが影響している。ジャガイモは主に北部で消費され、南部ではあまり消費されず、サツマイモは、主に南部で消費され、北部では消費されていないためである。

⁶⁸ WFP (2012) Rwanda: Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey (Data collected in March-April 2012) pp.25-26. <http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp255144.pdf>
(2013/02/27 アクセス)

VII. 重点支援分野と貧困の関わり

1. 産業基盤整備

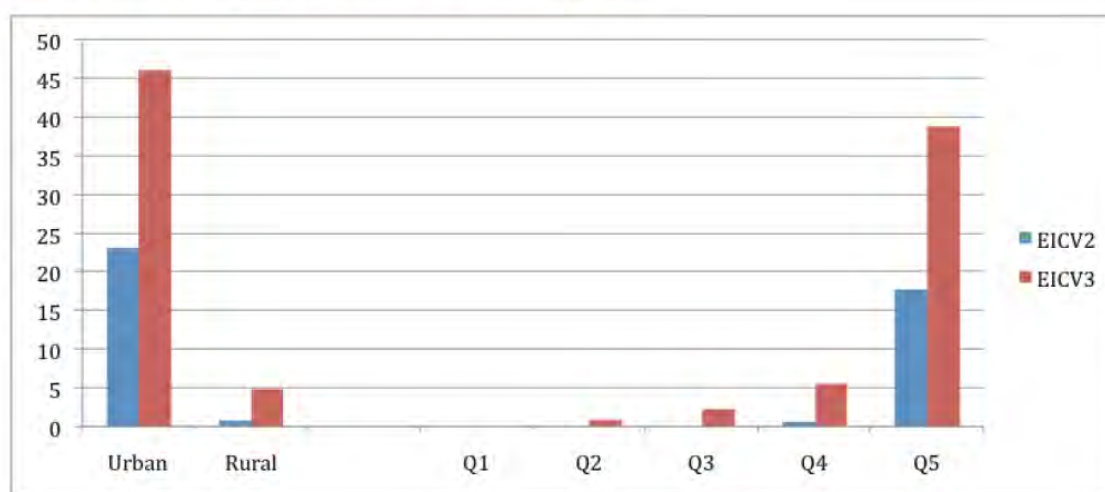
IMF のカントリーレポートでは⁶⁹、EICV3 の結果から EICV2 以降の 5 年間に貧困削減に貢献した理由として農業収入の増加と雇用の創出、保健と教育セクターの改善を挙げている。また、その結果として、ルワンダにおいて電気へのアクセスと金融へのアクセスが改善したことを指摘している。ここでは、電気と金融へのアクセスについて記述する。

(1) 電気

ルワンダにおける電化は、ほぼ都市地域に限られており、都市部では 46%、地方では 4.7% の世帯が照明のために電気を使っている。しかし、その前の調査では、都市部で 23.1%、地方では 0.7% であり⁷⁰、電化は大幅には進んでいないものの、少しずつ電気が使用されるようになってきている。しかし、貧困層 (Q1) は EICV2 の時点では 0%、EICV3 の時点でも電気へのアクセスが 0.4% とほとんどない。

図表 50 電気への世帯のアクセス（消費層別、2005 年、2011 年）

Figure 3.1 Changes in household access to electricity (%)



(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Utilities and Amenities, p.19, <http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-utilities-and-amenities>

(2013/02/27 アクセス)

図表 51 によると、キガリでは 2005 年の 29.7% の世帯が電気を主要な照明用のエネルギーとしていたが、2011 年は 55% 大幅に増加した。貧困層 (Q1) では薪による照明を使っている割合が 21% と、他の消費層よりも多くなっている。ただし、EICV2 時点では、38%

⁶⁹ IMF(2012) Rwanda: Fourth Review Under the Policy Support Instrument and Request for Modification of Assessment Criteria—Staff Report; Press Release, Country Report No. 12/152, p.5 <http://www.imf.org/external/pubs/ft/scr/2012/cr12152.pdf> (2013/02/27 アクセス)

⁷⁰ 同上、p.5

が薪による照明であったことから、EICV3では生活水準が改善していることが思料される。他方で、富裕層（Q5）では、バッテリーやランタンを上回る38%の世帯が電気を使用している。

図表 51 照明のエネルギー使用状況（2011年）

Table 3.2 Primary fuel used for lighting, by province, urban/rural, quintile, habitat and disability status

EICV3	Primary source of lighting							Total	Total no. of HHs (000s)
	Electricity distributors	Oil lamp	Firewood	Candle	Lantern	Battery	Other		
All Rwanda	10.8	9.7	8.8	5.9	34.7	28.6	1.5	100.0	2,253
Kigali City	55.6	9.6	0.8	12.6	13.8	6.4	1.1	100.0	223
Southern Province	3.3	7.2	13.5	4.0	42.7	27.9	1.4	100.0	549
Western Province	8.2	14.8	14.1	6.1	23.7	31.5	1.7	100.0	528
Northern Province	6.7	4.9	8.8	7.0	30.7	40.5	1.3	100.0	411
Eastern Province	5.6	11.0	2.0	4.0	49.0	26.9	1.5	100.0	542
Urban	46.1	11.2	1.5	9.0	23.6	7.9	0.6	100.0	331
Rural	4.8	9.4	10.0	5.3	36.6	32.2	1.6	100.0	1,922
Q1	0.4	5.2	21.2	4.8	30.8	36.2	1.4	100.0	381
Q2	0.8	6.5	9.6	4.2	41.5	35.9	1.7	100.0	415
Q3	2.2	8.8	7.9	4.5	43.6	31.7	1.3	100.0	448
Q4	5.6	12.2	5.6	7.6	39.0	28.5	1.4	100.0	490
Q5	38.9	14.0	2.8	7.6	20.4	14.8	1.5	100.0	519
Imidugudu	6.4	10.0	5.6	5.4	41.3	29.8	1.5	100.0	844
Unplanned clustered rural housing	5.9	14.3	10.2	5.8	32.4	29.8	1.6	100.0	249
Isolated rural housing	1.0	8.4	14.1	5.2	36.1	33.5	1.6	100.0	838
Agglomeration	13.5	10.7	6.1	8.0	31.0	28.3	2.3	100.0	107
Unplanned urban housing	72.1	7.5	0.0	10.5	7.0	2.7	0.3	100.0	189
Modern planned area	85.7	6.6	0.0	1.7	4.9	1.1	0.0	100.0	14
Other	35.3	6.8	0.0	7.1	26.5	23.3	0.9	100.0	12
No disability	11.7	9.6	7.3	6.2	34.8	29.0	1.4	100.0	1,839
With disability	6.8	10.2	15.3	4.6	34.4	27.1	1.5	100.0	414

Source: EICV3

EICV2	Primary source of lighting						Total	Total no. of HHs (000s)
	Electricity distributor	Kerosene lantern	Firewood	Candle	Traditional lamp (Agatadowa)	Other		
All Rwanda	4.3	12.7	15.2	1.6	64.4	1.7	100.0	1,892
Kigali City	29.7	29.0	0.7	6.6	33.6	0.4	100.0	177
Southern Province	2.1	8.2	22.0	1.0	65.1	1.7	100.0	499
Western Province	2.0	16.7	21.5	0.9	56.2	2.7	100.0	448
Northern Province	1.0	8.6	15.8	2.3	70.6	1.6	100.0	347
Eastern Province	1.7	10.1	6.2	0.4	80.3	1.3	100.0	421
Urban	23.1	28.7	3.2	4.8	38.7	1.5	100.0	311
Rural	0.7	9.5	17.6	1.0	69.5	1.7	100.0	1,581
Q1	0.0	3.0	38.0	0.8	54.8	3.4	100.0	329
Q2	0.2	3.9	19.5	0.3	74.1	2.1	100.0	353
Q3	0.1	7.4	14.1	1.2	75.5	1.7	100.0	368
Q4	0.6	14.9	7.2	1.3	75.1	0.9	100.0	398
Q5	17.8	29.3	3.1	3.8	45.2	0.8	100.0	444
Imidugudu	1.0	12.2	7.6	0.4	77.6	1.1	100.0	334
Old regrouping (resettlement)	4.7	12.4	18.5	1.4	61.3	1.6	100.0	120
Isolated community	1.2	10.3	18.7	1.2	66.6	1.9	100.0	1,269
Neighbourhood lot	69.3	13.5	1.6	6.7	8.9	0.0	100.0	17
Unplanned community	35.3	34.8	0.7	8.1	20.6	0.4	100.0	128
Other	1.2	25.2	7.1	0.0	60.3	6.2	100.0	24
No disability	4.6	12.6	14.7	1.6	65.0	1.6	100.0	1,590
With disability	3.1	13.2	18.3	1.8	61.4	2.2	100.0	302

Source: EICV2

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Utilities and Amenities, pp.19-20, <http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-utilities-and-amenities> (2013/02/27 アクセス)

(2) 金融へのアクセス

EICV3 では、借りに関して全世帯を次のように分類している。

- i. 現在借りに入れている世帯
- ii. 現在借りに入っていないが、過去 12 カ月に借りに入をした世帯
- iii. 現在借りに入をしておらず、過去 12 カ月間においても借りに入がない世帯
- iv. 借りに入をすることができなかった世帯

i と ii に該当する世帯については、金融へのアクセスがあると判断される。

図表 52 が示すように EICV2 では金融へのアクセスがある世帯は 57.8%であったが、EICV3 では 73.7%となり、金融へのアクセスができる人々の数は大幅に増えている。

ただし、資金の借りに入先をみると（図表 53）、全国レベルでは約 56.4%がインフォーマルな貸手、さらに 27%が親族・家族からの借りに入であり、銀行（国立銀行、商業銀行）からの借りに入は、6%程度であり、マイクロファイナンスも、1.2%程度に留まる。他方で、トンチン（19.6%）や金融協同組合（Credit cooperatives）（7.6%）からの資金調達が多い。特に、地方ではトンチンは重要な資金調達先であることがわかる⁷¹。

政策レベルでは、地方における金融のアクセスを促進するため、政府は、2009 年から貯蓄信用組合（Savings and Credit Cooperative）を全国 416 の行政区域に設立するという、Umurenge SACCO Strategy を開始している⁷²。

図表 54 は貯蓄口座のある世帯を地域別にまとめている。全国レベルでは、少なくとも一つの貯蓄口座のある世帯は、18.9%から 39.4%に増加した。またキガリでは、67.5%の世帯が貯蓄口座を持っている。

⁷¹ トンチン（tontine）とは、村レベルで行われる貯蓄貸付組合である。

⁷² IFAD(2011) Republic of Rwanda, Country Programme Evaluation, p.8
<http://www.ifad.org/evaluation/events/2011/rwanda/doc/report.pdf>（2013/02/27 アクセス）

図表 52 金融へのアクセス（世帯別：2005年、2011年）

Table 7.2.1 Access to credit by provinces and urban/rural

EICV3		Access to credit		Unknown	No access to credit	Total no. of HHs (000s)
		HH currently has a loan	HH currently has no loan, but had credit during the past 12 months	HH currently has no credit because did not request	HH currently has no credit because failed to get access	
All Rwanda		59.9	13.8	25.6	.7	2253
Province	Kigali City	62.8	13.0	23.3	.9	223
	Southern	59.4	12.1	28.0	.5	549
	Western	61.5	14.0	23.8	.8	528
	Northern	52.6	13.8	33.1	.4	411
	Eastern	63.0	15.7	20.4	.8	542
Urban/rural	Urban	59.3	12.2	27.7	.7	331
	Rural	60.0	14.1	25.3	.7	1922
Quintile	Q1	61.8	12.3	24.9	.9	381
	Q2	61.8	14.0	24.0	.3	415
	Q3	61.2	14.0	24.3	.5	448
	Q4	59.5	13.5	26.4	.6	490
	Q5	56.1	14.8	28.1	1.0	519

EICV2		Access to credit		Unknown	No access to credit	Total no. of HHs (000s)
		HH currently has a loan	HH currently has no loan, but had credit during the past 12 months	HH currently has no credit because did not request	HH currently has no credit because failed to get access	
All Rwanda		45.9	11.9	40.7	1.4	1892
Province	Kigali City	34.7	8.1	55.2	2.1	177
	Southern	50.0	14.3	34.5	1.2	499
	Western	49.6	9.8	38.9	1.6	448
	Northern	41.6	10.7	46.5	1.2	347
	Eastern	45.6	14.0	38.9	1.5	421
Urban / Rural	Urban	35.7	9.2	53.0	2.0	311
	Rural	47.9	12.4	38.3	1.3	1581
Quintile	Q1	47.0	9.7	42.0	1.2	329
	Q2	45.4	12.5	40.6	1.5	353
	Q3	46.1	12.5	40.4	.9	368
	Q4	46.9	11.9	39.3	1.9	398
	Q5	44.7	12.6	41.2	1.5	444

（出所） National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.126

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

図表 53 貸付をした機関や団体の割合（地方別）（2005年、2011年）

EICV3		% of HHs with credit from...									Total no. of HHs with a loan (in 000s)
		State bank	Commercial bank	Relatives/family	Credit cooperative	Tontine (community)	Informal lenders	Microfinance	VUP loan	Other sources	
All Rwanda		1.0	5.1	27.0	7.6	19.6	56.4	1.2	1.5	4.6	1659
Province	Kigali City	2.1	13.6	15.7	6.6	5.1	74.9	2.7	.3	2.0	169
	Southern	.6	4.4	27.2	6.2	16.3	58.8	1.0	1.6	4.0	392
	Western	.8	3.6	45.2	7.8	19.2	40.7	.8	1.1	3.9	398
	Northern	1.3	5.2	23.8	7.3	36.5	44.1	.8	1.5	3.0	273
	Eastern	1.0	3.8	16.5	9.3	18.2	69.3	1.3	2.1	7.8	427
Urban/rural	Urban	1.9	13.1	17.5	7.4	8.3	66.7	2.3	.8	2.5	237
	Rural	.9	3.8	28.6	7.7	21.5	54.7	1.0	1.6	4.9	1422

Base: All households currently with a loan.

EICV2		% of HHs that hold a credit from...												Total no. of HHs with a loan (in 000s)
		State bank	Private bank	Popular bank	COOPEC	Agricultural society	Co-operative	Employer	Other modern institution	Lender	Relative/friend	Tontine (community)	Other traditional institution	
All Rwanda		9	1.4	5.8	4.8	6.0	12.2	5	2.2	1.3	68.9	6.2	2.3	1094
Province	Kigali City	1.6	7.1	8.7	14.7	1.8	12.7	4.2	2.2	2.2	49.1	3.7	3.2	76
	Southern	.8	.6	5.3	4.2	7.4	10.1	.3	2.1	6	73.0	5.1	2.8	320
	Western	1.3	1.6	5.7	4.6	3.4	12.4	.1	2.2	2.5	72.5	5.9	1.3	266
	Northern	.7	.9	5.9	2.5	7.8	13.8	.3	2.0	9	66.0	6.7	2.4	181
	Eastern	6	1.1	5.6	4.4	7.1	13.3	2	2.5	7	67.7	8.2	2.2	251
Urban/rural	Urban	1.6	5.7	10.5	12.2	1.9	13.0	2.8	1.6	2.0	52.9	2.6	2.2	140
	Rural	.8	.8	5.1	3.7	6.6	12.1	2	2.3	1.2	71.2	6.7	2.3	954

Base: All households currently with a loan.

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, pp.128-129

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

図表 54 貯蓄口座のある世帯数

Table 7.2.4 Percentage of households with at least one savings account by province, urban/rural and sex

EICV3		HHs with at least one savings account	Total no. of HHs (in 000s)
All Rwanda		39.4	2253
Province	Kigali City	67.5	223
	Southern Province	33.8	549
	Western Province	34.2	528
	Northern Province	40.1	411
	Eastern Province	37.9	542
Urban/rural	Urban	60.4	331
	Rural	35.8	1922
Quintile	Q1	20.4	381
	Q2	27.6	415
	Q3	32.7	448
	Q4	41.5	490
	Q5	66.7	519
EICV2		HHs with at least one savings account	Total no. of HHs (in 000s)
All Rwanda		18.9	1892
Province	Kigali City	45.5	177
	Southern Province	14.6	499
	Western Province	18.0	448
	Northern Province	14.6	347
	Eastern Province	17.5	421
Urban/rural	Urban	40.8	311
	Rural	14.6	1581
Quintile	Q1	3.7	329
	Q2	6.3	353
	Q3	11.2	368
	Q4	18.5	398
	Q5	47.1	444

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.132

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

2. 農業

(1) 生産性の増加

ルワンダにおいては、耕作可能な土地が限られていることが発展を阻害しており、貧困の重要な原因となっている。各世帯の生活水準は、所有する土地の大きさに関係しており、土地を持っていないものは一般に貧困状態にある⁷³。

ルワンダ政府は、小規模の自給自足農業から、より大規模の農業に発展させるべく、複数の世帯が所有する畑を合わせて、同じ穀物を育てるといふ農地の統合事業を進めている。土地を統合し、一つの穀物に集中することで、コストを抑え、耕作面積が増やすことが可能となり、これによって農村における所得を向上し、貧困を削減することを目指している。

2012年のCFSVA調査によると、農業世帯の24%が政府の政策の影響を受けたとされる。また、0.1ヘクタール未満の耕作面積だった矮小な耕作地80%は、政府の土地統合政策により、統合された⁷⁴。

農業分野では、政府、ドナーやNGOによる農村世帯に対する様々な支援が実施されているが、特にルワンダ政府は、農業関連用品や種子等（農具や農薬を含む）の支給を行っている。図表55が示すように、農業関連用品や種子等の支援は特に北部に集中している。その他の支援としては、大型及び小型の家畜の支給がある⁷⁵。

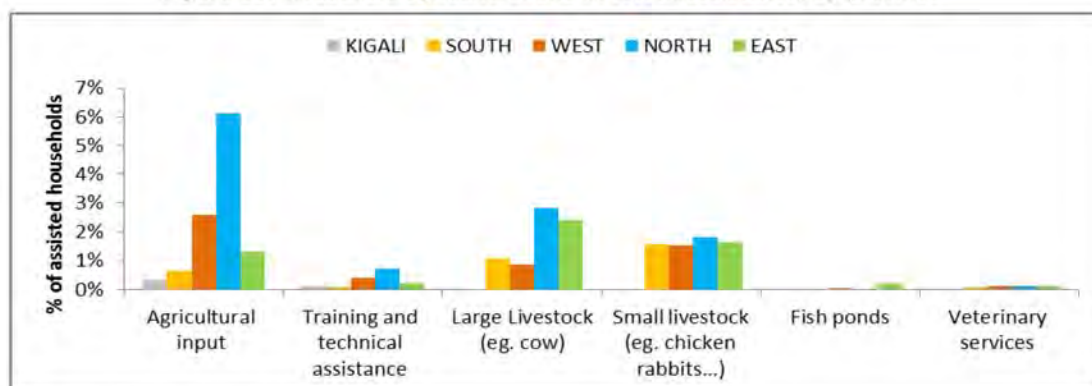
⁷³ Ministry of Finance and Economic Planning, EDPRS: Lessons Learned 2008-2011, pp.8-9.
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/EDPRS%20lessons%20learned%202008_2011.pdf
(2013/02/27 アクセス)

⁷⁴ 同上、p.100.

⁷⁵ WFP (2012) Rwanda: Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey (Data collected in March-April 2012), pp.99-100
<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp255144.pdf>
(2013/02/27 アクセス)

図表 55 農業及び牧畜に関する支援を受けた世帯割合（2012年）

Figure 58: Household agricultural and livestock assistance, by province



Source: CFSVA and Nutrition Survey, 2012

(出所) WFP (2012) Rwanda: Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey (Data collected in March-April 2012), p.100

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp255144.pdf>

(2013/02/27 アクセス)

(2) 農産品の販売

2005年から2011年にかけての貧困率削減要因としては、農業生産の増加とそれに伴う農産品の販売が促進されたことが挙げられる⁷⁶。2005年、ルワンダの世帯は収穫の18%を販売していたが、2010年には平均で25%まで販売するようになっている。これは食糧危機を背景に、近隣諸国からのルワンダの農産品に対するニーズが高まったからである⁷⁷。

特に販売されている農産品は、コーヒー(収穫量のうち97%が販売)、茶(97%)、米(47%)である⁷⁸。

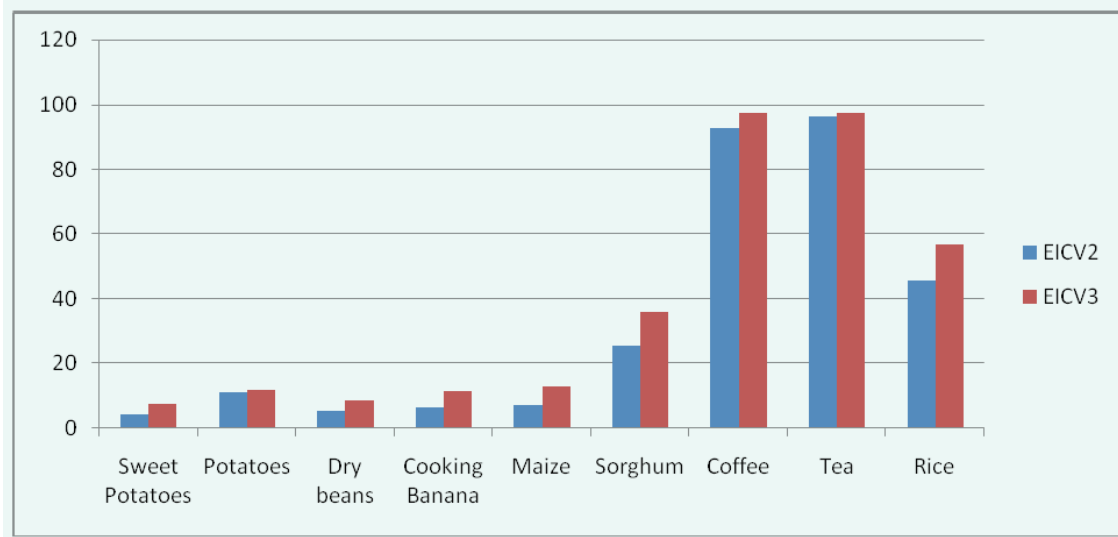
⁷⁶ただし、ルワンダにおいては、農業の商業化を進めるための投資や資金へのアクセスが非常に限られているため、農業の商業化そのものは進んでいない。(World Bank (2007) Rwanda: Toward Sustained Growth and Competitiveness, p.188
<http://siteresources.worldbank.org/INTDEBTDEPT/Resources/468980-1207588563500/4864698-1207773080407/37860RW.pdf> (2013/02/27 アクセス)

⁷⁷ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Evolution of Poverty in Rwanda from 2000 to 2011: Results from the Household Surveys (EICV), p.28,
<http://statistics.gov.rw/publications/evolution-poverty-rwanda-2000-2011-results-household-surveys-eicv> (2013/02/27 アクセス)

⁷⁸ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.112
<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

図表 56 収穫の半分超を販売する世帯割合（2005 年、2011 年）

Figure 6.4.4 Percentage of households selling more than half of their harvest, for various crops



(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.112

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

次の図表は、2005 年 (EICV2) 及び 2011 年 (EICV3) における収穫した農作物に占める販売量の割合を示している。低消費者層 (Q1) や所有する土地が少ない世帯 (0.3ha 未満、0.9ha 未満) においても、販売する農産物の割合が増加している。

図表 57 収穫した農産物に占める販売農産物の割合（2011年、2005年）

Table 3.4 Mean share of total harvest sold, by urban/rural, province, quintile and land size

EICV3	Mean share of harvest sold				
	Overall	Staple crops	CIP crops	Fruit andveg	Coffee
All Rwanda	20.9	18.6	14.9	14.9	97.0
Urban	16.2	14.6	10.8	12.9	98.4
Rural	21.5	19.0	15.3	15.1	96.9
Kigali City	16.2	14.8	10.3	15.2	-
Southern Province	20.3	15.9	12.8	19.3	96.4
Western Province	20.0	16.4	13.3	12.2	96.8
Northern Province	20.1	19.0	15.5	17.6	97.7
Eastern Province	24.4	23.9	19.0	11.0	98.0
Q1	14.5	12.4	8.1	11.4	98.1
Q2	18.8	16.2	12.4	15.0	96.3
Q3	21.8	19.0	15.0	16.3	97.4
Q4	24.3	21.6	17.9	16.9	97.0
Q5	24.5	22.9	20.7	13.8	96.4
<0.3ha	15.8	14.0	10.0	11.7	96.9
<0.9ha	23.5	20.6	16.7	16.5	96.9
<3ha	30.0	27.2	23.5	19.4	97.3
>=3ha	31.7	26.9	23.5	18.1	97.4

Note: Mean share is calculated as total sales value over total harvest value for each household. It includes households selling zero crops. Base: Households cultivating land for crop production. Source: EICV3.

EICV2	Mean share of harvest sold				
	Overall	Staple crops	CIP crops	Fruit andveg	Coffee
All Rwanda	16.0	14.2	12.6	14.8	91.2
Urban	14.2	12.9	9.4	17.8	91.4
Rural	16.2	14.3	13.0	14.5	91.2
Kigali City	13.1	11.3	8.3	20.5	86.0
Southern Province	14.9	12.9	12.7	16.7	92.6
Western Province	16.9	13.6	12.7	15.9	91.3
Northern Province	14.5	13.2	10.9	15.8	81.9
Eastern Province	18.2	17.8	14.7	10.8	95.7
Q1	10.7	9.0	6.6	11.4	91.4
Q2	13.7	12.2	10.1	13.2	91.0
Q3	16.6	14.8	13.3	14.1	91.8
Q4	18.2	16.1	14.6	16.8	88.7
Q5	20.9	18.8	18.3	18.1	94.1
<0.3ha	13.5	11.6	9.7	13.8	89.8
<0.9ha	16.9	15.1	13.9	15.4	91.9
<3ha	19.3	17.3	15.7	15.4	92.3
>=3ha	19.7	18.1	17.4	17.2	90.9

Note: Mean share is calculated as total sales value over total harvest value for each household. It includes households selling zero crops. Due to further data cleaning and the subsequent removal of 15 outliers, the estimates for EICV2 have been adjusted relative to those reported in the EICV3 Main Indicators Report. Base: Households cultivating land for crop production. Source: EICV2.

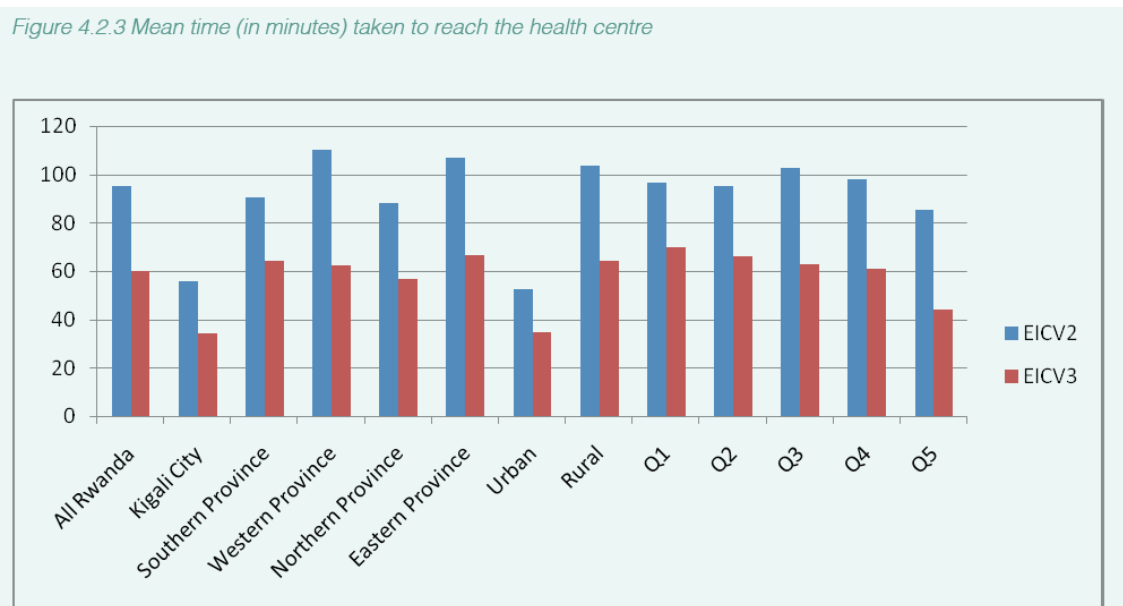
(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Economic Activities: Agriculture, pp.16-17. <http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-economic-activity>
(2013/02/27 アクセス)

3. 社会サービス

(1) 保健施設へのアクセス

EICV2 から EICV3 にかけて、人々が保健施設を使う割合は 30%から 47%に増加した。特に、保健センターは、居住地に近い場所に建てられアクセスもよくなり、サービスも改善し、住民にとって主要な保健施設となっている⁷⁹。保健センターへのアクセスにかかる時間も、EICV2 から EICV3 にかけて、国レベルでは 90 分以上から 60 分にまで減少している。

図表 58 保健センターへのアクセスにかかる平均の時間



(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.80

<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

⁷⁹ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.82
<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

図表 59 過去 2 週間で医療診断を受けた人々の属性 (2011 年)

Table 4.2.2 Percentage of population who consulted a medical practitioner in the last two weeks and type of health facility visited for consultation among population that consulted a health professional/practitioner by province, urban/rural and sex

	% of population who consulted a medical practitioner	Population reporting illness in last 2 weeks (in 000s)	Type of health facility visited for consultation								Population who consulted a medical practitioner (in 000s)
			Health care centre	Dispensary	Hospital	Clinic	Consultant's home	Patient's home	Pharmacy	Other type of facilities	
All Rwanda	39.5	1,898	65.8	7.8	7.6	4.5	5.5	3.2	3.6	1.9	750
Province											
Kigali	45.4	183	44.7	12.8	11.6	25.8	3.7	.7	.6	.1	83
Southern	30.8	505	70.6	5.0	6.5	3.8	6.4	6.4	2.3	2.8	155
Western	37.6	448	66.6	9.6	8.5	1.6	7.5	1.5	2.1	2.5	168
Northern	42.1	296	71.8	11.4	5.9	3.3	3.2	1.0	1.4	1.9	125
Eastern	46.9	466	66.4	4.5	7.0	.9	7.1	4.5	8.0	1.6	219
Urban	43.3	279	48.2	11.1	14.0	19.7	2.8	.9	2.1	1.2	121
Rural	38.9	1,619	69.2	7.2	6.3	1.6	6.0	3.7	3.9	2.1	630
Sex											
Male	39.3	784	62.7	7.8	8.2	5.7	5.7	4.3	3.6	2.1	308
Female	39.7	1,114	68.0	7.9	7.1	3.7	5.3	2.5	3.6	1.9	442
0-4	49.4	396	58.7	8.3	3.0	4.4	10.7	7.5	3.0	4.4	195
5-9	36.0	192	65.9	6.2	5.2	6.3	3.8	5.7	3.8	3.1	69
10-14	31.7	130	68.1	9.4	8.2	3.7	3.5	3.7	2.7	.6	41
15-19	36.0	122	70.2	3.2	8.8	5.7	3.1	1.4	6.9	7	44
20-24	43.4	141	71.0	4.6	14.6	2.3	2.7	.4	4.1	.3	61
25-29	41.7	155	68.9	9.9	7.6	5.2	2.7	.8	4.5	.3	64
30-34	43.3	128	67.4	5.9	9.9	8.3	3.6	.6	2.4	1.8	56
35-39	39.4	101	66.8	5.4	11.9	6.8	4.3	.0	2.7	2.0	40
40-44	37.7	89	70.5	11.4	7.0	3.5	3.8	.0	3.8	.0	33
45-49	35.3	89	71.5	7.3	12.6	1.0	3.4	.7	2.7	.8	31
50-54	34.2	89	67.6	7.9	7.5	3.6	6.2	2.0	4.8	.5	30
55-59	33.7	78	66.5	9.7	8.9	2.2	6.2	1.0	4.9	.6	26
60-64	30.0	49	70.0	4.3	16.7	3.0	1.9	1.9	.0	2.3	15
65+	31.2	141	65.3	15.2	6.1	3.3	3.3	2.5	3.6	.7	44
Q1	28.6	366	72.4	4.1	4.7	.1	8.1	3.3	4.0	3.3	105
Q2	32.7	372	68.6	6.5	5.3	.8	7.0	7.6	2.1	2.1	121
Q3	39.9	383	71.2	5.6	4.7	1.2	6.9	3.6	4.4	2.5	153
Q4	43.3	385	69.3	6.7	8.1	1.6	5.2	2.6	4.9	1.6	167
Q5	52.1	392	53.9	13.2	12.2	13.9	2.4	.8	2.6	.9	204

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report, p.80
<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)

また、保健施設へのアクセスに関し、53%の女性が「治療に対して払うお金がない」ことがアクセスの障害だと答えている。この問題は、女性の年が高くなるにつれて重大になる。15-19歳の49%の女性が治療費を得ることが困難としているのに対し、40-49歳の女性は60%が困難と回答している。また、離婚・別居した女性または寡婦の場合は、74%と結婚している女性の50%よりも困難である。また、同様に地方の女性は都市の女性よりも治療費代を得ることが難しい。

また、26%の女性が保健施設への距離も問題として指摘している。保健施設への距離の問題は、35-49歳の女性（28%）、5人以上の子供がいる女性（28%）、離婚・別居した女性または寡婦（31%）、教育を受けていない女性（30%）、貧困世帯の女性（31%）に顕著である。

他方で、一人で保健施設へ行くことが困難と答えている女性は17%に留まる。その他、保健施設に行くことの許可を得ることが深刻な問題と答えている人は3%のみである⁸⁰。

⁸⁰ National Institute of Statistics of Rwanda (NISR), Ministry of Health (MOH) and ICF International (2012) Rwanda Demographic and Health Survey 2010. p.122

図表 60 保健施設へのアクセス（2010年）

Table 9.11 Problems in accessing health care

Percentage of women age 15-49 who reported that they have serious problems in accessing health care for themselves when they are sick, by type of problem, according to background characteristics, Rwanda 2010

Background characteristic	Problems in accessing health care					Number of women
	Getting permission to go for treatment	Getting money for treatment	Distance to health facility	Not wanting to go alone	At least one problem accessing health care	
Age						
15-19	3.7	48.5	23.5	18.4	57.1	2,945
20-34	2.5	51.0	26.1	17.0	60.0	6,999
35-49	1.7	60.3	28.3	16.3	67.4	3,727
Number of living children						
0	3.1	47.7	24.4	18.9	56.5	5,207
1-2	2.3	54.3	26.5	16.2	62.1	3,552
3-4	2.6	56.9	27.2	16.2	65.1	2,704
5+	1.7	58.8	28.3	15.4	67.3	2,209
Marital status						
Never married	3.1	49.6	24.4	19.1	58.0	5,285
Married or living together	2.2	51.1	26.4	14.8	60.4	6,897
Divorced/separated/widowed	2.4	73.9	30.9	20.4	78.1	1,489
Employed last 12 months						
Not employed	3.1	50.3	22.8	16.9	58.1	2,227
Employed for cash	2.5	53.4	26.6	16.0	61.6	7,660
Employed not for cash	2.5	53.8	27.3	19.4	63.0	3,751
Missing	0.0	44.6	8.4	5.7	47.1	33
Residence						
Urban	4.2	41.4	14.9	12.7	48.1	2,057
Rural	2.3	55.1	28.1	17.9	63.8	11,614
Region						
City of Kigali	4.4	38.8	15.2	11.1	45.4	1,596
South	3.3	64.4	30.8	19.5	74.0	3,212
West	1.3	50.5	20.7	12.8	57.5	3,305
North	3.3	46.1	21.5	20.4	55.1	2,278
East	1.8	56.0	35.6	19.7	65.1	3,280
Education						
No education	2.4	68.1	30.2	18.5	73.8	2,119
Primary	2.5	53.6	26.5	17.5	62.2	9,337
Secondary and higher	2.9	36.2	20.8	14.2	46.3	2,216
Wealth quintile						
Lowest	3.2	74.3	31.3	22.1	79.6	2,622
Second	2.6	61.4	28.2	18.3	68.6	2,661
Middle	2.0	55.2	28.6	18.6	64.3	2,736
Fourth	1.4	45.1	27.8	15.6	55.9	2,677
Highest	3.6	31.9	15.9	11.6	41.2	2,976
Total	2.6	53.0	26.1	17.1	61.4	13,671

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (NISR), Ministry of Health (MOH) and ICF International (2012) Rwanda Demographic and Health Survey 2010. p.123

<http://www.statistics.gov.rw/survey/demographic-and-health-survey-dhs> (2013/02/27 アクセス)

(2) 給水・衛生施設

給水・衛生施設については「IV. 所得貧困以外による分析 2. MDG 達成状況 (7) 目標 7 : 環境の持続可能性確保」を参照。

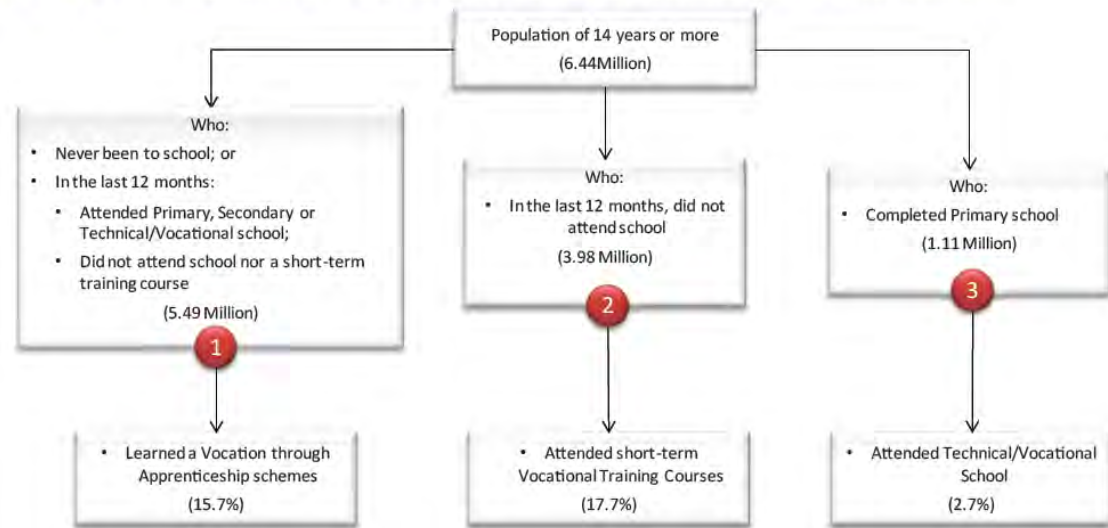
4. 人材育成

(1) 職業訓練

ルワンダでは、技術・職業訓練は「雇用や自営業に必要な知識、理解や技能を得ることにつながる教育、研修や学習」と定義つけられている。技術教育は高等学校レベルで教えられるが、小学校中退者に対しても職業訓練が提供されている。

図表 61 14 歳以上の職業訓練の種類

Figure 4.1 Population of 14 years and above by type of vocational training received, EICV 3



(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Education, p.32

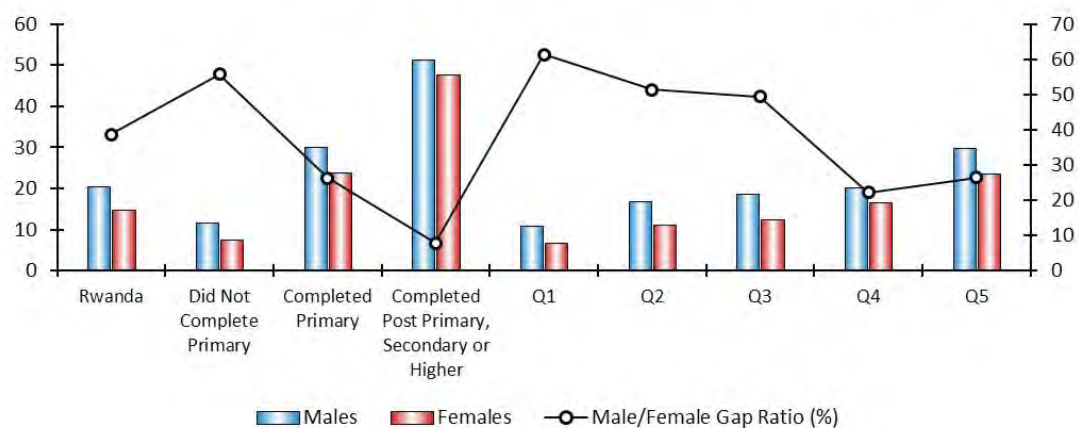
<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-education> (2013/02/27 アクセス)

職業訓練に関して、女子が短期の職業訓練にアクセスするための重要な要因となっているのは、修了した学校のレベルと、さらに高消費世帯であるかどうかである。後期初等教育、中等もしくは高等教育を修了している場合、男女間のギャップも少なくなる。ここから、修了した教育のレベルが、ジェンダーよりも重要であることが分かる⁸¹。

⁸¹ National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Education, p.32.
<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-education> (2013/02/27 アクセス)

図表 62 14 歳以上の人口で過去 12 カ月に短期職業訓練を受けた割合

Figure 4.8 % of population aged 14 and above not in school in last 12 months who attended short-term vocational training, by level of education attained, consumption quintile and sex



(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Education, p.32

<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-education> (2013/02/27 アクセス)

(2) 識字率

ルワンダでは、15-24 歳の若者の識字率の割合が高く、2010/2011 年の調査では、15-24 歳の若者の識字率は 85%であった。一般に、都市のほうが地方よりも識字率が高い。また、消費が多い層になるにつれ、識字率も上がっている。

図表 63 識字率（15-24 歳、15 歳以上）

Table 7.1 Literacy rate (%) among population aged 15–24 and 15 and above, by urban/rural, province and consumption quintile

	Population aged 15–24			Population aged 15 and above		
	EICV3	EICV2	% change	EICV3	EICV2	% change
Rwanda	83.7	76.9	8.8	69.7	65.3	6.7
Urban/rural 2002						
Urban	88.8	84.7	4.8	82.6	78.2	5.6
Rural	82.6	75.1	10.0	67.3	62.6	7.5
Province						
Kigali City	89.3	86.6	3.1	86.7	82.4	5.2
Southern Province	81.5	77.0	5.8	65.7	64.6	1.7
Western Province	83.2	75.7	9.9	68.4	63.6	7.5
Northern Province	84.4	76.2	10.8	68.7	62.5	9.9
Eastern Province	82.8	73.9	12.0	68.2	62.2	9.6
Quintile						
Q1	75.6	66.3	14.0	57.6	51.0	12.9
Q2	80.7	72.9	10.7	63.0	58.9	7.0
Q3	83.6	77.2	8.3	67.6	63.5	6.5
Q4	86.0	80.3	7.1	71.7	68.0	5.4
Q5	88.9	84.2	5.6	83.3	79.7	4.5

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Education, p.44

<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-education> (2013/02/27 アクセス)

(3) コンピュータ・リテラシー

ルワンダでは、「VISION 2020」では知識基盤方の社会の実現を目指し、ICT 産業を重要産業と位置づけ、ICT 産業を発展させ、ICT における地域のハブとなることを目指している。国家 ICT 戦略計画 (National Information and Communication Infrastructure: NICTI) において人材育成が分野横断的な重要分野の一つとされている。また、優先セクターはガバナンス、保健、教育、農業及び金融である⁸²。

⁸² Ministry of Youth and ICT (2012) Rwanda ICT Sector Profile-2012, <http://admin.theiguides.org/Media/Documents/Rwanda-ICT-Profile-2012.pdf> (2013/02/27 アクセス)

図表 64 ICT セクターの概要

Sector performance	2010	2011	2012
ICT Development Index (<i>Ranking, Index value</i>) **	(140 th , 1.50) ^e	(133 rd , 1.66) ^f	N/Av.
<i>Access sub-index (Ranking, Sub-index value)</i> **	(142 nd , 1.63)	(133 rd , 1.91)	N/Av.
Fixed-telephone subscriptions (per 100 inhabitants) **	0.4	0.4	0.4
Mobile-cellular telephone subscriptions (per 100 inhabitants) **	33.4	40.6	53.1
International Internet bandwidth (Mbit/s) per Internet user **	1,933	4,414	N/Av.
Percentage of Households with Internet access **	3.2%	5.0%	N/Av.
Percentage of households with a computer **	1.3%	2.0%	N/Av.
Households with a television set (%)	–	6.4% ^g	N/Av.
Households with a radio set (%)	–	60.2% ^h	N/Av.
<i>Use sub-index (Ranking, Sub-index value)</i> **	(123 rd , 0.31)	(121 st , 0.45)	N/Av.
Percentage of individuals using the Internet **	7.0	8.0	26.2 ⁱ
Fixed (wired)-broadband subscriptions (per 100 inhabitants) **	0.0	0.0	0.03 ^j
Active mobile broadband subscriptions (per 100 inhabitants) ** ^k	1.3	6.4	7.97
<i>Skills sub-index (Ranking, Sub-index value)</i> **	(132 nd , 3.61)	(133 rd , 3.61)	N/Av.
Adult literacy rate (% ages 15 and older) **	70.7	70.7	69.7 ^l
Secondary gross enrolment ratio (%) **	32.2	32.2	40.9 ^m
Tertiary gross enrolment ratio (%) **	5.5	5.5	N/Av.
Computer literacy rate (% ages 15 and older)	–	3.3 ⁿ	N/Av.
ICT Price Basket – ICT Affordability (<i>Ranking, Index value</i>) **	(159 th , 55.0)	(154 th , 51.6)	N/Av.
Fixed-telephone sub-basket as a % of GNI per capita (<i>Ranking, Sub-index value</i>) **	28.3	20.8	N/Av.
Mobile-cellular sub-basket as a % of GNI per capita (<i>Ranking, Sub-index value</i>) **	36.7	34.0	N/Av.
Fixed-broadband sub-basket as a % of GNI per capita (<i>Ranking, Sub-index value</i>) **	377.4	257.8 ^o	N/Av.
Trade			
ICT goods exports (% of total goods exports)	0.6 ^p	0.5	N/Av.
ICT goods imports (% of total goods imports)	11.7 ^q	6.9	N/Av.
ICT service exports (% of total service exports)	4.4 ^r	N/A	N/Av.
E-government Development Index (<i>Ranking, Index value</i>) ***	148 th , 0.2749) ^s / 140 th , 0.3291) ^t		N/Av.
Online service index (<i>Ranking, Index value</i>) ***	(121 th , 0.1746)	(115 th , 0.3399)	N/Av.
Telecommunication infrastructure index (<i>Ranking, Index value</i>) ***	(173 rd , 0.0203)	(165 th , 0.0614)	N/Av.
Human capital index (<i>Ranking, Index value</i>) ***	(148 th , 0.6329)	(146 th , 0.5861)	N/Av.
E-Participation index (<i>Ranking</i>) ***	(144 th , 0.0286)	(31 st , 0.0263)	N/Av.
Environment index (<i>Ranking</i>) ***	–	(84 th , 0.5882)	N/Av.

(出所) Ministry of Youth and ICT (2012) Rwanda ICT Sector Profile-2012, pp.13-14

<http://admin.theiguides.org/Media/Documents/Rwanda-ICT-Profile-2012.pdf>

(2013/02/27 アクセス)

EICV3 では、コンピュータ・リテラシーがある層をコンピュータ使用経験があり、再度使用することに自信がある人と定義している。まず、EICV3 によると、コンピュータを使ったことが一度もない人は 93.5%に上る。コンピュータ使用経験がありコンピュータ・リテラシーがある層の割合は、15-24 歳の年齢層では 6.5%、25-34 歳では 7.3%、35-44 歳の層では 5.2%であるが、45-54 歳の層では、2.2%と低く若者のほうがコンピュータ・リテラシーがあることが分かる。同時に、コンピュータは都市で使われており、キガリ市のコンピュータ・リテラシーは 16.9%であり、国内でもっとも高くなっている。また、低消費者層 (Q1) では、コンピュータを使ったことがない割合は、99.1%に上り、コンピュータ・リテラシーがある割合は 0.3%に留まる。高消費層 (Q5) では、14.7%とコンピュータ・リテラシーが高く、情報技術は、依然として都市の裕福層に限られていることが推察できる。

図表 65 ルワンダにおけるコンピュータ・リテラシー

Table 6.4 Computer literacy: % of population(6+) that have used a computer and that would feel confident about using a computer again, by province,urban/rural, gender, age group and quintile

EICV3	Never used computer before	Used computer before but not confident to use it again	Used computer before and confident to use it again (computer literate) ²⁹	Total	Total no. of persons 6+ (000s)
All Rwanda	93.5	2.6	3.9	100.0	8,820
Kigali City	75.5	7.6	16.9	100.0	870
Southern Province	95.9	2.2	2.0	100.0	2,082
Western Province	95.8	1.9	2.3	100.0	2,112
Northern Province	93.9	2.0	4.1	100.0	1,648
Eastern Province	95.9	2.0	2.1	100.0	2,108
Urban	79.4	6.9	13.7	100.0	1,318
Rural	96.0	1.8	2.2	100.0	7,501
Male	92.3	2.7	5.0	100.0	4,145
Female	94.5	2.5	3.0	100.0	4,675
6-14	98.1	1.2	0.7	100.0	2,664
15-24	86.9	6.6	6.5	100.0	2,231
25-34	90.4	2.2	7.3	100.0	1,534
35-44	93.8	1.1	5.2	100.0	917
45-54	97.3	0.5	2.2	100.0	704
55-64	98.1	0.3	1.6	100.0	409
65+	99.7	0.1	0.2	100.0	361
Q1	99.1	0.6	0.3	100.0	1,708
Q2	98.6	1.0	0.4	100.0	1,714
Q3	97.5	1.6	1.0	100.0	1,712
Q4	95.3	2.7	2.0	100.0	1,758
Q5	78.8	6.5	14.7	100.0	1,927

Source: EICV3. Notes: Calculated only for persons aged 6 and above. The EICV3 survey assumes that illiterate persons do not use computers. No such data available from EICV2.

(出所) National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Utilities and Amenities, p.71 <http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-utilities-and-amenities>

(2013/02/27 アクセス)

添付 1. 参考文献リスト

- Ministry of Finance and Economic Planning, EDPRS: Lessons Learned 2008-2011, http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/EDPRS%20lessons%20learned%202008_2011.pdf (2013/02/27 アクセス)
- IMF(2012) Rwanda: Fourth Review Under the Policy Support Instrument and Request for Modification of Assessment Criteria—Staff Report; Press Release, Country Report No. 12/152
<http://www.imf.org/external/pubs/ft/scr/2012/cr12152.pdf> (2013/02/27 アクセス)
- National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Third Integrated household Living Conditions Survey (EICV3) Main Indicators Report
<http://www.statistics.gov.rw/publications/third-integrated-household-living-conditions-survey-eicv-3-main-indicators-report> (2013/02/27 アクセス)
- National Institute of Statistics of Rwanda (NISR), Ministry of Health (MOH) and ICF International (2012) Rwanda Demographic and Health Survey 2010.
<http://www.statistics.gov.rw/survey/demographic-and-health-survey-dhs>
(2013/02/27 アクセス)
- National Institute of Statistics of Rwanda (2012) The Evolution of Poverty in Rwanda from 2000 to 2011: Results from the Household Surveys (EICV)
<http://statistics.gov.rw/publications/evolution-poverty-rwanda-2000-2011-results-household-surveys-eicv> (2013/02/27 アクセス)
- National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Gender
<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-gender>
(2013/02/27 アクセス)
- National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Youth
<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-youth>
(2013/02/27 アクセス)

- National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Utilities and Amenities
<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-utilities-and-amenities>
 (2013/02/27 アクセス)
- National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Economic Activities
<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-economic-activity>
 (2013/02/27 アクセス)
- National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Agriculture
<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-agriculture>
 (2013/02/27 アクセス)
- National Institute of Statistics of Rwanda (2012) EICV 3 Thematic Report: Education
<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-3-thematic-report-education>
 (2013/02/27 アクセス)
- Ministry of Youth and ICT (2012) Rwanda ICT Sector Profile-2012
<http://admin.theiguides.org/Media/Documents/Rwanda-ICT-Profile-2012.pdf>
 (2013/02/27 アクセス)
- WFP (2012) Rwanda: Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey (Data collected in March-April2012)
<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp255144.pdf>
 (2013/02/27 アクセス)
- UNCTAD(2012) The Least Developed Countries Report 2012, Harnessing Remittances and Diaspora Knowledge to Build Productive Capacities
http://unctad.org/en/PublicationsLibrary/ldc2012_en.pdf (2013/02/27 アクセス)

- UN Security Council, Letter dated 12 November 2012 from the Chair of the Security Council Committee established pursuant to resolution 1533(2004) concerning the Democratic Republic of the Congo addressed to the President of the Security Council, S/2012/843
http://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BFCF9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4F-F96FF9%7D/s_2012_843.pdf (2013/02/27 アクセス)
- UN Security Council, Statement by the President of the Security Council, 2012, S/PRST/2012/22
http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/PRST/2012/22
 (2013/02/27 アクセス)
- House of Commons, International Development Committee, UK Aid to Rwanda, Seventh Report of Session 2012-2013, HC 726, Published on 30 November 2012
<http://www.publications.parliament.uk/pa/cm201213/cmselect/cmintdev/726/726.pdf>
 (2013/02/27 アクセス)
- UNDP(2011) Explanatory note on 2011 HDR composite indices, Rwanda
<http://hdrstats.undp.org/images/explanations/RWA.pdf> (2013/02/27 アクセス)
- World Bank (2011) Migration and Remittances Factbook 2011
<http://siteresources.worldbank.org/INTPROSPECTS/Resources/334934-1199807908806/Rwanda.pdf> (2013/02/27 アクセス)
- Ted Dagne (2011) Rwanda : Background and Current Development, CRS, R40115
http://assets.opencrs.com/rpts/R40115_20110429.pdf (2013/02/27 アクセス)
- IFAD(2011) Country results Brief
<http://www.ifad.org/governance/replenishment/briefs/rwanda.pdf>
 (2013/02/27 アクセス)
- IFAD(2011) Republic of Rwanda, Country Programme Evaluation
<http://www.ifad.org/evaluation/events/2011/rwanda/doc/report.pdf>
 (2013/02/27 アクセス)

- Nicola Cantore (2011) The Crop Intensification Program in Rwanda: a sustainability analysis
<http://www.odi.org.uk/sites/odi.org.uk/files/odi-assets/publications-opinion-files/7094.pdf>
 f (2013/02/27 アクセス)
- IMF(2011) Rwanda:Financial System Stability Assessment
<http://www.imf.org/external/pubs/ft/scr/2011/cr11244.pdf> (2013/02/27 アクセス)
- Abbott, P. and Rwirahira, J (2010) Millennium Development Goals Progress Report Rwanda Country Report 2010. Kigali: UNDP
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/MDG%20Progress%20Report_Rwanda%20Country%20Report%202010.pdf (2013/02/27 アクセス)
- Ministry of Finance and Economic Planning (2009), Annual Report on the Implementation of the Economic Development and Poverty Reduction Strategy (EDPRS)-2008, http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/EDPRS_APR_2008.pdf
 (2013/02/27 アクセス)
- WFP (2009) Rwanda: Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis and Nutrition Survey July 2009 (Data collected in February-March 2009)
<http://www.wfp.org/content/rwanda-comprehensive-food-security-and-vulnerability-analysis-2009> (2013/02/27 アクセス)
- Angelique Kantengwa (2009) Financial Cooperatives in Rwanda - Historical Background and Regulation, Background Papers for 28-30 April 2009 "Cooperatives in a world in crisis" organized by the Division for Social Policy and Development of the United Nations Department of Economic and Social Affairs (UNDESA) in coordination with the International Cooperative Alliance (ICA) in New York
<http://www.un.org/esa/socdev/egms/docs/2009/cooperatives/Kantengwa.pdf>
 (2013/02/27 アクセス)
- National Institute of Statistics of Rwanda (2007) Millennium Development Goals Towards sustainable social and economic growth Country Report 2007,
<http://www.undp.org.rw/MDGs-NOV2007.pdf> (2013/02/27 アクセス)

- National Institute of Statistics of Rwanda (2007), EICV Poverty Analysis for Rwanda's Economic Development and Poverty Reduction Strategy
<http://statistics.gov.rw/publications/eicv-poverty-analysis-rwandas-economic-development-and-poverty-reduction-strategy> (2013/02/27 アクセス)
- The Republic of Rwanda (2007), Economic Development & Poverty Reduction Strategy 2008-2012
http://devinforwanda.gov.rw/sites/default/files/EDPRS_2008-2012_English.pdf
 (2013/02/27 アクセス)
- World Bank (2007) Rwanda:Toward Sustained Growth and Competitiveness,
<http://siteresources.worldbank.org/INTDEBTDEPT/Resources/468980-1207588563500/4864698-1207773080407/37860RW.pdf>
 (2013/02/27 アクセス)
- UNDP (2008) Assessment of Development Results Evaluation of UNDP Contribution, Rwanda
http://web.undp.org/evaluation/documents/ADR/ADR_Reports/Rwanda/ADR_Rwanda_full_report.pdf (2013/02/27 アクセス)
- Elizabeth Powley (2004) United Nations Office of the Special Adviser on Gender Issues and Advancement of Women (OSAGI) Expert Group Meeting on “Enhancing Women’s Participation in Electoral Processes in Post-Conflict Countries” 19-22 January 2004, EGM/ELEC/2004/EP.5
<http://www.un.org/womenwatch/osagi/meetings/2004/EGMelectoral/EP5-Powley.PDF>
 (2013/02/27 アクセス)
- Rwanda (2000) Vision 2020, http://www.minecofin.gov.rw/webfm_send/1699
 (2013/02/27 アクセス)
- Catharine Newbury, Hannah Baldwin (2000) Aftermath :Women in Postgenocide Rwanda, Working Paper No.303
http://pdf.usaid.gov/pdf_docs/pnaci323.pdf (2013/02/27 アクセス)

添付 2. 主要な情報源リスト

JICA 研究所 <https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/shihyo-p.html>

IDE/JETRO <http://www.ide.go.jp/Japanese/Research/Region/Africa/Rwanda/>

ルワンダ国官庁

ルワンダ政府 <http://www.gov.rw/>

財務省 <http://www.minecofin.gov.rw/>

外務・協力省 <http://www.minaffet.gov.rw/>

ルワンダ開発評議会 (Rwanda Development Board)

<http://www.rdb.rw/departments/trade-and-manufacturing/trade-statistics.html>

中央統計局 <http://statistics.gov.rw/>

DevInfo Rwanda <http://devinforwanda.gov.rw/>

国際機関

国連開発グループ 国別チーム ルワンダ

<http://www.undg.org/unct.cfm?module=CoordinationProfile&page=Country&CountryID=RW&fuseaction=UN%20Country%20Coordination%20Profile%20for%20Rwanda>

国連開発計画 (UNDP) ルワンダ国 www.undp.org.rw/

国際移住機構 (IOM) ルワンダ国 <http://www.iom.int/jahia/Jahia/rwanda>

国際連合食糧農業機関 (FAO) <http://coin.fao.org/cms/world/rwanda/Home.html>

世界銀行 (WB) ルワンダ国

アフリカ開発銀行 (AfDB) ルワンダ国 <http://www.afdb.org/en/countries/east-africa/rwanda>

貧困データ

世界銀行データ <http://data.worldbank.org/country/rwanda>

国連公式 MDG データ ルワンダ国 <http://mdgs.un.org/unsd/mdg/Data.aspx>

UNDP 人間開発指標 ルワンダ国

<http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/RWA.html>